

第3次

富田林市子ども読書活動推進計画

令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）



とっぴー

令和5年3月

富田林市

はじめに

子どもにとって読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするものであり、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。



しかし、近年社会の急激な変化に伴い、幼児期から本に親しむ時間や機会の減少による読書離れが指摘されています。インターネットやスマートフォン等の情報通信機器の急速な発展と多様化により多くの情報が溢れ、子どもを取り巻く社会環境が急速に変化しています。生活の利便性を向上させる一方で、子どもの読書環境にも大きな影響を与えております。

子どもは、読書を通じて、読解力、想像力、思考力、表現力を養うとともに、知識を深め、多様な文化を理解することができるようになります。このような読書で培われる力を育むために、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、読書の幅を広げ、読書体験を深める機会を提供するとともに、SDGs 未来都市として子どもたちの豊かな育ちの実現のため、公平かつ質の高い教育を提供するために、読書環境の充実を一層推進いたします。

本市では、第2次計画期間における成果や課題を踏まえ、今後5年間の子どもの読書活動の指針として「第3次富田林市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

最後になりましたが、本計画の策定にあたりご尽力賜りました、「第3次富田林市子ども読書活動推進計画策定委員会」の委員の皆様をはじめ、アンケート調査へのご協力と貴重なご意見をいただきました市民並びに各種関係団体の皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

令和5年（2023年）3月



富田林市長 吉村 善美

目次

第1章 第3次子ども読書活動推進計画の策定にあたって	1
第2章 第2次計画における取り組みと成果・課題	3
1. アンケートに見る成果・課題	3
（1）子ども読書活動推進に関する現状の調査	3
（2）子どもの読書に関するアンケート	9
（3）4か月児健診受診保護者アンケート	21
2. 基本目標から見る取り組みと成果・課題	24
（1）家庭・地域・学校での読書の機会と環境の充実	24
（2）地域・学校・図書館などの連携	33
（3）読書推進の啓発	36
3. 前計画期間の数値目標の検証	39
第3章 第3次子ども読書活動推進計画の推進に向けた取り組み	42
1. 家庭・地域・学校での読書の機会と環境の充実	42
（1）家庭における子ども読書活動の取り組みと方向性	42
（2）地域における子ども読書活動の取り組みと方向性	43
（3）保育園・幼稚園・認定こども園における子ども読書活動の取り組みと方向性	45
（4）学校における子ども読書活動の取り組みと方向性	46
（5）図書館における子ども読書活動の取り組みと方向性	47
2. 第3次子ども読書活動推進計画の推進のために	49
（1）推進体制の整備	49
（2）人材の育成・研修、協力体制	49
（3）啓発・広報	49
（4）第3次計画における数値目標	50
資料	51
富田林市の子ども読書活動推進に関する現状の調査の実施について	52
子どもの読書活動の推進に関する法律	91
第3次子ども読書活動推進計画策定までの経過	93
第3次子ども読書活動推進計画策定委員名簿	94

第1章 第3次子ども読書活動推進計画の策定にあたって

本市では、平成30年3月に「第2次富田林市子ども読書活動推進計画」（以下「第2次計画」という。）を策定しました。そして関係部署、関係団体などが連携を図り、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的に環境整備の推進を図ってきました。この間、国は平成30年4月に「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、大阪府は令和3年3月に「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」を策定しました。

本市では、平成29年3月策定された「富田林市総合ビジョンおよび総合基本計画（平成29年度～平成38年度）」において、10年間の基本指針を示しました。そのうち「総合ビジョン」では、「分野別施策」の「1. 未来への希望を育む子育て・教育」において“未来を担う子どもたちが主体的に学び、これからの社会に活かすことができる教育の提供や、若者の育成、誰もが学び続けることができる生涯学習環境づくりを推進します。”と述べ、「総合基本計画」においては、「生涯を通じた学びの推進」における「目標実現のための施策」の1つに“図書館サービスの充実”を掲げるとともに、“学校やボランティア団体等と連携しながら、子どもの読書習慣の定着を促進します。”と述べています。

また、令和2年9月に「第2期富田林市教育大綱」を策定しました。ここでは、基本方針の1つに「生涯にわたり、豊かな人生が送れるよう、生涯学習環境を整備します。」と掲げ、“市民の誰もが、本に親しみ、読書を楽しみ、本を使って学ぶ喜びが体験できるよう、図書館を中心に関係機関と連携し読書環境の充実に努めます。”と図書館事業の充実を掲げています。

図書館では、本市のこうした方針を踏まえ、さらに上述の「第1次計画」「第2次計画」策定より今日に至るまで、読書環境の整備・充実に取り組んできました。しかし、近年インターネットやスマートフォンの急速な普及により、それらを活用した SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などコミュニケーションツールの多様化は、子どもたちの読書生活に大きな変化をもたらしています。加えて、令和2年からの新型コロナウイルス感染拡大の波は市民生活全般に大きな影響を及ぼしました。子どもたちの学習環境や読書環境にも影響が及び図書館の各種サービス、とりわけ乳幼児に対するサービスは制限せざるを得ませんでした。

今後も家庭・地域・学校等が連携し、子どもたちの生活や成長の過程において切れ目のないサポートを行い、子どもの読書活動を推進する必要があることから、「第3次富田林市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

目 的 : 常に子どものそばに本のある環境の継続をめざし、子どもの読書活動を支援する人を増やすこと、その知識やスキルアップを図り、人々の連携の強化によって子どもの読書活動のさらなる推進をめざします。

基本目標 : 子ども読書活動推進のために、以下の目標を定めます。

- ① 家庭・地域・学校での読書の機会と環境の充実
- ② 地域・学校・図書館などの連携
- ③ 読書推進の啓発

計画の期間 : 令和5年度(2023年度) ~ 令和9年度(2027年度)

これまでの国・府の動向

国は子どもの読書活動を支援するため、平成12年を「子ども読書年」とし、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。同法では、すべての子どもがあらゆる機会に自主的に読書活動が行えるよう環境の整備が推進されることを基本理念として定め、国や地方公共団体の責務を明らかにするとともに、「子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」を策定・公表することを定めています。

この法律に基づき、国は平成14年8月に「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(以下「基本計画」という。)を策定しました。さらに5年毎に計画の見直しを行い、平成30年4月には「第四次基本計画」を策定しています。「第四次基本計画」では、基本計画推進のための主な方策として、発達段階に応じた取り組みにより読書習慣を形成し、友人同士で行う活動等を通じ読書への関心を高めることなどが盛り込まれています。

また大阪府は、平成15年1月に「大阪府子ども読書活動推進計画」(以下「大阪府計画」という。)を策定しました。その後、平成23年3月に「第2次大阪府計画」を策定、その後5年毎に計画を見直し、令和3年3月に「第4次大阪府計画」を策定しています。「第4次大阪府計画」では、基本方針として「発達段階や生活の場に応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境整備をするために、大阪全体で取り組む」としています。

第2章 第2次計画における取り組みと成果・課題

ここでは、第2次計画が令和5年3月に5年の計画期間を終えることから、当該5年間（平成30年4月～令和5年3月）の取り組みを検証し、その成果と課題についてまとめました。

まず、第1次計画・第2次計画策定時にも実施した「富田林市の子ども読書活動推進に関する現状の調査」を本計画時にも改めて実施し、その結果から本市における読書活動と読書環境の現状を把握・分析しました。次に、児童生徒（小3・小6・中3）を対象に読書調査を行い、今回の結果を10年前・5年前の調査結果と比較して、子どもたちの読書状況や読書環境の変化を把握しました。さらに、4か月児健診受診保護者を対象にアンケート調査を行い、乳児への読み聞かせについての現状把握に努めました。

なお、今回の調査では、いずれの調査も前回調査より回収率が低下しているため、現状の把握・分析と調査結果の比較には注意が必要と思われます。調査結果の詳細は巻末の「資料」P51～P90をご覧ください。

1. アンケートに見る成果・課題

(1) 子ども読書活動推進に関する現状の調査

①保育園・幼稚園・認定こども園

所蔵冊数について、保育園は、一定程度の増加が認められます。幼稚園では、今回回答されたすべての園で500冊を超えており、3,001冊以上の幼稚園も2園ありました。一方、認定こども園では、所蔵冊数500冊以下が2園ありました。これらの園では、リサイクル図書を活用するなどして蔵書の充実を図ることが必要と思われます。

団体貸出については、前回調査から減少したものの、幼稚園の半数が、幼稚園つつじ号（移動図書館）を利用して園児たちが直接本を選ぶことで団体貸出を行っています。その一方、保育園での団体貸出の利用は4園、認定こども園ではゼロとなっています。「行く機会（余裕）がない」「図書館が遠い」などがその理由ですが、保育園からは、「移動図書館の充実。できれば園に来てほしい」との声が寄せられており、幼稚園つつじ号と同様のサービス手段を整備する必要があると思われます。

各園での読み聞かせについては、保育園や認定こども園では保育士による読み聞かせが、また、幼稚園では幼稚園教諭や保護者・ボランティアによる読み聞かせが、継続して活発に行われていることがわかります。

市立図書館に望むことでは、「子ども向けの資料の整備・充実」と「学校・幼稚園・保育園等への支援」が最も多く、次いで「外国にルーツのある子どもの支援」と「障がいのある子ども

もの支援」を求める声が多くなっています。後二者は今回の調査で初めて選択肢に挙げられたものですが、社会状況の変化によりニーズが多様化していることがうかがえます。SDGsに掲げられた「包摂的で公正な社会」「誰一人取り残さない」などの理念を実現するためにも、継続して取り組むべき課題と言えます。

②小学校

所蔵冊数は、前回調査で3校あった8,000冊以下の学校がなくなり、一方で10,001冊以上の学校が4校増加して12校となりました。年間図書購入冊数は前回調査から大幅に増えていないことから、本市図書館によるリサイクル図書の周知によってその利用が進んだものと考えています。

授業中の学校図書館利用状況は、前回調査と同様、様々な教科で活用されていることがわかります。

朝の読書の時間については、前回調査ではすべての小学校に読書時間が設けられていましたが、今回の調査では「設けていない」と回答した学校が2校ありました。また、前回調査では毎朝実施している学校が2校、「週4回」と「週3回」が各1校ありましたが、今回調査では「毎朝」が1校、「週4回」「週3回」がいずれもゼロとなり、それ以外の学校は「週1回」または「週2回」の実施となっています。この点はやや後退した感が否めません。

また、その効果については、前回調査ですべての学校が「読書習慣の定着」「読書が好きになる」と回答していましたが、今回の調査では、いずれもそのように回答した学校数が減り、特に「読書が好きになる」と回答した学校が約4割減っています。

子ども読書活動に関連するボランティアの活用については、大きな変化は見られませんが、効果が理解され定着していることがうかがえます。また、子ども読書に関するその他の取り組みについては、本市主催の企画に積極的に参加していることがうかがえます。

子どもの読書環境改善のための各校の取り組みでは、「蔵書の更新・充実」はもとより、「本の読み聞かせや本の紹介等の充実」を挙げている学校が多く見られ、学校司書の活躍がより一層期待されています。

市立図書館に望むことでは、13校が「子ども向けの資料の整備・充実」を挙げており、次いで「学校・園等への支援」が多くなりました。

今回の調査では、小・中学校に対し「タブレット端末を使った読書活動を行っているか」という設問を新たに加えました。その結果、小学校では4校が「行っている」、13校が「行っていない」うち1校は「検討中」という回答でした。「行っていない」主な理由は「電子書籍を

購入していない」でした。

③中学校

所蔵冊数は、前回調査では 9,000 冊以下の学校が 2 校ありましたが、今回の調査ではゼロとなり、9,001 冊以上 15,000 冊以下の学校が 6 校から 10 校に増えました。特に、13,001 冊以上 15,000 冊以下の学校が 1 校から 5 校になり、この 5 年間で読書環境が大幅に改善されたことがわかります。しかし、国の基準である学校図書館図書標準を上回った市立中学校は 8 校中 4 校にとどまっており、課題が解消されているとは言えません。

開館日数については、前回調査で「週 5 日」と回答した学校が 7 校、「週 3 日」が 3 校ありました。しかし、今回の調査では「週 3 日」が 1 校となり、代わりに「週 5 日」が 1 校増の 8 校、「週 2 日」がゼロから 2 校となっています。開館時間は、前回調査で「全日開館」が 1 校のみであったところ、今回の調査では 2 校に増加しました。また「放課後」開館が 3 校であったところが 4 校に増えており、環境と利便性の向上がうかがえます。

授業中の学校図書館利用状況は、前回調査よりも教科が減少し、幅広い教科での活用という点でやや後退したように感じます。また、朝の読書の時間については、前回調査では「設けている」が 9 校、「設けていない」が 1 校のみでしたが、今回調査では「設けている」が 8 校、「設けていない」が 3 校となりました。しかし、「設けている」8 校はすべて「毎朝」実施しており、この点は評価できます。

子ども読書活動に関連するボランティアの活用については、前回調査で 1 校だけが「学期に 1 回」利用していましたが、今回調査ではゼロとなりました。また、タブレット端末を使った読書活動についても、11 校すべてが「行っていない」という回答でした。主な理由は「電子書籍を購入していない」「学校にある本で十分」でした。

市立図書館に望むことでは、「子ども向けの資料の整備・充実」と「図書館からの情報発信」のどちらも挙げている学校が 5 校ありました。学校図書館と市立図書館のさらなる連携が求められています。

④高校

所蔵冊数は、前回調査では 10,000 冊以下の学校が 1 校、10,001 冊以上 20,000 冊以下が 2 校、20,001 冊以上 30,000 冊以下が 1 校ありましたが、今回の調査では 10,000 冊以下がゼロとなり、10,001 冊以上 20,000 冊以下が 1 校、20,001 冊以上 30,000 冊以下が 2 校となりました。この 5 年間で、読書環境が着実に改善されてきたことがわかります。年間

購入冊数に大きな変化は見られませんでした。

学校図書館の開館日数や時間帯についても、前回調査と大きな変化は見られませんでした。開館時間帯は全日開館している学校はなく、どの学校も昼休みと放課後に開館していることがわかります。

朝の読書の時間については、前々回の調査では1校の実施があり、前回調査でゼロでしたが、今回の調査では1校となりました。今後の継続が期待されます。

市立図書館に望むことでは、2校が「図書館からの情報発信」と回答しており、市立図書館が配布するYA通信※などに創意工夫を行うとともに、さらなる情報発信が求められています。

※ ヤングアダルト向け本の紹介印刷物

⑤支援学校

今回初めて調査を行いました。

児童・生徒数は356名で小学部、中学部、高等部の3部で構成されています。所蔵冊数は約2,000冊、年間購入冊数は約20冊です。

市立図書館の団体貸出については、「知らない」との回答でした。市立図書館の利用について積極的に情報提供を行い、利用促進に努める必要があります。

市立図書館に望むことでは、「本や教育についての情報提供」と「寄贈本・リサイクル本の譲渡」と回答しています。リサイクル図書の周知を含め、市立図書館からの情報発信の拡充が求められています。

⑥児童館

所蔵冊数は2,232冊で年間購入冊数が4冊であることから、本市図書館によるリサイクル図書の利用が進んでいることがうかがえます。

ボランティアによる読み聞かせやおはなし会についても、定期的に行われ、誕生会や季節の行事でも活発に行われていることがわかります。本の活用方法では、子どもが自由に本を見て楽しめるよう、子どもが本を手に取りやすい環境を整備しています。

市立図書館に望むことでは、「図書館からの情報発信」と「子ども読書ボランティアの育成と人材活用」と回答しており、児童館（地域）と市立図書館のさらなる連携が求められています。

⑦学童クラブ

前回調査では24クラブでしたが、今回の調査では31クラブに増加しました。在籍人数は

前回調査より26名の減少となっていることから、各クラブ少人数制のきめ細やかな支援が行われていることがうかがえます。

所蔵冊数は、前回調査で「501冊以上」と回答したクラブは1クラブでしたが、今回の調査では2クラブ増加し、3クラブとなりました。年間購入冊数は、「0冊」のクラブが前回調査の4クラブから9クラブに増加するなど、全体的に前回調査時より減少傾向にあることから、購入ではなく本市図書館におけるリサイクル図書の利用が進んだものと考えられます。

団体貸出については、学童クラブ配本便を利用するなど、多くのクラブで利用促進が図られていますが、「破れた本が多い」「子どもが興味を持てる本、子どもに合った本が欲しい」などの意見をいただいています。

各クラブでの指導員による読み聞かせは、前回調査より減少傾向が見て取れます。「時間がない」など指導員が繁忙との理由もありますが、「子どもたちが自主的に読んでいる」「子どもたちが読みたがる」との回答も複数のクラブで散見されます。

保護者やボランティアによる読み聞かせについては、前々回の調査では13クラブが実施していましたが、前回調査では7クラブ、今回の調査では5クラブの実施にとどまっており、年々減少していることが確認できます。

市立図書館に望むことでは、「子ども向けの資料の整備・充実」の次に「図書館からの情報発信」を挙げているクラブが多くありました。学童クラブ配本便などを通じた市立図書館との連携を今後も継続します。

【まとめと課題】

第2次計画の実施により、保育園、幼稚園、認定こども園、小中高校、支援学校、児童館、学童クラブの読書環境は過去5年間で一定程度改善され、また、各施設での取り組みが定着している様子がうかがえました。例えば、所蔵冊数は各施設とも着実に増加しており、団体貸出も、幼稚園つつじ号の運行開始（令和元年）や学童クラブ配本便の便数増加で、利用が伸びました。保育園・認定こども園・幼稚園や小学校では読み聞かせが活発に行われており、幼稚園と小学校では市民ボランティアや保護者によるおはなし会も定期的に行われていることがわかりました。

一方、団体貸出については、認定こども園や支援学校で「知らない」との回答が見られたり、保育園・こども園・幼稚園のいずれでも「図書館が遠い」という理由で利用されていなかったり、さらには、ページの破れが多い、本や紙芝居の種類を増やしてほしいなどの声が寄せられるなど、まだまだ改善の余地があることもわかりました。また、市立図書館への要望では、「図書館からの情報発信」がすべての施設に多数見られました。

そのため、保育園・幼稚園等、小中高校・支援学校、児童館、学童クラブなどに対し、今後ますます連携を密にして、子どもの読書環境の改善に努めるとともに、読書活動の推進に取り組んでいく必要があります。また、子どもの読書活動を支え、推進していく人材を育成する取り組みを充実させていきます。

今回初めて調査をした「タブレット端末を使用した読書活動」については、小中学校の大半が「行っていない」という回答でしたが、今後の社会状況の変化によってどう変わるかを注視していく必要があります。



幼稚園つつじ号

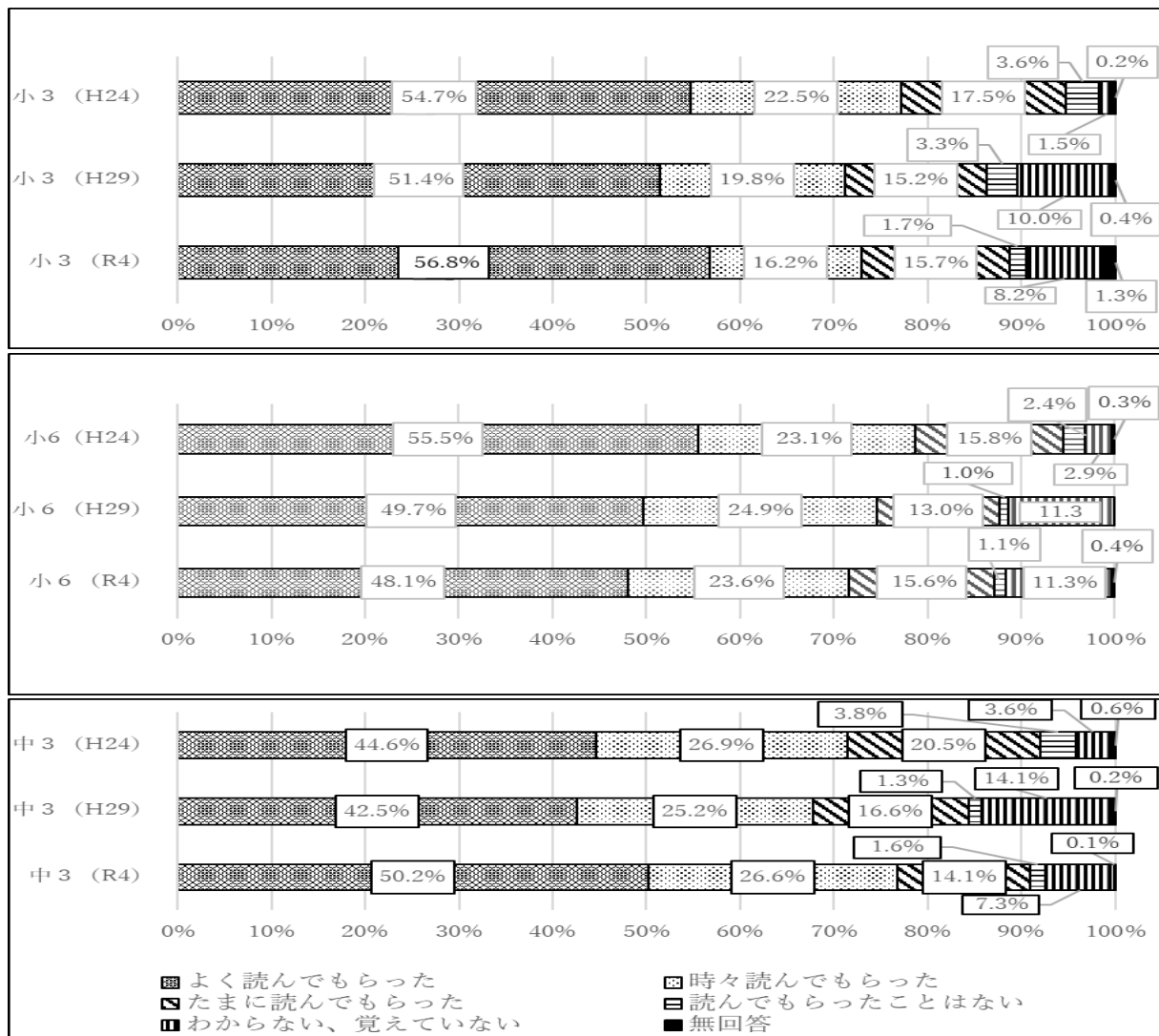


幼稚園つつじ号

(2) 子どもの読書に関するアンケート (小学3年生・小学6年生・中学3年生の読書活動) から

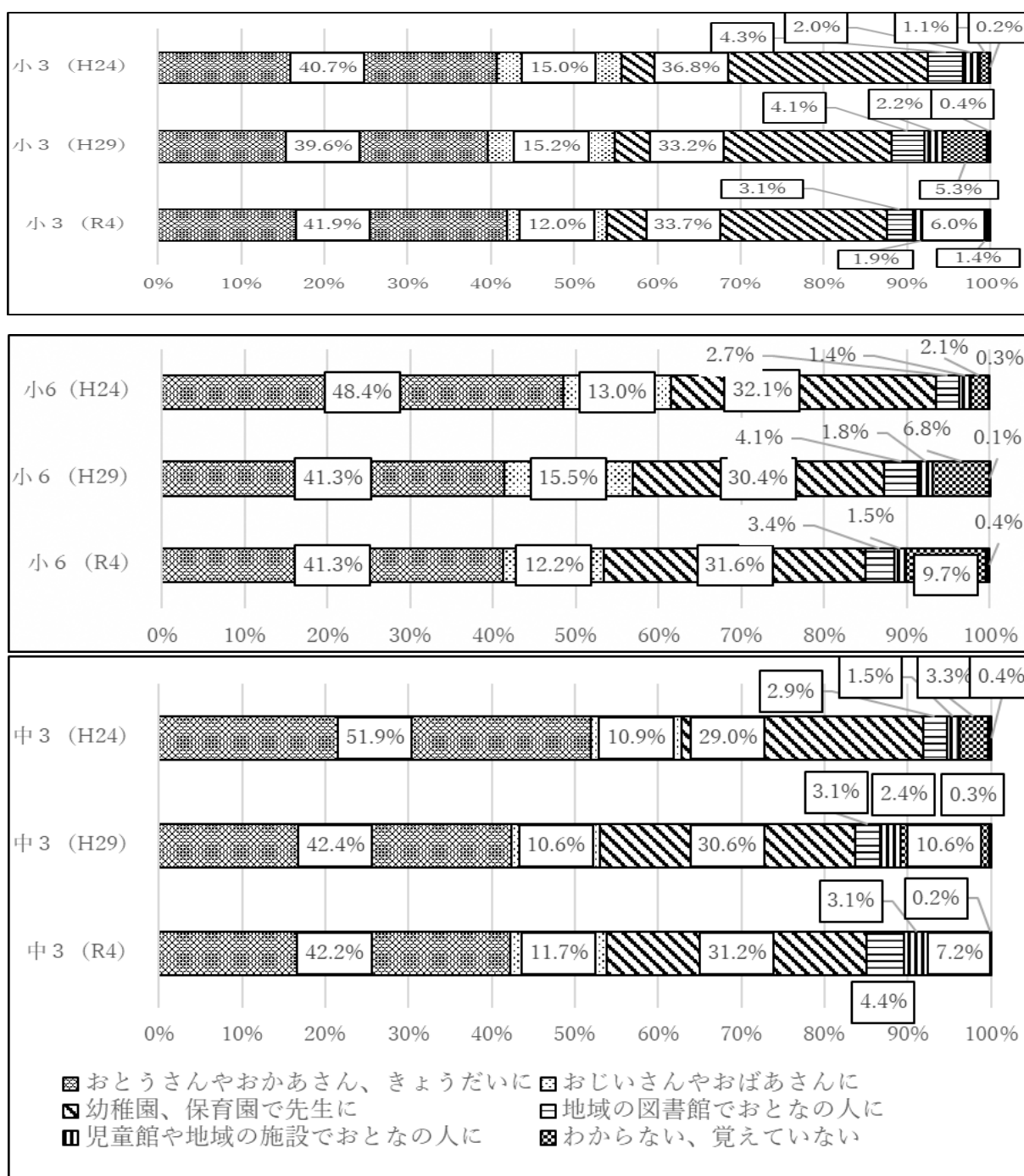
回答者数 H24年度調査／ 小3 933名 小6 1142名 中3 1111名 合計 3186名
 H29年度調査／ 小3 784名 小6 931名 中3 1119名 合計 2834名(回収率 94.7%)
 R4年度調査／ 小3 743名 小6 797名 中3 807名 合計 2347名(回収率 84.9%)

1.あなたは小さい頃、絵本や本を読んでもらいましたか。



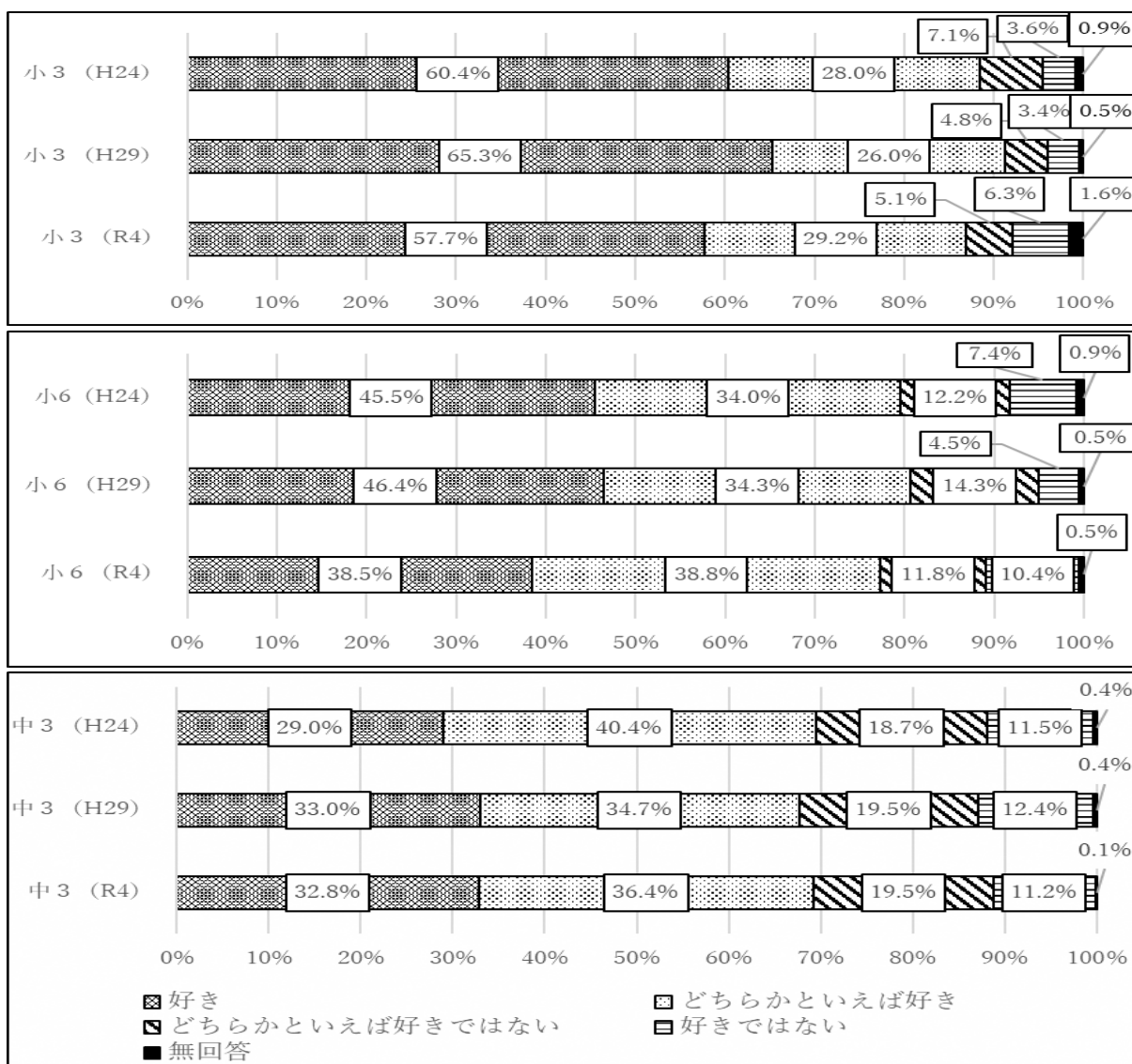
H29ですべての学年で減少していた「よく読んでもらった」の回答がR4では小3・中3で増加し、H24も上回りました。しかし「時々読んでもらった」「たまに読んでもらった」も合わせると、読んでもらった経験のある児童生徒の割合はすべての学年で減少傾向であり、特に小6は一貫して減少していることが注目されます。

2.それは、だれに読んでもらいましたか。



R4では父母、祖父母による家族での読み聞かせが減少もしくは横ばいの傾向で、いずれの学年も53%台でした。一方、幼稚園・保育園、地域の施設で読んでもらった体験が、小3で減少、小6でほぼ横ばいでした。令和2年2月からの新型コロナウイルス感染予防措置が要因となり、施設での読み聞かせの機会が減少したと考えられます。

3.読書が好きですか。



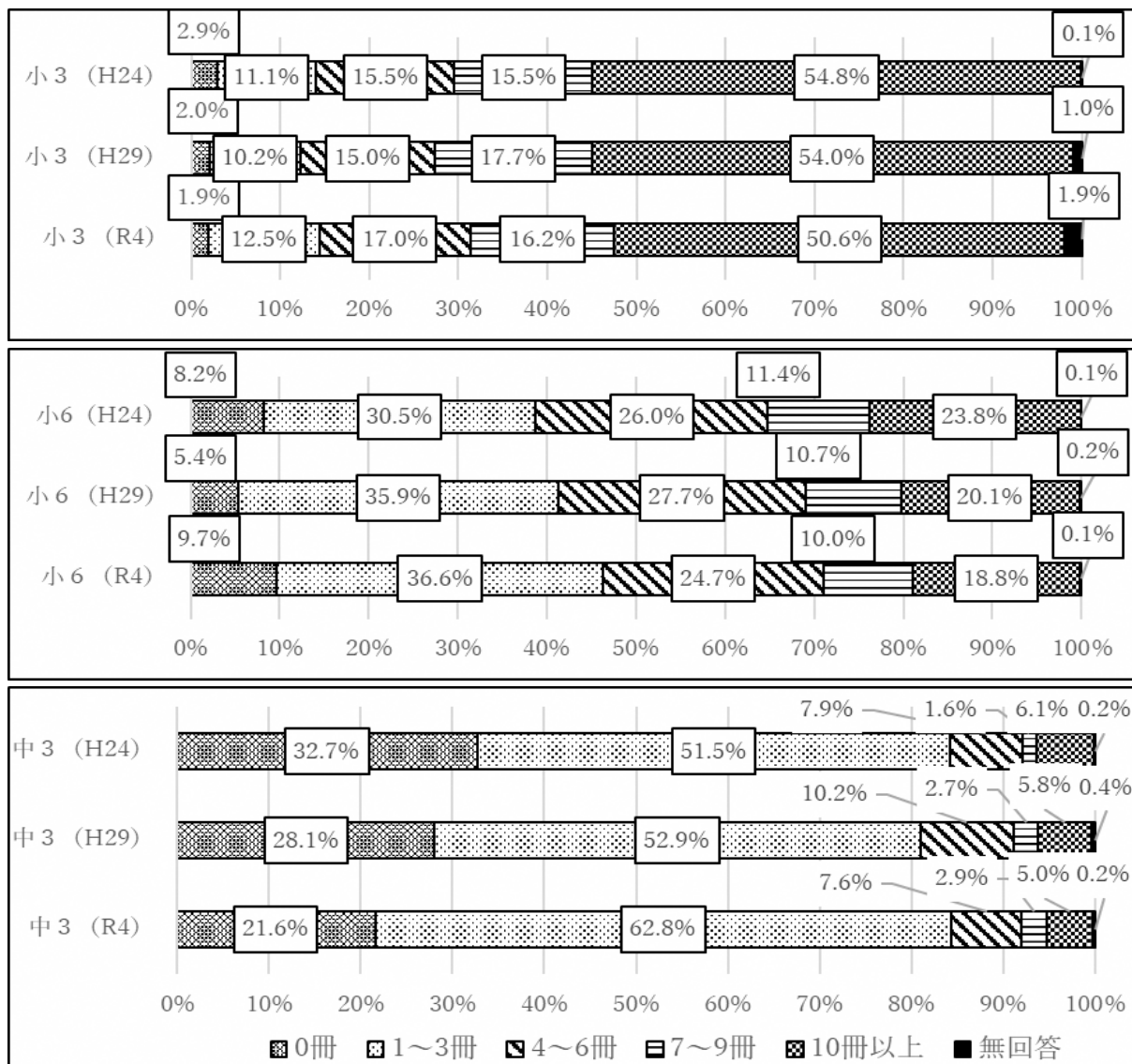
いずれの学年でも「好き」「どちらかといえば好き」が約70～90%弱を占めますが、小3・小6で減少傾向です。中3では以前から「好き」「どちらかといえば好き」の割合が小3・小6よりも少ないですが、10年間では大きな変化はありません。「どちらかといえば好きではない」「好きではない」の割合がR4では学年が上がるにつれて10%ずつ増加しています。

質問3で「好きではない」を選んだ人は教えてください。それはなぜですか。 (単位：人)

	つまらない	めんどうくさい	読みたい本がわからない	他に好きなことがある	文字を読むのがきらい	忙しい
小3	10	11	22	29	41	10
小6	32	33	26	55	55	10
中3	59	71	47	73	65	23

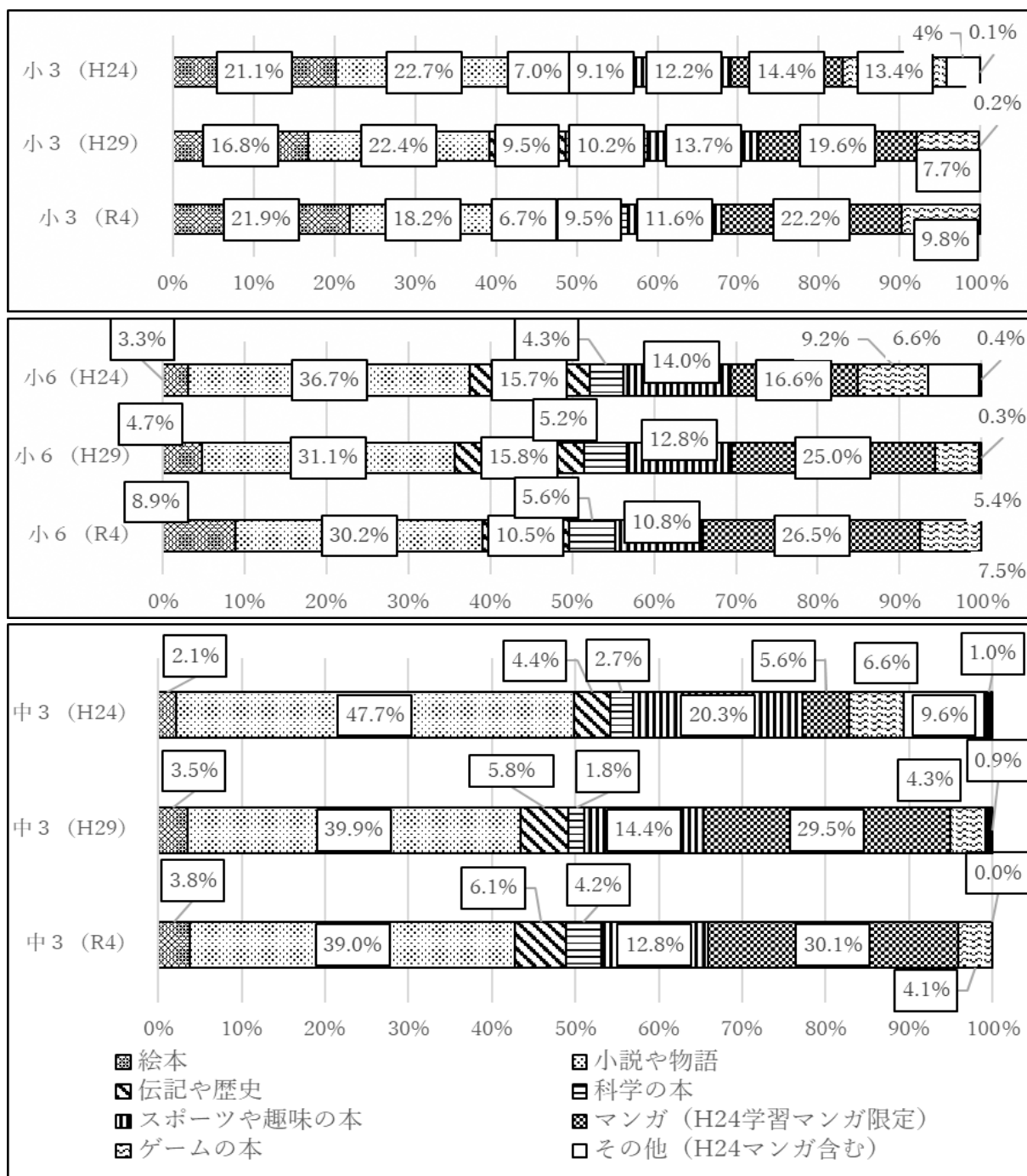
「読書が好きではない」と答えた理由を見ると、小3・小6で「文字を読むのがきらい」「他に好きなことがある」が多く、中3では「他に好きなことがある」「めんどくさい」「文字を読むのがきらい」となっています。「読みたい本がわからない」「つまらない」と答えた児童生徒も少なからずいることから、読書が楽しいものであると印象付けられるように、おはなし会やブックトークに触れる機会を増やすことが望まれます。

4.この6月中で何冊ぐらい本を読みましたか。



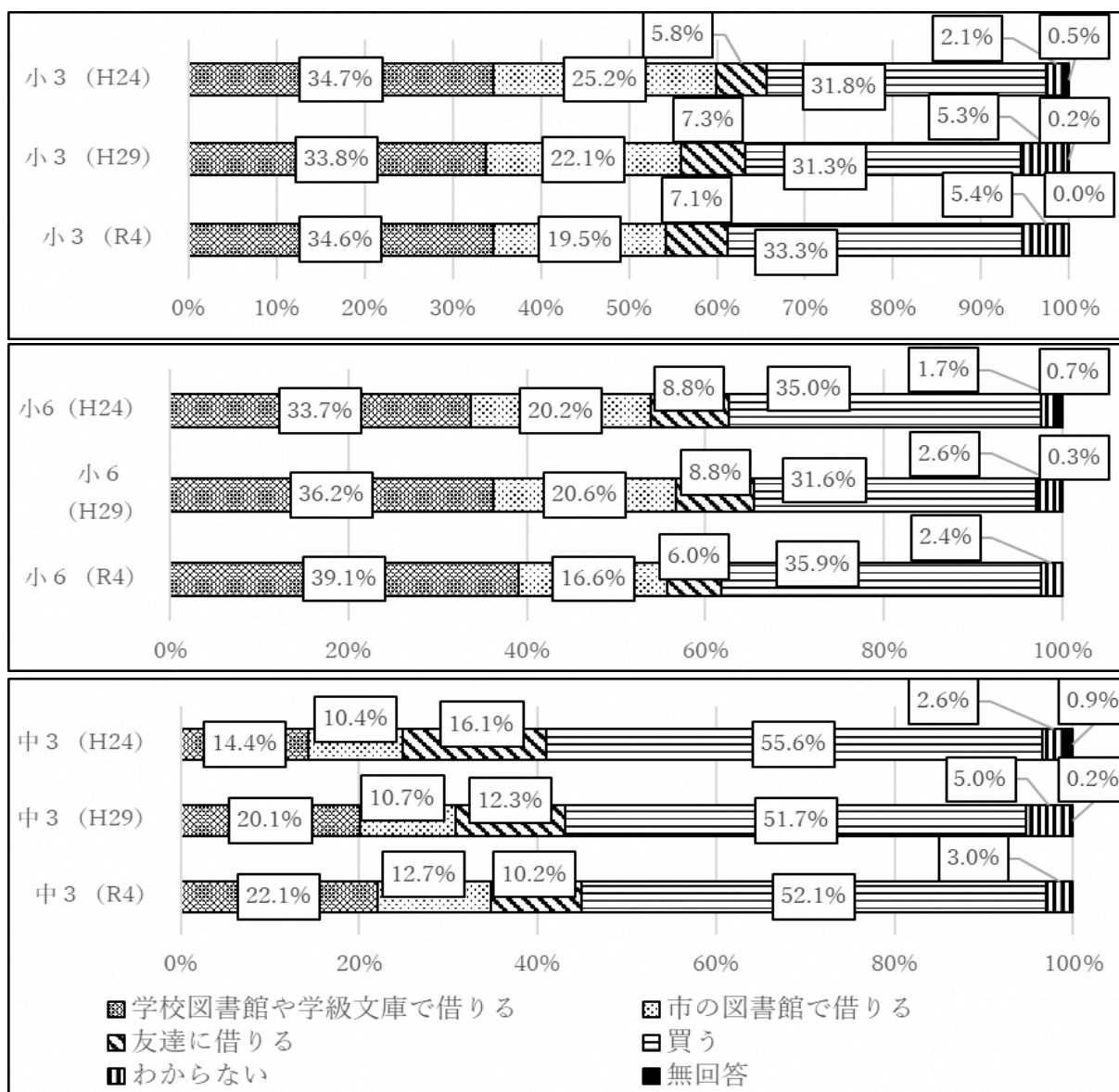
1冊も読んでいないという回答が小3では1.9%と少数ですが、小6では10%近くに増加しました。一方、中3では「0冊」の回答が減少し続けており、R4では20%強となりました。また、本を読む児童の割合は、小3で96.3%、小6で90.1%と大変高く、中3でも78.3%と80%近くが本を読んでいることがわかります。

5.あなたは主にどんなものをを読みますか。(3つまで)



小3では全分野を幅広く読んでいますが、「絵本」「マンガ」の占める割合が増加しています。小6・中3と段階的に分野の偏りが表れています。学年ごとではH29とR4の傾向に大きな変化は見られませんが、小6・中3での「小説や物語」と「マンガ」の占める割合が圧倒的です。フィクションを楽しむ一方で、スポーツ以外の各分野での読書が少ないことから、年齢や理解力に見合った資料を選べるような手立てが必要であると考えます。市立図書館ではYAコーナーを設置し、本の紹介リーフレットを隔月に作成して中学校に配布しています。

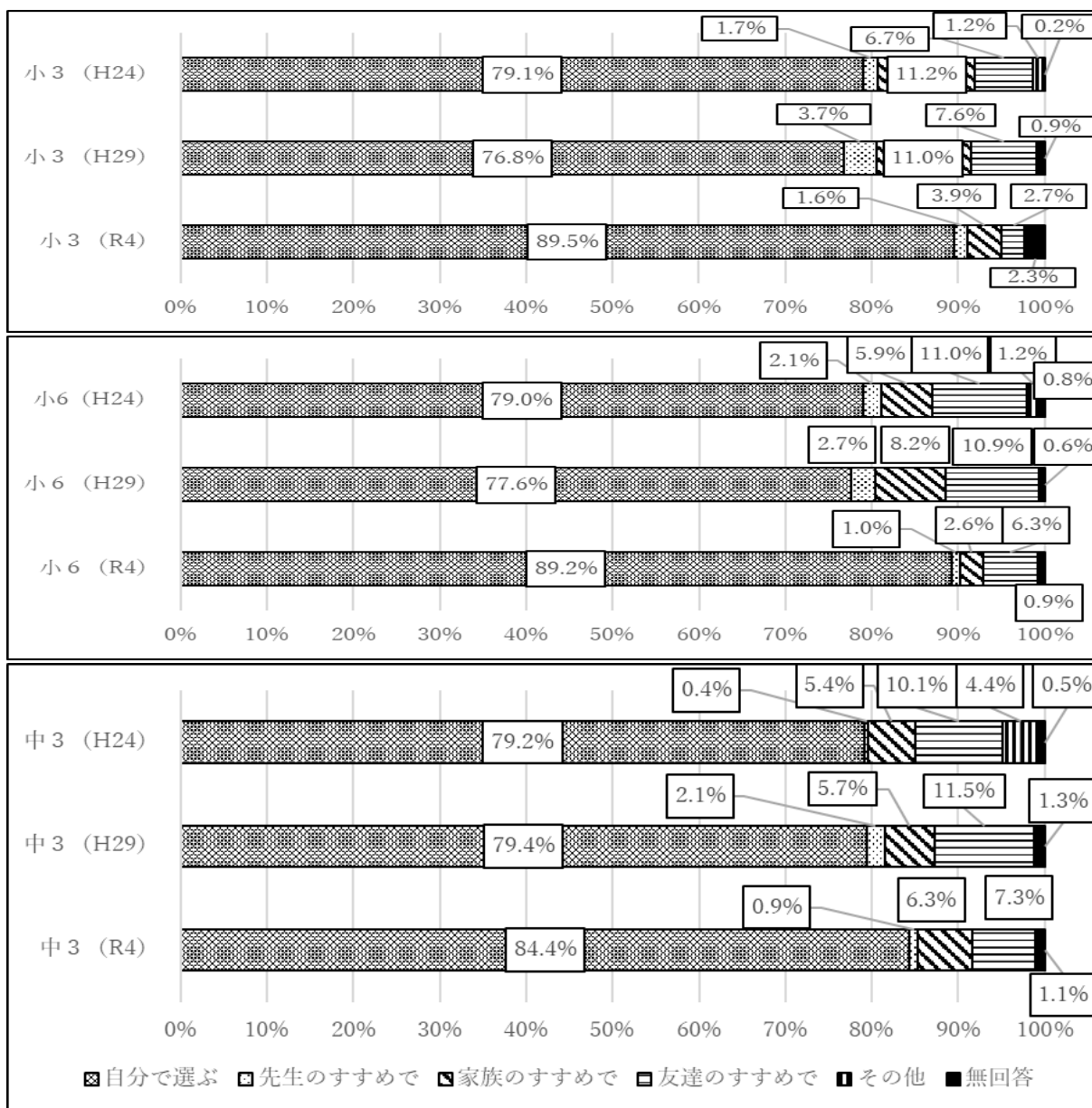
6.読みたい本はどのようにして手に入れますか。(教科書、マンガ、雑誌以外で) (いくつでも)



すべての学年で「学校図書館や学級文庫で借りる」が増加しており、中3では10年前から7.7%増加しています。さらに中3は「市の図書館で借りる」も微増しており、学校図書館を利用する習慣ができることで、抵抗のない公共図書館の利用につながっていることが考えられます。

小3・小6では「市の図書館で借りる」が減少し続けています。令和2・3年に新型コロナウイルス感染症による市立図書館の臨時休館があり、外出自粛などの対策が子どもたちの読書活動に影響していることがうかがえます。

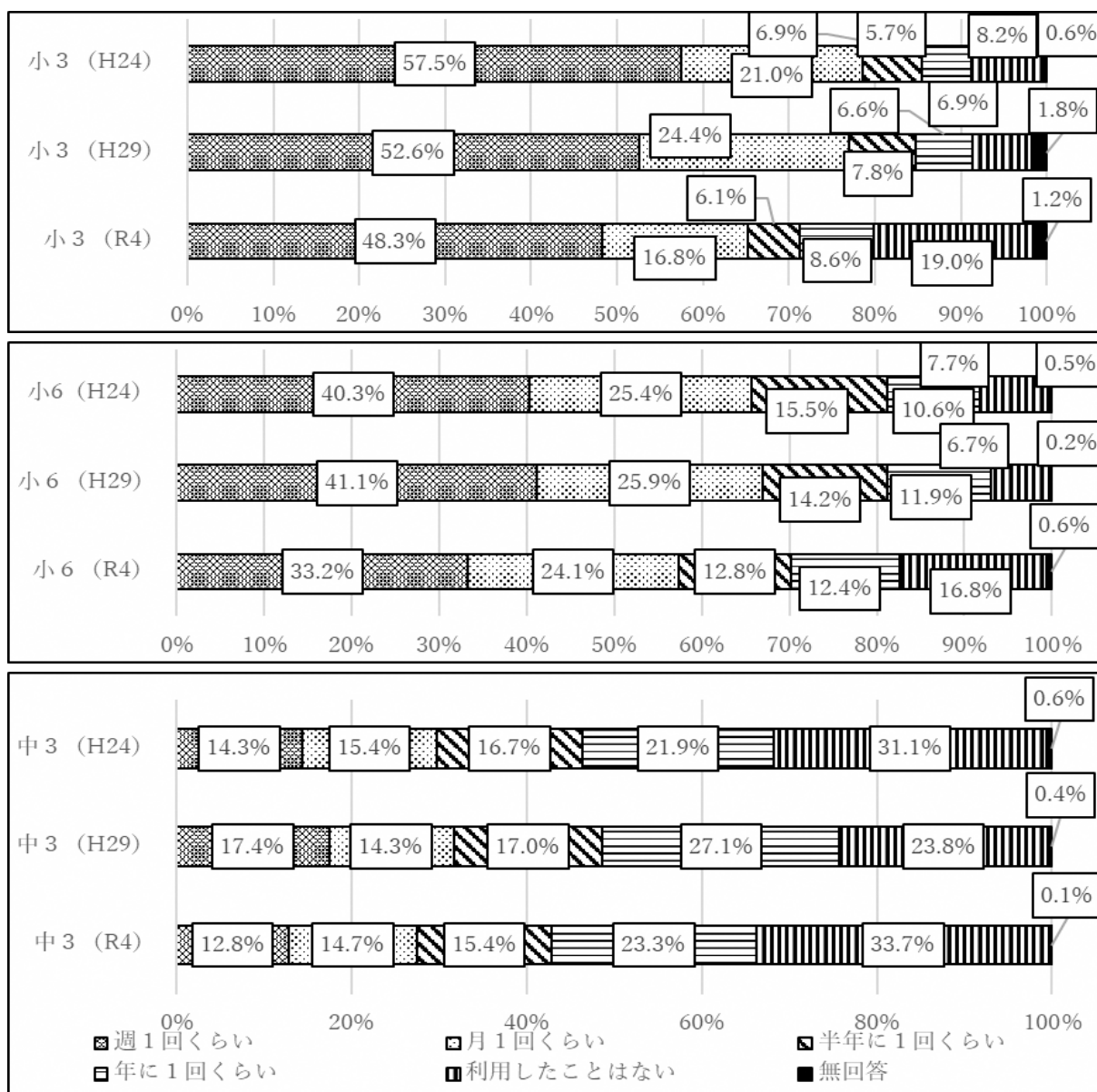
7.あなたは自分の読む本をどのようにして選んでいますか。(教科書、マンガ、雑誌以外で)



10年前と比較し、すべての学年で「自分で選ぶ」が大きく伸びています。「先生のすすめで」が前回の調査では一定の伸びを示していましたが、今回の調査ではすべての学年で半減したことが気になります。

市立図書館の学校への配本便であるブック便では、学校司書による各学年のカリキュラムに沿った資料手配が定着し、授業での資料準備には学校司書の存在が欠かせない状況がうかがえます。

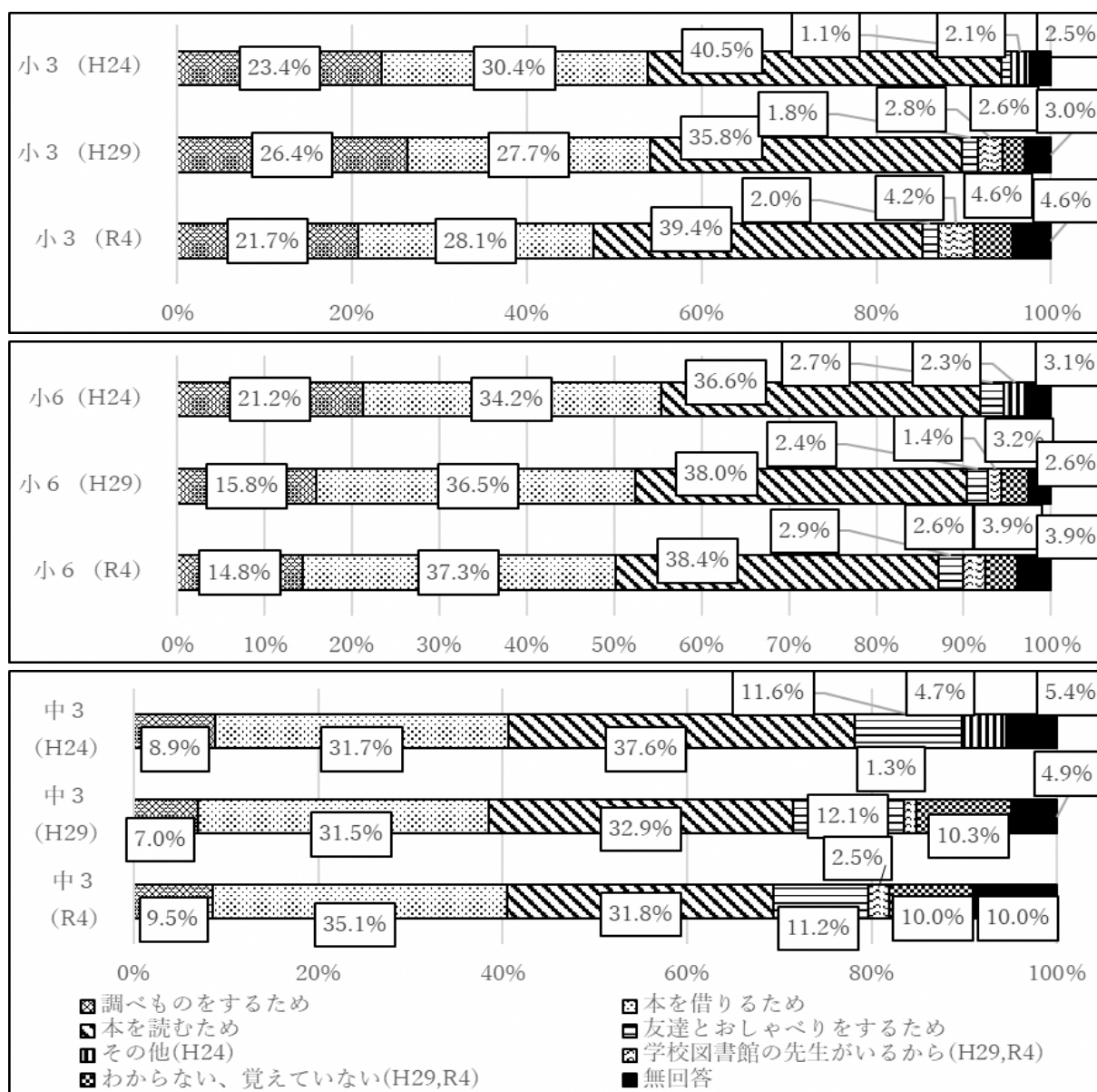
8.あなたは授業以外で学校図書館をどのくらい利用したことがありますか。



学校図書館を授業以外で「週1回くらい」利用するとの回答が、いずれの学年でも過去最低となり、「利用したことはない」が、前回調査と比較すると小3で2.8倍、小6で2.5倍も増えています。「半年に1回くらい」「年に1回くらい」と合わせると、授業以外では学校図書館をほとんど利用しない児童生徒の割合が、小3で33.7%、小6で42.0%、中3で72.4%となり、大変高いことがわかります。

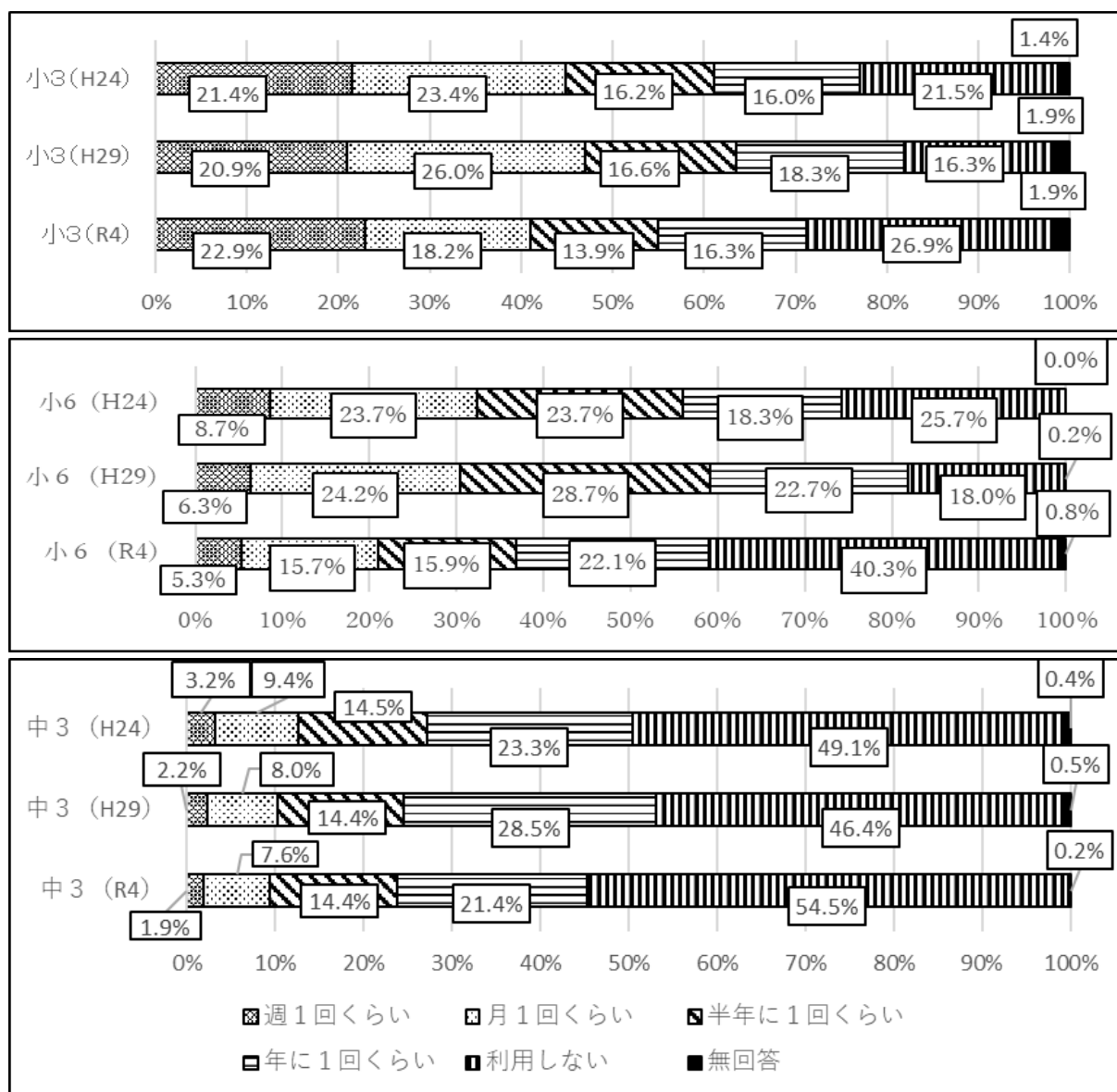
この問いで「利用したことはない」を選択した理由を見ると、小3の「その他」を除けば、「ほかの遊びがしたい」の次に「読みたい本がない」がいずれの学年でも多くなっています。興味を引く本の紹介が授業以外での利用につながると考えられます。

9.あなたは授業以外で学校図書館をなんのために利用しましたか。(いくつでも)



授業以外の利用目的では、「調べものをするため」「本を借りるため」「本を読むため」といった本来の図書館の利用目的が回答の大半を占めますが、「学校図書館の先生がいるから」との回答が、すべての学年で少数ながらも前回調査に比べて2倍の児童生徒が選択しています。施設が整備されているだけでなく、信頼できる学校司書の存在が学校図書館を利用するきっかけとなると考えられます。

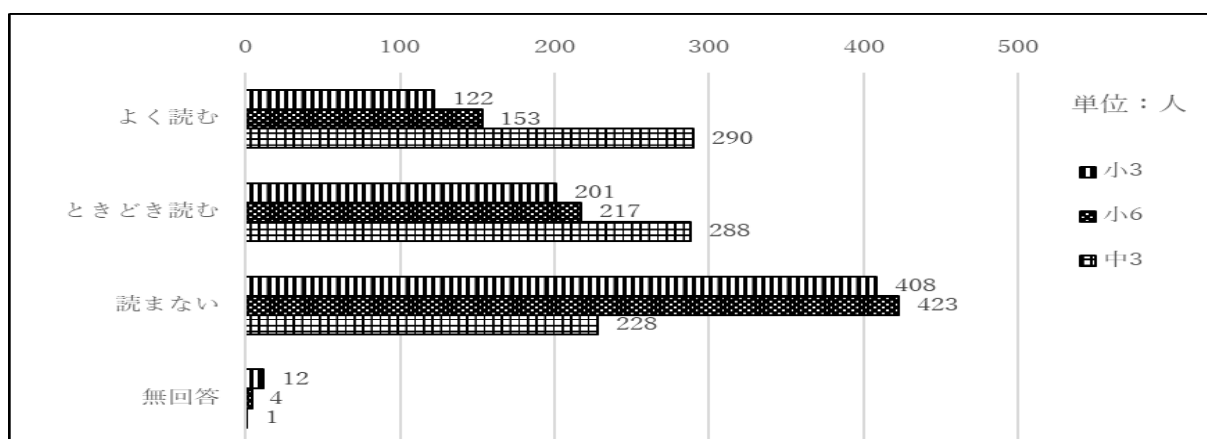
10.あなたは市の図書館をどのくらい利用しますか。



すべての学年で「利用しない」の値が増加しています。特に小3は、例年市立図書館が学校を訪問して行っている新1年生対象のオリエンテーションを新型コロナウイルス感染症の影響で実施を取りやめた学年にあたります。小6・中3の「利用しない」の回答の増加も顕著で、これは新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛や接触機会を控える等、生活習慣の変化が少なからず影響していると考えます。

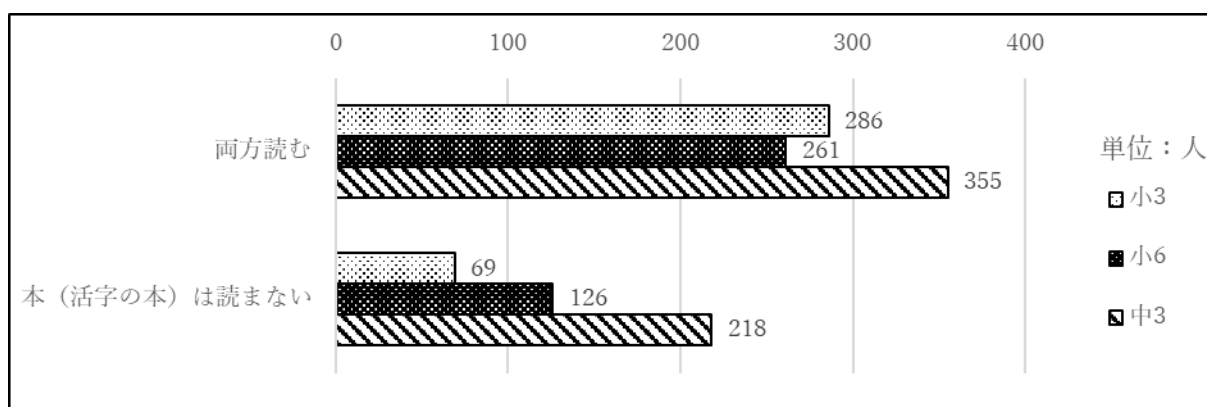
また、市の図書館を利用しない理由について、「時間がない」「図書館が遠い」「家に本がある」の回答が多数を占めますが、小3では図書館が遠くとも一定の利用頻度が認められるのは、保護者の関与が要因として挙げられると考えます。ブックスタート事業や、小学1年生へのオリエンテーションを通じて、保護者への利用啓発を継続することが効果的であると考えます。

11.パソコンやスマホ、タブレットで、物語やマンガなどを読んだことがありますか。



12.パソコンやスマホなどでの読書のほかに、本（活字の本）も読みますか。

問 11 で「よく読む」「ときどき読む」と答えた人だけ教えてください。



令和3年度に、GIGA スクール構想によりすべての小中学生にタブレットが配布されました。これを踏まえて今回の調査では、パソコンやスマホ、タブレット等での読書についての質問を新たに加えました。その結果、小3・小6はタブレット等で「読まない」が「よく読む」「ときどき読む」の合計を上回っていますが、中3では逆転しています。特に中3ではタブレット等で「読む」と回答した生徒の約38%が本（活字の本）は読まないと回答しています。

【まとめと課題】

第1次計画策定の際（平成24年）に児童生徒を対象に実施したアンケート調査から10年を経て、今回第3次計画策定にあたり、改めてアンケートを実施しました。富田林市子ども読書活動推進計画では、当初より各種の数値目標を定め、子どもの身近に読書環境を整えることを目標に、その達成に向けて各担当部局で情報を共有してきました。これまで、市内の子どもに関わる施設での読み聞かせや保護者への啓発、市内小学校での図書整備などで数値目標を達成しています。しかしながら、令和2年2月頃からの新型コロナウイルス感染症の影響が少なからず子どもたちの読書に影を落としていることも見過ごすことのできない現実です。その結果、市立図書館、学校図書館いずれも利用が減少しています。そんな中、外出自粛、接触機会制限の中にあっても、幼稚園、保育園での読み聞かせ経験は常に一定数を保っています。社会状況に左右されがちな子どもたちが安定した読書習慣を身に付けるために、家庭での教育はもちろんですが、子どもたちが長い時間を過ごす幼稚園、保育園、学校での大人の働きかけが肝要です。

読みたい本を手に入れるには、「学校図書館で借りる」との回答がすべての学年で増えていきます。授業以外での調べものに学校図書館を使うという回答も、高学年ほど増加しています。学校司書が子どもたちと本をつなぐ大きな役割を担っているということに他ならないと、子どもたちの回答が物語っています。

「読書が好き」という回答に調査期間を通して大きな変化は見られませんが、関連部署が主催している各読書感想文コンクールへの参加を促すこと、図書館から毎年配布している夏休みの読書におすすめの本のリストによる様々な分野の本の紹介など、今後も関連部署間の連携を深めます。このことにより、子どもが一層本に興味を持ち、幅広い分野の読書が子どもたちの可能性を広げるきっかけとなるよう願ってやみません。

今回も調査を行うにあたり、第1次計画から10年間の変化を比較するため、前回の調査項目と同一の内容で実施しましたが、令和3年度にGIGAスクール構想で子どもたちに1台ずつタブレットが配布されたことを踏まえ、タブレット等による読書状況を調査に加えました。その結果、小3はタブレット等による読書以外に紙の本も読んでいるとの回答でしたが、学年が上がるほどタブレット等で読書し、紙の本は読まないと答えた生徒が多くなりました。

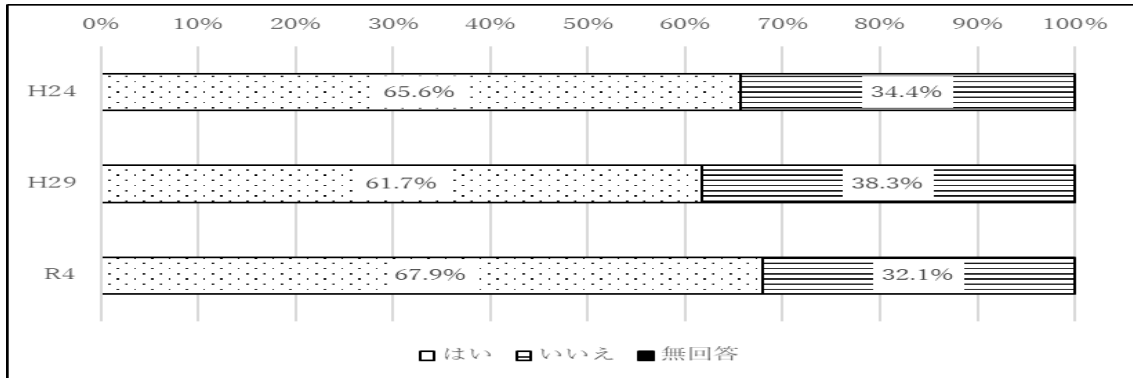
今後のこの環境の変化が子どもたちの読書活動にどのような変化をもたらすのか、引き続き検証する必要があります。

なお、市立図書館の電子書籍導入は、日本国内での電子書籍に関する議論の醸成とコンテンツの充実により今後検討を行います。

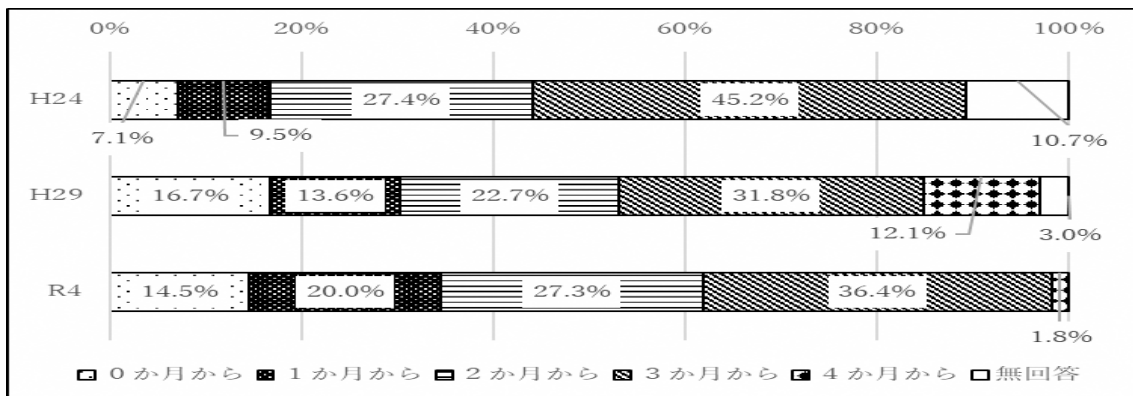
(3) 4か月児健診受診保護者アンケート

令和4年8月19日、9月16日、10月7日の4か月児健診受診保護者を対象に実施しました。
 回答数 H24/128人 H29/107人 R4/81人

①お子さんに絵本を読んであげていますか

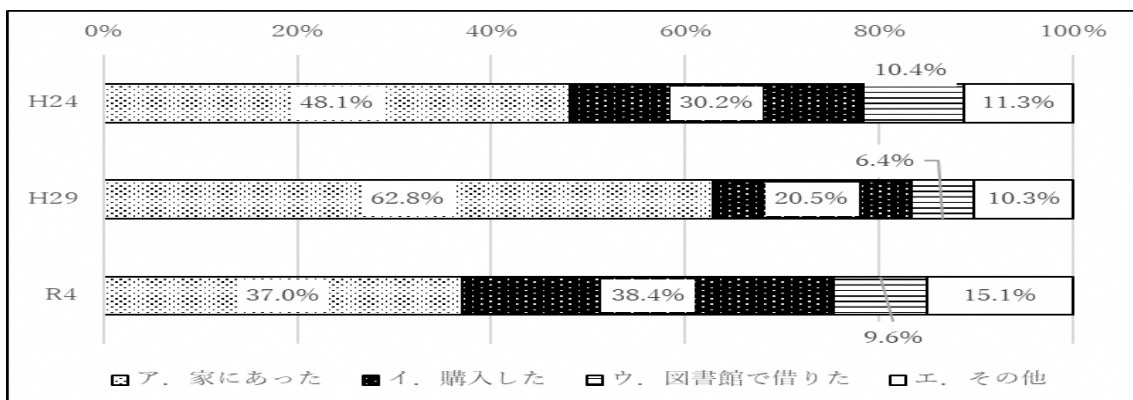


はじめて読んであげたのは



「読んであげている」の割合が、これまでの調査と比較すると増えています。はじめて読んであげた時期は、今回の調査では98%が4か月になるまでに読み始めています。プレ☆ママパパ教室では、リーフレットを配布して、絵本を仲立ちとしたふれあいの大切さを伝えています。

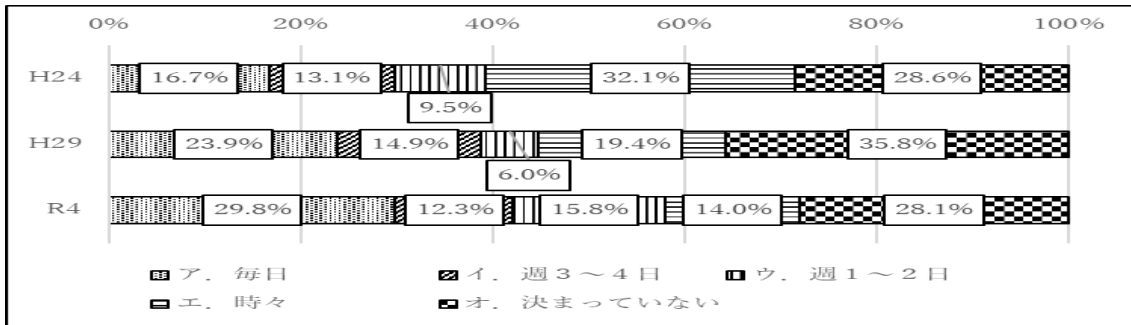
②読んであげている絵本は



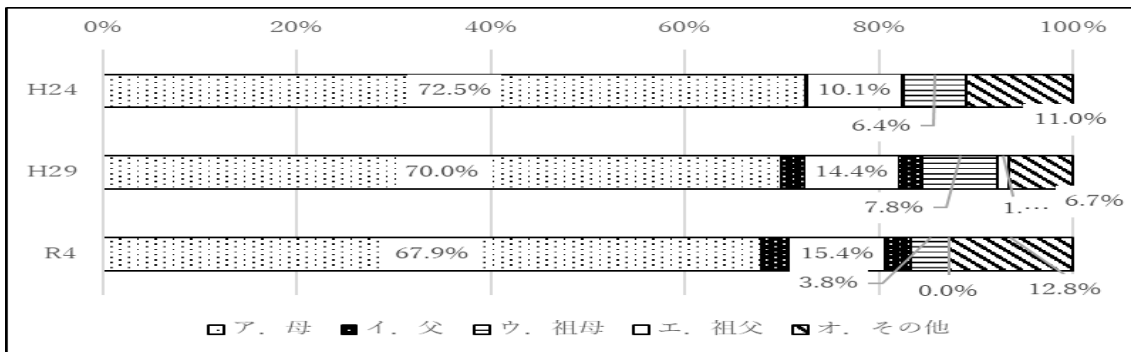
「家にあった」が大きく減少し、「購入した」が伸びています。子育てに絵本を活用しようとする意識が見られますが、「図書館で借りた」が10%に満たないことから、図書館の活用を促す必要があります。

③どのくらいの頻度で読んであげていますか

「毎日」「週1～2日」が増加し、「時々」「決まっていない」が減少しています。読み聞かせが生活に定着していることがうかがわれます。

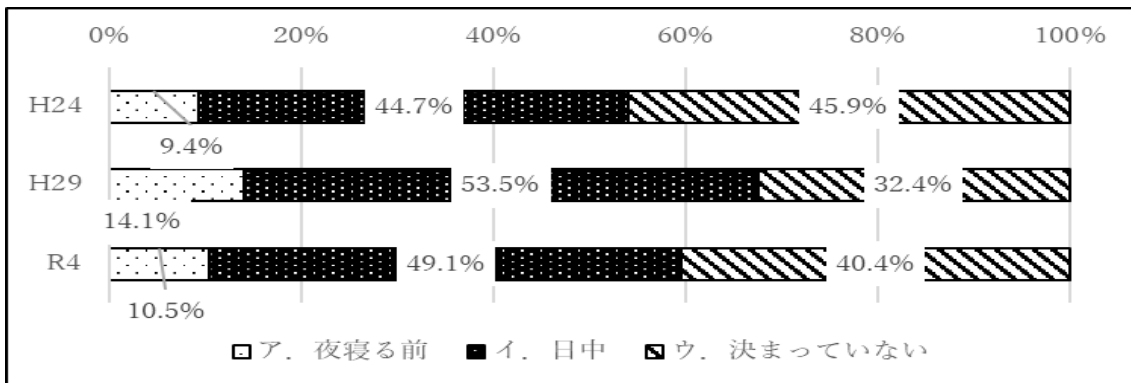


④主に読んであげている人は誰ですか



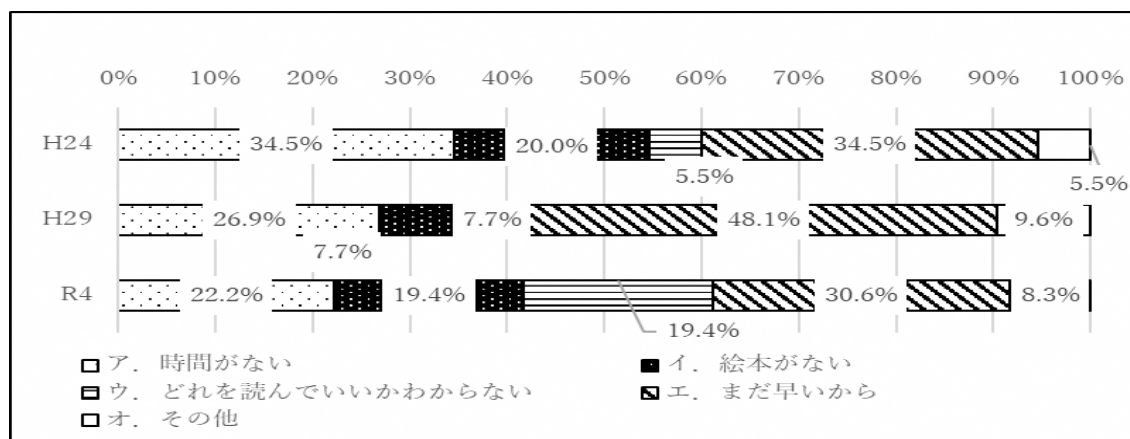
圧倒的に母が多い状況は変わりませんが、母・祖母がやや減少し、代わりに「その他」(姉兄)が増加しています。

⑤主にいつ読んでいますか



前回調査から「日中」「夜寝る前」が減少し、「決まっていない」が増加しています。

⑥読んでいない理由は



「まだ早いから」が減少しましたが、「絵本がない」「どれを読んでいいかわからない」が、今回の調査で40%近くを占めました。

⑦その他、絵本や読み聞かせについてのご質問・ご意見

- ・今は機嫌が悪くなった時に読んでいます。(喜ぶけど読み終わると泣くので) どういうタイミングで読んであげるのがいいのか、また、寝かしつけにおすすめの本が知りたいです。
- ・月齢別のおすすめの本〔選び方・その理由(発達の観点から)読み方(どんな風に、何を引き出してあげるのか等)が知れたら“なんとなく”が理論的になり、より絵本を読んであげたくなるのではないかと思います。〕
- ・絵本が数冊あるが、同じ絵本を読み聞かせるほうがいいのかローテーションで読み聞かせたほうがいいのかよくわからないので、教えて欲しい。
- ・月齢が低い子に読ませると喜ぶ本が知りたい。

【まとめと課題】

少子化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響で集団健診を避ける傾向にあり、4か月児健診の受診者が減少しています。健康づくり推進課と図書館が協力し、集団健診を受診しない方にも、ブックスタートでプレゼントされる絵本や図書館の情報をお届けしています。

調査の結果では、読み聞かせをしている家庭が70%近くあり、4か月になるまでに読み聞かせをしている状況などから、子育てに絵本が活用されていることがうかがえます。一方で絵本の選び方や、読み聞かせのタイミングなどを模索されている様子がアンケート結果に表れました。読み聞かせが日常にさらに浸透するよう、配布するリーフレットやブックスタート事業の取り組みをさらに充実させます。

2. 基本目標から見る取り組みと成果・課題

(1) 家庭・地域・学校での読書の機会と環境の充実

①家庭における子ども読書活動の取り組みと成果・課題

家庭は子どもにとってもっとも基本的な生活の場であるとともに、社会生活を営んでいくための基本的な能力・習慣等を育む大切な場所です。

絵本などの読み聞かせによって情緒や言葉の発達、読書を楽しむ力を育てることができるとともに、家庭で読み聞かせを行うことにより、子どもと保護者とその本の感想を語り合うことなどで、本を仲立ちとした親子のつながりを感じることもできるでしょう。また、親子のふれあいは、幼い子どもたちと保護者に、安定した関係と楽しい時間をもたらします。

子どもとその保護者を対象とする取り組みには様々なものがあります。下記の表にまとめました。

事業名	担当	概要	成果	課題
ブックスタート事業	保健センター・図書館	図書館から職員のおすすめの絵本をプレゼントするとともに、保護者に対し絵本を仲立ちとしたコミュニケーションが親子の関係を安定させることなど、絵本の読み聞かせの重要性を伝えるものです。また、健診の待ち時間に図書館職員と乳幼児サービスボランティアがあかちゃんに読み聞かせを行います。	4か月児健診受診保護者アンケートによると、絵本の選び方や、読み聞かせを始める時期・読み聞かせの頻度などについての疑問が出されるなど、読み聞かせについての理解が十分でないことがうかがえますが、ブックスタート事業が読み聞かせの大切さを伝える良い機会となっています。また、4か月児健診では、様々な子育て支援関係者が連携しており、図書館職員とボランティア、保健師等との連携を一層密にして、ブックスタート事業に取り組んでいます。	新型コロナウイルス感染症の影響で読み聞かせを中止していますが、収束後は読み聞かせを再開したいと考えています。また、読み聞かせに対する保護者の意識や理解が高まっているかどうかの検証も課題です。
本リーママパパ教室での絵本配布	保健センター・図書館	保健センターで開催されている本リーママパパ教室で、読み聞かせが親子の安定したコミュニケーションをもたらすことを伝え、絵本のリーフレットを配布します。	4か月児健診時のアンケートにおいて、7割近くの家庭で読み聞かせが行われている状況から、あかちゃんが生まれる前から読み聞かせの重要性を伝えることで、一定の成果があるものと思われます。	妊娠期の親に向けて配布している絵本等の紹介リーフレットをはじめ、成長段階に応じた4種類のリーフレットも毎年内容を見直し、改訂を行います。
読妊婦聞やか保護者啓発対象に	保健センター・図書館	保健師が、妊婦や子育て中の保護者に対し、読み聞かせが親子に与える良い影響について説明し、図書館や読書推進に関わるボランティアと連携して、家庭での読書を側面からサポートするように努めます。		乳幼児の成長段階に応じた絵本の情報提供を引き続き図書館が行い、保健センターはそれらを一層活用します。

②地域における子ども読書活動の取り組みと成果・課題

富田林市では、地域子ども・子育て支援事業として、保健センターの育児教室「ぴよぴよクラス」・「すくすくクラス」※1をはじめ、児童館の「乳幼児クラブ事業」※2「小学生育成事業」※3、こども未来室の「つどいの広場事業」※4「地域子育て支援センター事業」※5「幼児健全発達支援チューリップ教室」※6「学童クラブ事業」、富田林市社会福祉協議会の「子育てサロン」※7など、様々な講座や遊び、保護者間の自由な交流の場が設けられていますが、そこでは絵本の読み聞かせなどを取り入れた子ども読書活動が行われています。

また、とんだばやし国際交流協会が開催している「にほんごよみかき教室」は、日本語が習熟できていない人々を対象に「よみかき」を学ぶ場所であり、図書館の本を活用して、日本語を母語としない家庭への支援を継続して実施しています。

このように、地域に関わる子ども読書活動の取り組みは多様です。下記の表にまとめました。

事業名	担当	概要	成果	課題
児童館の蔵書の充実	児童館・図書館	児童館の蔵書の充実に努め、本に関わる講座をさらに増やします。	購入や、図書館からのリサイクル図書の利用により、蔵書の充実に努めることができました。	魅力ある蔵書の充実に努めるため予算の確保が必要となります。
児童館講座の本の充実に関わる	児童館・図書館	児童館の蔵書の充実に努め、本に関わる講座を開催します。	絵本の読み聞かせの大切さについて、児童館が開催する読み聞かせの時間や講座の際に保護者へ啓発を行いました。さらに児童生徒が読書に興味を持つよう、サークルなどの取り組みを実施しました。	ボランティアの養成や研修のために、養成講座等を継続します。
学童クラブの時間における読書の確保	こども未来室・図書館	読書時間や紙芝居の時間を設けるなど、子どもたちの落ち着いた日常と、読書習慣の育成に努めます。	学童クラブでは、子ども同士が紙芝居を読み合うなどの光景が見られました。読書ができる時間を常時確保してきたことにより自主的に読書が行われています。また、配本を継続することで、学童クラブ指導員と図書館の連携も深まっています。	図書館の学童クラブ配本便を利用し、団体貸出を継続します。また、学童クラブ指導員と図書館の連携を密にし、児童が興味を持つ資料の把握に努めます。より多くの魅力ある資料の提供を行います。
団体貸出のクラブ利用における促進	こども未来室・図書館	市役所担当課の連絡箱などを利用し、図書館から団体貸出や絵本などの本の情報を提供します。	学童クラブ指導員会議で、団体貸出や絵本などの本の情報提供を継続して行いました。学童指導員との信頼関係を深めることができ、学童クラブ配本便の利用増につながっています。	学童クラブ指導員会議への図書館職員の参加により、団体貸出・リサイクル図書等の案内を行い、さらなる図書館利用を推進します。

事業名	担当	概要	成果	課題
児童書クラブ等の紹介配布	こども未来室・図書館	市役所担当課の連絡箱などを利用し、図書館から団体貸出や絵本などの本の情報を提供します。	図書館作成の児童書や絵本の紹介リストを児童クラブに提供し、活用してもらいました。 児童クラブにおける児童の読書への興味を喚起するために、児童クラブ指導員と図書館の連携を継続しました。	児童クラブ指導員と図書館職員が連携し、児童が読書への興味を継続して持ち続けられるように、図書館作成の児童書や絵本の紹介リストを活用します。
学配本クラブ	こども未来室・図書館	児童クラブを巡回し、図書館より直接配本を行います。	児童クラブ指導員や児童が図書館に要望を伝えたことで、第2次計画の数値目標を大幅に上回る結果となりました。	子どもが必要とする本をより多く利用できるように、本や紙芝居の種類を増やし、団体貸出の利用を継続します。
図書館との情報交換	子ども文庫・図書館	市内4か所の子ども文庫が図書館の団体貸出を利用し活動しています。	富田林子ども文庫連絡会の例会（月1回）に図書館職員も参加することで、図書館行事などの情報交換を効果的に行うことができました。	富田林子ども文庫連絡会の例会に図書館職員が参加するなど、図書館との連携、協力および団体貸出の利用を今後も継続します。
子ども文庫との協働による開催	子ども文庫・図書館	図書館主催の「なつやすみとしょかんおたのしみ会」出演に加え「春休み図書館リサイクル工作を楽しもう」の講師を担当し、子どもたちが図書館や本に親しむ機会を協力してつくっています。	図書館との連携、協力や情報交換を行い、子どもたちが図書館や本に親しむ機会の一翼を担いました。	図書館との連携、協力や情報交換を行い、図書館主催行事の講師として子ども文庫との連携、協力を継続します。
リサイクル図書コーナー設置	生涯学習課・図書館	若者の育成拠点であるきらめき創造館で、図書館のリサイクル図書コーナーを設置し、YA通信を配布するなど子どもたちの読書のきっかけづくりを行い、子どもが本に触れ合える機会を提供します。	児童・生徒の身近に本がある環境づくりの提供と、読書活動の啓発の取り組みを継続することで、子どもが本に触れ合える機会を提供しました。	新型コロナウイルス感染症の影響でリサイクル本の利用は中止していますが、収束後は再開したいと考えています。

- ※1 「びびよクラス」：5か月～8か月未満児対象、「すくすくクラス」：1歳～1歳4か月未満児対象で、母子分離での離乳食・育児講座、母子一緒に遊びや絵本の紹介、歯磨き方法等の話、保護者同士の交流会などを行っています。
- ※2 乳幼児クラブ事業：乳幼児の保護者同士の交流機会と、親子ふれあい遊びなどを通して、情報交換や子育ての知識を学ぶ場を提供しています。
- ※3 小学生育成事業：放課後児童の居場所提供と遊びや集団生活を通じたの健全育成を目的に、学習、スポーツ、創作、読書、レクリエーション、遠足など様々な活動を実施しています。
- ※4 つどいの広場事業：主に乳幼児の親と子どもが気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で交流や育児相談が行える場に図書を置き、随時読み聞かせを行ったり、親子に自由に読んでもらっています。
- ※5 地域子育て支援センター事業：少子化や核家族化で子育てに悩みを持つ人に、子育てサークルや相談、指導などを通して、育児支援を行っています。富貴の里保育園と梅の里こども園で実施しています。
- ※6 幼児健全発達支援チューリップ教室：1歳7か月児健康診査・3歳6か月児健康診査などで、集団の場において、フォローが必要と思われる子どもと保護者を対象に、年齢に応じた教室を開催しています。親子のふれあいを大切にし、遊びを通して子どもと保護者が楽しく過ごせるように援助を行い、様々な相談に応じています。

※7 子育てサロン：富田林市社会福祉協議会の内部組織で、地域福祉委員会（おおむね小学校区単位に結成された民間の自主的な団体で、校区内の身近な福祉問題を解決するために地域に組織されている各種団体の協力を得ながら福祉のまちづくりを進めている）活動の一環として、母子の閉じこもり防止や参加者相互の仲間づくりを目的に地域で開催しています。

③保育園・幼稚園・認定こども園における子ども読書活動の取り組みと成果・課題

各園では、子どもの発達に応じた絵本の読み聞かせを活発に行い、図書館の団体貸出を活用して本とのふれあいの機会をつくり、また、家庭での読書を推進するため、図書の貸出を実施しています。下記の表にまとめました。

事業名	担当	概要	成果	課題
絵本読み聞かせの推進会	保育園・幼稚園・幼稚園・図書館認定	日々の集団生活の中で、子どもが自由に見て楽しんで絵本と触れ合う機会を増やし、子どもの年齢に応じた絵本の読み聞かせを行っています。また、幼稚園と一部の保育園では、子どもたちや保護者に図書の貸出をして、家庭でも本に親しむ機会を持てるようにしています。	前回調査では、1日に2～3回以上読み聞かせを行っている保育園が86.6%ありましたが、今回調査では、保育園と認定こども園を足して86.6%でした。幼稚園は、前回調査ではすべての幼稚園が1日に1～2回でしたが、今回調査では3～4回の園が1園ありました。年を追うごとに読み聞かせが定着し、活発に行われていることがうかがえます。	今後も子どもたちに絵本を読む機会を少しでも増やしていきます。
行事での読み聞かせ	認定こども園・幼稚園・図書館	誕生会や季節の行事に読み聞かせを行い、保護者や市民ボランティア等の読み手によるおはなし会を行います。		
本と触れ合うきっかけ	保育園・幼稚園・幼稚園・図書館認定	図書館訪問時に、図書館職員による特大絵本の読み聞かせを楽しみ、棚から自由に読みたい本を自分で選び、本を借りる体験を通して、本と触れ合うきっかけをつくります。	図書館訪問時の図書館職員による読み聞かせ等で図書館を身近に感じてもらうことで、家族での図書館利用につながっています。	幼稚園つづじ号の巡回や、図書館訪問、団体貸出を活用し、園児が読みたい本を自分で選び、本と触れ合う機会を増やします。
わくわく図書館の連携	保育園・幼稚園・幼稚園・図書館認定	わくわく広場※8では、保育園と図書館が連携して、地域の親子が絵本を楽しむ機会を設けます。	地域の親子が絵本に親しむ機会を設けました。	保育士と図書館職員との連携を継続し、子どもが楽しむことのできる出し物のレパートリーを増やします。

事業名	担当	概要	成果	課題
園の読書環境の充実	保育こども園・幼稚園・保育園・認定	図書の購入、寄贈の図書や図書館のリサイクル図書を活用したり、図書館の団体貸出を利用して蔵書の充実に努めます。	所蔵冊数を増やし、各園の読書環境の充実に努めるとともに、図書館の団体貸出をさらに活用しました。園児が多くの本と出会う環境づくりに努めました。	魅力ある蔵書の充実に努めるため、予算の確保に努めます。
幼児教育への参加	保育こども園・幼稚園・保育園・認定	市内の2つの幼稚園に設置された幼児教育センター※9では、就園前幼児とその保護者に園庭や室内を開放した子育て支援を行います。	就園前幼児とその保護者への子育て支援活動の場を提供し、その活動の中で絵本の読み聞かせを取り入れたり、地域の親子が図書館出前講座に参加して絵本を楽しんでもらうなど、保護者に絵本の読み聞かせの啓発を行いました。	就園前幼児とその保護者への子育て支援活動の場において、絵本の読み聞かせの啓発を引き続き行います。
保育士・教材研究	保育こども園・幼稚園・保育園・認定	各園が図書館出前講座等を利用し、参加した保育士や幼稚園教諭が絵本などの教材研究や指導方法の研究を行います。	園で図書館出前講座に参加した保育士が読み聞かせの大切さや楽しさを学ぶことができました。	絵本や読み聞かせについて教材研究や指導方法の研究を行い、学ぶ機会を引き続きつくります。

※8 わくわく広場：大型絵本やわらべ歌やふれあい遊びを親子で楽しむ金剛保育園、金剛東保育園、金剛図書館共催の催しです。平成26年度から年1回開催しています。

※9 幼児教育センター：子育て支援を目的として、就園前幼児とその保護者に、園庭や室内を開放して遊んだり、交流などの活動を行っています。富田林幼稚園と青葉丘幼稚園内に設置しています。

④学校における子ども読書活動の取り組みと成果・課題

学校は子どもたちが長時間過ごす学びの場であり、様々な形で本に触れる機会を設けることが、読書の習慣化につながります。本に親しみ、読書を楽しみ、本を使って学ぶ喜びを体験できるように、学校図書館や教室に設置された学級文庫など、読書環境の充実に努めています。次頁の表にまとめました。

事業名	担当	概要	成果	課題
読書通帳の活用	学校	図書館から全児童生徒に配布される読書通帳を活用し、読書のきっかけや意欲づくりになるよう記入を指導します。	小学生低学年においては、読書通帳を活発に利用しています。	あまり活発に利用されていない中学生の利用を促進します。

事業名	担当	概要	成果	課題
朝の読書活動	学校	朝の読書活動を子どもの読書体験の時間と位置づけ、学校や学級単位での読書活動が一層広がるような実践に取り組みます。	小学校で朝の読書活動を毎日実施している学校が、前回調査では2校ありましたが、今回調査では1校減っています。 回数の減はあるものの、読書習慣の定着はどの学校も感じています。	朝の読書活動など一斉読書の効果を理解し、継続して実施します。
図書館見学	学校・図書館	図書館を身近に感じてもらう機会となるよう、小学3年生の図書館見学を実施します。	図書館を身近に感じることで、日常の図書館利用につながっています。	読書活動のきっかけとなるよう、引き続き図書館見学を実施します。
ボランティアはなし会を活用した	学校	ボランティアを活用して、おはなし会を小中学校で行います。	小学校では、前回同様今回調査においても回答したすべての学校で実施されていました。 また、小学校でのボランティアによるおはなし会も定着しています。	中学校においても、読書への興味を喚起し、心豊かな時間を過ごすためにボランティアによるおはなし会を行います。
学校図書館の充実	学校教育・指導総務課・図書室	学校図書館は、「読書センター」として、発達段階に応じた多様な図書の収集に努めます。また、「学習・情報センター」として、学習内容と関連した図書などを整備し、学習支援機能の充実に努めます。		学校図書館図書標準が達成されていない学校においては、図書標準を上回ることができるよう、予算の確保に努めます。
学校司書の配置	学校・図書館	学校図書館の整備に加え、図書の貸出、読み聞かせや本の紹介、授業で使用する資料の準備などを担う学校司書を配置し、子どもの読書活動を支えます。	学校図書館の一人当たり貸出冊数の第2次計画目標値は48冊でしたが、令和3年度実績では57.2冊と大きく上回っています。 また、ブック便 ^{※10} では、各学年のカリキュラムに沿った授業資料の利用が定着しています。いずれも、学校司書の働きが大きいことがうかがえます。	ブック便による貸出は、新型コロナウイルス感染症の影響で第2次計画初年度実績から大きく減少しました。収束後は積極的な利用に努めます。
学校司書研修会の開催	教育指導室・学校・図書館	司書教諭や学校司書の連絡会などにおける連携と相互研修により、子どもの読書活動を支える人材のスキルアップを図ります。		学校司書研修会を通じ、小中学校図書館間における情報交換および学校司書と図書館担当職員との連携を深めます。

※10 ブック便：市立図書館の資料を学校図書館に貸し出すための配本便

⑤図書館における子ども読書活動の取り組みと成果・課題

図書館では、開館当初から読み聞かせ・ストーリーテリング入門講座や子ども読書に関する講演会を実施し、読み聞かせボランティアの育成と子ども読書活動の啓発を行ってきました。また、大阪府の子育て支援交付金を活用して開始した乳幼児サービスボランティアの育成講座を継続し、図書館と協働するボランティアの育成や質の向上を図るとともに、家庭や地域で子どもに関わる大人に向けて子ども読書活動の啓発を行っています。下記の表にまとめました。

事業名	担当	概要	成果	課題
児童書の充実	図書館	子どもの読書の多様なニーズに応えるとともに、外国語図書や視聴覚資料などを含め、魅力的な資料を収集します。	英語多読図書や学習マンガなど、幅広い資料の収集に努めました。	図書館での子どものリクエストや、調べ学習のテーマに沿った収集、学校司書との情報共有を図り、児童書の充実に努めます。
あかちゃんの本棚設置	図書館	あかちゃんの本棚を設置し、成長に応じて選べるように本の背にラベルを貼り、保護者にもわかりやすくレイアウトを行います。		
「夏のおてがみ」の創意工夫	図書館	年齢別「絵本で子育て」のリーフレットや「夏のおてがみ」を作成し、児童書の紹介を行います。紹介した資料を手に取りやすいように工夫します。	年齢別「絵本で子育て」のリーフレットで紹介した絵本の背に、目安となる年齢を表示しました。また、「夏のおてがみ」に載せた図書には、ポップで紹介文を貼りました。	子どもたちや保護者がより利用しやすい棚づくりに努めます。本を手に取りやすいように工夫を重ねて、魅力ある図書館にします。
「じゅたん」の読み聞かせ	図書館	子どもを対象としたストーリーテリングや読み聞かせなどを行います。	新型コロナウイルス感染症の影響でおはなし会等が中止となった期間がありましたが、現在は読み聞かせを再開しており、図書館利用のきっかけとして効果がありました。	読み聞かせに対する保護者の意識や理解が高まっているかどうかの検証も課題です。
YA・通高の生配へ布	図書館	中高校生が読書に興味を持つよう、年齢に応じた資料の紹介を行います。	YA通信で紹介した図書の排架などによりヤングアダルトコーナーの充実に努めました。	中高校生の図書館への来館者数が減少しています。YA通信を作成し、中高校生に情報発信を継続して実施します。

事業名	担当	概要	成果	課題
案 内 の 配 利 用	図 書 館	障がいのある子どもたちのためのLLブックの収集に努め、LL版図書館利用案内※11を配布して市立図書館のPRを行い、利用につなげます。また、各校の支援学級に団体貸出を実施します。	学校でLL版図書館利用案内を配布しました。	LL版利用案内の配布を継続することで、図書館利用の促進を図るとともに、支援学級が団体貸出をより利用しやすくなるよう働きかけを行います。
支 援 学 級 へ の 団 体 貸 出				
子 ど も た ち へ の 支 援	関 連 部 署 ・ 図 書 館	関連部署等と連携して、日本語を母語としない子どもたちを貸出などで支援します。	関連部署等との連携により、貸出や本に出会う機会づくりを図りました。	関連部署等との連携強化に努めます。
学 童 ク ラ ブ の 配 本 便	庁 内 各 課 ・ 図 書 館	学童クラブを巡回し、図書館より直接配本を行います。	学童クラブ指導員や児童が図書館に要望を伝えたことで、第2次計画の数値目標を大幅に上回る結果となりました。	子どもが必要とする本をより多く利用できるように、本や紙芝居の種類を増やし、団体貸出の利用を継続します。
各 学 校 へ の 団 体 貸 出	図 書 館 ・ 学 校	学校への配本（ブック便による団体貸出）を行います。	学校図書館への支援として、学習内容に沿った調べ学習用図書の更新や、学校司書が実施する読書指導に必要な資料の充実および情報共有に努めました。 学校司書会議に積極的に参加し、情報共有によりブック便のさらなる充実を図りました。また、ホームページを更新し情報提供の改善に努めました。	学校司書との連携により、学習内容に沿った調べ学習用図書の把握を行い、資料収集に反映させます。
各 学 校 へ の 対 応	図 書 館 ・ 学 校	調べ学習などで必要なレファレンスに対応したり、必要な資料を提供します。	学校司書と図書館が連携し、調べ学習で必要とされるレファレンス資料や学習内容に沿った資料を提供しました。	
読 書 活 動 の 連 携	図 書 館 ・ 保 健 セ ン タ ー ・ そ の 他	学校図書館担当職員、保健センターの保健師などが、市民ボランティアと連携し、子どもの読書活動推進体制を強化します。	子ども読書活動推進会議および子ども読書活動推進連絡会※12を開催し、情報共有に努めました。	学校における図書館担当者、保健センターの保健師、市民ボランティアと協働します。また、子ども読書活動推進会議や子ども読書活動推進連絡会を開催し、連携強化に努めます。
読 書 活 動 の 連 携	図 書 館 ・ 教 育 指 導 室	年度当初に開催される学童クラブ指導員会議（2か所）に図書館職員が出席し、団体貸出の活用を促しています。	学童クラブ指導員会議で団体貸出の利用促進を図った結果、第2次計画での貸出数値目標5,000冊のところ、令和3年度実績では12,830冊の貸出数となり、目標を大幅に上回りました。	学童クラブ指導員会議で、団体貸出の利用促進の呼びかけを継続し、学童クラブ配本便の円滑な運行に努めます。

事業名	担当	概要	成果	課題
子育て支援ネットワークブロック会議における情報共有の促進	図書館・こども未来室・保健センター・教育指導室・その他	実務担当者が集まる子育て支援ネットワークブロック会議※13に働きかけ、図書館から子育て支援関係の活動や図書館の情報等を提供する機会を持ち、富田林市の子どもの状況等の情報共有を行って、子どもの読書活動の推進に努めます。	子育て支援ネットワークブロック会議に働きかけて、子育て支援関連図書館の情報を提供し、富田林市の子どもの情報を共有して、子どもの読書活動の推進を図りました。	様々な施設がつながり、子育て家庭の架け橋となるよう、子育てに関する取り組みや気軽に集える場を提供します。
児童サービスの充実に関する研修機会	図書館	大阪府立図書館等が開催する研修に積極的に参加し、児童サービスについての図書館職員の能力や資質の向上を図ります。	児童サービスに関する研修機会を有効に活用し、図書館職員の資質の向上に努めました。	図書館職員の能力や資質のさらなる向上に努めます。
読み聞かせボランティア養成講座	図書館	子どもの読書についての講座や、読み聞かせのボランティア養成講座などを開催します。	子ども読書活動に関わる人材育成講座を継続して実施し、協働ボランティアの確保、スキルアップに努めました。	ボランティアの確保およびその継続に引き続き努めます。
図書館出前講座	図書館	図書館出前講座は、保育園・幼稚園・児童館・子育てサロン・幼児教育センター・お産センター・学童クラブ等からの依頼により、様々な場で子育てに絵本の読み聞かせを活用する大切さを広報します。	図書館出前講座を開催して、子どもの本に関する情報や資料を提供しました。	コロナ禍で開催が困難な状況でしたが、保護者や子どもに関わる大人が、子どもの読書への関心と理解を深められるよう、収束後は積極的に開催を働きかけていきます。
子ども向け講座	図書館・その他	図書館職員と富田林子ども文庫連絡会のメンバー、ボランティア研修を受講した市民により、幼児から小学生を対象とした催しを実施します。	お楽しみ会やリサイクル工作などの子ども向け講座を開催しました。参加により図書館を身近に感じてもらい、図書館利用の動機づけと利用促進を図りました。	お楽しみ会など子ども向けの講座も、コロナ禍で開催が困難な状況でしたが、収束後は積極的に開催を働きかけていきます。

※11 L L 版利用案内：図書館の利用案内をイラストや写真を使用し、知的障がいや学習障がいのある人にもやさしく読めるように作成したもの。

※12 子ども読書活動推進連絡会：市内にある、子育てに関わる NPO 法人や市民団体が、各々の活動の中で子ども読書活動を実施しており、各団体が情報交換によりお互いの活動内容を知り連携することで子どもの読書活動の推進を図っています。

※13 子育て支援ネットワークブロック会議：中学校区を市内4ブロックに分けて、子育てに関わるいろいろな機関がネットワークをつくり活動をしています。いろいろな施設がつながり、子育て家庭への架け橋になれるように、子育てに関する取り組みや気軽に集える場を提供しています。

(2) 地域・学校・図書館などの連携

一地域・学校と図書館などの連携における取り組みと成果・課題一

子どもが自主的に読書活動を行うために、子どもの読書に関わる人材の育成や子どもたちが長時間過ごす学びの場として、学校と地域の関連施設、図書館が一体となり、協力体制を強化してきました。

連携先	事業名	概要	成果	課題
保健センター	あかちゃんのおはなし会	親子で参加できる、わらべ歌やあかちゃん向き絵本の読み聞かせを行うあかちゃんのおはなし会において、子育てに関する出前講座を行います。	6か月児から2歳児までの乳幼児を対象とした、成長段階に応じた内容の講義を行いました。	曜日や時間帯の検証を行い、参加しやすい環境を整えます。
	妊婦や保護者を対象に読み聞かせの啓発活動	保健師が、妊婦や子育て中の保護者に対し、読み聞かせが親子に与える良い影響について説明し、図書館や読書推進に関わるボランティアと連携して、家庭での読書を側面からサポートするように努めます。	各種健診において、図書館を配布し、活用しました。	図書館から、乳幼児の成長段階に応じた絵本の情報提供を引き続き行います。保健センターは、図書館の活動に引き続き協力します。
教育保健指導センター・タソの・他	子育て支援ネットワークブロック会議における情報共有の促進	実務担当者が集まる子育て支援ネットワークブロック会議に働きかけ、図書館から子育て支援関係の活動や図書の情報等を提供する機会を持ち、富田林市の子どもたちの状況等の情報共有を行って、子どもの読書活動の推進に努めます。	子育て支援ネットワークブロック会議に働きかけて、子育て支援関連図書の情報を提供し、富田林市の子どもたちの情報を共有して、子どもの読書活動の推進を図りました。	いろいろな施設がつながり、子育て家庭への架け橋となるよう、子育てに関する取り組みや気軽に集える場を提供します。
高齢介護課	「感想文を書こう！MEET★富田林コンクール」	「感想文を書こう！MEET★富田林コンクール」は平成26年度より高齢介護課が実施するコンクールで、認知症に関係のある本などの感想文を募集し、市主催の認知症フォーラムにて展示、発表、表彰を行っています。	コンクールのより一層の周知を行い、テーマへの理解を深めるとともに、図書館は読書のきっかけづくりとなるよう担当課への図書館資料の紹介および館内での資料展示を行って協力しました。	子ども向け認知症資料の収集を継続して行います。
生涯学習課	きらめき創造館でのリサイクル図書コーナー設置	若者の育成拠点であるきらめき創造館で、図書館のリサイクル図書コーナーを設置し、子どもたちの読書のきっかけをつくり、子どもが本に触れ合える機会を提供します。	児童生徒の身近に本がある環境づくりと読書活動の啓発の取り組みを継続することで、子どもが本に触れ合える機会を提供しました。	現在は新型コロナウイルス感染症の影響でリサイクル本の利用を中止していますが、収束後は再開したいと考えています。

連携先	事業名	概要	成果	課題
こども未来室	学童クラブ配本便	学童クラブを巡回し、図書館より直接配本を行います。	学童クラブ指導員や児童から図書館に要望を伝えてもらったことで、第2次計画の数値目標を大幅に上回る結果となりました。	子どもが必要とする本をより多く利用してもらえるよう、本や紙芝居の種類を増やし、団体貸出を継続します。
教育指導室・学校	学校司書との研修会の開催	司書教諭や学校司書の連絡会などにおける連携と相互研修により、子どもの読書活動を支える人材のスキルアップを図ります。	学校図書館の一人当たり貸出冊数が第2次計画の目標値を大きく上回ったり、カリキュラムに沿った授業資料の利用が定着しています。研修会の開催により、学校司書のスキルアップが図られたことがうかがえます。	学校司書研修会を通じ、小中学校図書館間における情報交換および学校司書と図書館担当職員との連携を深めます。
子ども文庫	子ども文庫との協働による行事の開催	図書館主催の「なつやすみとしょかんおたのしみ会」出演に加え「春休み図書館リサイクル工作を楽しもう」の講師をし、子どもたちが図書館や本に親しむ機会を協力してつくります。	子ども文庫との連携、協力や情報交換を行い、子どもたちが図書館や本に親しむ機会の一翼を担ってもらいました。	子ども文庫との連携、協力や情報交換を行い、子どもの身近な地域に読書環境を整えるため、団体貸出を継続します。
保育園・幼稚園・認定こども園	わくわく広場での園と図書館の連携	わくわく広場では、保育園と図書館が連携して、地域の親子が絵本を楽しむ機会を設けます。	地域の親子が絵本に親しむ機会を設けました。	保育士と図書館職員との連携を継続し、子どもが楽しむことのできる出し物のレパートリーを増やします。
	保育士・幼稚園教諭による教材研究	各園が図書館出前講座等を利用し、参加した保育士や幼稚園教諭が絵本などの教材研究や指導方法の研究を行います。	園で図書館出前講座に参加した保育士が読み聞かせの大切さや楽しさを学ぶ機会となりました。	絵本や読み聞かせについて教材研究や指導方法の研究を行い、学ぶ機会を引き続きつくります。
関係部署	子ども読書活動推進連絡会の開催	子どもの読書活動を推進する子ども読書活動推進連絡会を立ち上げ、連絡会議を開催します。子どもの読書や心身の発達等について研修会を開催し、理解を深めます。	子ども読書活動推進会議および子ども読書活動推進連絡会を開催し、情報共有に努めました。	学校における図書館担当者、保健センターの保健師、市民ボランティアと協働します。また、子ども読書活動推進会議や子ども読書活動推進連絡会を開催し、連携強化に努めます。

連携先	事業名	概要	成果	課題
学校	小学生の オリエンテーション	図書館から職員が各小学校に出向き1年生に図書館の利用の解説と利用案内のオリエンテーションを行います。	オリエンテーションにより、児童の読書や図書館への興味を喚起し、図書館利用の推進を図りました。図書館利用を促す家庭向けの配布物を作成し、保護者にも児童の読書を援助するよう呼びかけました。	保護者にも児童の読書を支援しやすいように、家庭向けの配布物の工夫を行います。
	読書通帳の活用 (小・中学校)	図書館から全児童生徒に読書通帳を配布し、読書のきっかけや意欲づくりを図ります。	小学生低学年においては、読書通帳を活発に利用されています。	あまり活発に利用されていない中学生の利用を促進します。
	「とっぴーと読もう！読書感想文コンクール」の推進	夏季休暇期間中の読書のきっかけとなるよう、市・教育委員会が平成24年度から開催しています。	コンクールへの参加を促すことで、児童生徒の読書への興味関心を高めることができました。	コンクール参加につながるよう児童生徒の興味を喚起する資料の収集・展示に努めます。
	図書館見学	図書館を身近に感じてもらう機会となるよう、小学3年生の図書館見学を実施しています。	図書館を身近に感じることで、日常の図書館利用につながっています。	蔵書の充実を図り、子どもが本を手に取りやすい環境の整備を行います。また、読書活動のきっかけとなるよう引き続き図書館見学を行います。
	ボランティアを活用したおはなし会	ボランティアを活用して、おはなし会を小中学校で行います。	小学校では、前回同様今回調査においても回答したすべての学校で実施されています。また、小学校でのボランティアによるお話会も定着しています。	中学校においても、読書への興味を喚起し心豊かな時間を過ごすために、ボランティアによるおはなし会を行います。
学校	学校司書の配置	学校図書館の整備に加え、図書の出、読み聞かせや本の紹介、授業で使用する資料の準備などを担う学校司書と連携して、子どもの読書活動を支えます。	学校図書館の一人当たり貸出冊数の第2次計画目標値は48冊でしたが、令和3年度実績では572冊と大きく上回っています。また、ブック便では、各学年のカリキュラムに沿った授業資料の利用が定着しています。いずれも、学校司書の働きが大きいことがうかがえます。	ブック便による貸出は、新型コロナウイルス感染症の影響で第2次計画初年度実績から大きく減少しました。収束後は積極的な利用に働きかけます。
	各学校からのレファレンスへの対応	調べ学習などで必要なレファレンスに対応したり、必要な資料を提供します。	学校司書と図書館が連携し、調べ学習で必要とされるレファレンス資料や学習内容に沿った資料を提供しました。	学校司書との連携により、学習内容に沿った調べ学習の図書の把握を行い、資料収集に反映させます。

(3) 読書推進の啓発

—読書推進の啓発における取り組みと成果・課題—

啓発対象	事業名	担当	概要	成果	課題
乳児 保護者	絵本と触れ合いの機会と読み聞かせの推進	保育園・園・幼稚園・図書館・認定こども	日々の集団生活の中で、子どもが自由に見て楽しんで絵本と触れ合う機会を増やし、子どもの年齢に応じた絵本の読み聞かせを行っています。また、幼稚園と一部の保育園では、子どもたちや保護者に図書を貸し出して、家庭でも本に親しむ機会を持てるように読書活動の推進を図っています。	前回調査では、1日に2～3回以上読み聞かせを行っている保育園が86.6%ありましたが、今回調査では、保育園と認定こども園を足して86.6%でした。幼稚園は、前回調査ではすべての幼稚園が1日に1～2回でしたが、今回調査では3～4回の園が1園ありました。年を追うごとに読み聞かせが定着し、活発に行われていることがうかがえます。	今後も子どもたちに絵本を読む機会を少しでも増やしていきます。
	乳幼児教育センター事業への参加	保育園・幼稚園・図書館・認定こ	市内の2つの幼稚園に設置された幼児教育センターでは、就園前幼児とその保護者に園庭や室内を開放した子育て支援を行います。	就園前幼児とその保護者への子育て支援活動の場を提供し、その活動の中で絵本の読み聞かせを取り入れたり、地域の親子が図書館出前講座に参加して絵本を楽しんでもらうなど、保護者に絵本の読み聞かせの啓発を行いました。	就園前幼児とその保護者への子育て支援活動の場において、絵本の読み聞かせの啓発を行います。
	「夏のおてがみ」の創意工夫	図書館	年齢別「絵本で子育て」のリーフレットや「夏のおてがみ」を作成し、児童書の紹介を行います。紹介した資料が手に取りやすいように工夫します。	年齢別「絵本で子育て」のリーフレットで紹介した絵本の背に、目安となる年齢を表示しました。また、「夏のおてがみ」に載せた図書には、ポップで紹介文を貼りました。	子どもたちや保護者がより利用しやすい棚づくりに努めます。本を手に取りやすいように工夫を重ねて、魅力ある図書館にします。
園児 保護者	「えほんいろいろ」などのリーフレットによる情報提供	保育園・幼稚園・図書館	図書館が発行する「えほんいろいろ」や年齢別「絵本で子育て」のリーフレットによる情報提供を行います。	図書館から提供される団体貸出や絵本リストなどの情報が、園での読み聞かせや催し物における絵本の選択に活用されています。	図書館から提供される絵本リストなどを読み聞かせの絵本の選択などに活用していきます。
保護者	図書館出前講座	富田 林市 社会福祉 協議会・ 図書館	子育てサロン等において図書館出前講座を開催し、保護者や子どもに関わる大人に子育てにおいて絵本を活用することの大切さや読み聞かせの楽しさを知ってもらう機会を設けます。	わらべ歌を実際に楽しみ、様々な乳幼児向けの絵本を紹介して、内容の充実に努めました。	子どもの本に関する情報提供や子どもの読書への関心と理解が深められる講座となるように努めます。

啓発対象	事業名	担当	概要	成果	課題
各施設職員 園児 保護者	子育て支援ネットワーク事業への参加	保育園・幼稚園・図書館認定こども	保育園では、子育て支援ネットワーク事業※14で、園庭開放など子どもたちが自由に安心して遊んだり、仲間づくりの場所を提供しています。その中で乳幼児の豊かな育ちを目指し、絵本を活用して将来の読書習慣につながるよう図書館と連携を進めます。	園庭開放に参加した保護者と園児に読み聞かせや図書館出前講座を実施しました。	図書館出前講座を活用して読み聞かせの啓発や地域の親子が絵本に楽しむ機会をつくり、図書を貸し出し、豊かな子育て支援に努めます。
	読書活動実務担当者との連携	図書館・保健センター・その他	学校図書館担当職員、保健センターの保健師などが、市民ボランティアと連携し、子どもの読書活動推進体制を強化します。	子ども読書活動推進会議および子ども読書活動推進連絡会を開催し、情報共有に努めました。	学校における図書館担当者、保健センターの保健師、市民ボランティアと協働します。また、子ども読書活動推進会議や子ども読書活動推進連絡会を開催し、連携強化に努めます。
各施設職員 児童 保護者	学童クラブ等における児童書の紹介リストの配布	こども未来室・図書館	市役所担当課の連絡箱などを利用し、図書館から団体貸出および絵本などの本の情報を提供します。	図書館作成の児童書や絵本の紹介リストを学童クラブに提供し、活用してもらいました。学童クラブにおける児童の読書への興味を喚起するために、学童クラブ指導員と図書館の連携を継続しました。	学童クラブ指導員と図書館職員が連携し、児童が読書への興味を継続して持ち続けられるように、図書館作成の児童書や絵本の紹介リストを活用します。
	児童館の本に関わる講座の充実	児童館・図書館	児童館の蔵書の充実に努め、本に関わる講座を開催します。	絵本の読み聞かせの大切さについて、児童館で開催する読み聞かせの時間や講座の際に保護者へ啓発を行いました。さらに児童生徒が読書に興味を持つよう、サークルなどの取り組みを実施しました。	ボランティアの養成や研修のために、養成講座等を継続します。
小学生	小学生のオリエンテーション	図書館	図書館職員が各小学校に出向き、1年生に図書館利用の解説と利用案内のオリエンテーションを行います。	オリエンテーションにより、児童の読書や図書館への興味を喚起し、図書館利用の推進を図りました。図書館利用を促す家庭向けの配布物を作成し、保護者にも児童の読書を援助するよう呼びかけました。	保護者にも児童の読書を支援しやすいように、家庭向けの配布物の工夫を行います。

啓発対象	事業名	担当	概要	成果	課題
小学生	学童読書クラブの確保	こども未来室・図書館	読書時間や紙芝居の時間を設けるなど、子どもたちの落ち着いた日常と、読書習慣の育成に努めます。	学童クラブでは、子ども同士が紙芝居を読み合うなどの光景が見られました。読書ができる時間を常時確保してきたことにより自主的に読書が行われています。また、配本を継続することで、学童クラブ指導員と図書館の連携も深まっています。	図書館の学童クラブ配本便を利用し、団体貸出を継続します。また、学童クラブ指導員と図書館の連携を密にし、児童が興味を持つ資料の把握に努めます。より多くの魅力ある資料の提供を行います。
	図書館見学	学校	図書館を身近に感じてもらえる機会となるよう、小学3年生の図書館見学を実施しています。	図書館を身近に感じることで、日常の図書館利用につながっています。	蔵書の充実を図り、子どもが、本を手に取りやすい環境の整備を行います。また、読書活動のきっかけとなるよう、引き続き図書館見学を行います。
	調べ学習用図書への貸出の促進	導教室・総務課・図書指	国・府の交付金などを活用して、資料の増加に努め、ブック便を利用して、調べ学習などで利用する授業に対応した資料や読書のための様々な提供を行います。	学校図書館への支援として、学習内容に沿った調べ学習用図書の更新や、学校司書が実施する読書指導に必要な資料の充実と、情報共有に努めました。	学校司書との連携により、学習内容に沿った調べ学習用図書の把握を行い、資料収集に反映させます。
	「夏のおてがみ」の活用促進	図書館	年齢別「絵本で子育て」のリーフレットや「夏のおてがみ」を作成し、児童書の紹介を行います。紹介した資料を手に取りやすいように工夫します。	年齢別「絵本で子育て」のリーフレットで紹介した絵本の背に、目安となる年齢を表示しました。また、「夏のおてがみ」に載せた図書には、ポップで紹介文を貼りました。	子どもたちや保護者がより利用しやすい棚づくりに努めます。本を手に取りやすいように工夫を重ねて、魅力ある図書館にします。
小中学校	読書通帳の利用促進	学校・その他図書館	図書館から全児童生徒に配布される読書通帳を活用し、読書のきっかけや意欲づくりになるよう記入を指導します。	小学生低学年においては、読書通帳を活発に利用しています。	あまり活発に利用されていない中学生の利用を促進します。
小中学校 高校	朝の読書活動	学校	朝の読書活動を子どもの読書体験の時間と位置づけ、学校や学級単位での読書活動が一層広がるような実践に取り組みます。	小学校で朝の読書活動を毎日実施している学校が、前回調査では2校ありましたが、今回調査では1校減っています。回数の減はあるものの、読書習慣の定着はどの学校も感じています。	朝の読書活動など一斉読書の効果を理解し、継続して実施します。

※14 子育て支援ネットワーク事業：公立保育園において園庭開放などを実施し、幼児の子育てを行う家庭に、子育てに関する情報提供・助言・相談等を行います。これらを通じて、幼児が健やかに成長するよう保護者を支援します。また、妊婦家庭や0～2歳の未就園児がいる家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や相談、助言等を行います。

3. 前計画期間の数値目標の検証

	内容		H30	R1	R2	R3	R4 目標	達成状況	数値担当課
学校	学校図書館 図書標準に 対する達成 度 ※1	小 学	14校/16校	15校/16校	15校/16校	15校/16校	16校/16校	15校/16校	教育総務課
		中 学	3校/8校	4校/8校	5校/8校	4校/8校	8校/8校	4校/8校	
	学校図書館の一人 当たりの貸出冊数 ※2		48.8冊	48.9冊	51冊	57.2冊	48冊	57.2冊	教育指導室
図書館	学校図書館団体貸 出数増（ブック便 含む）		9,922冊	8,343冊	6,721冊	6,955冊	9,000冊	6,955冊	図書館
	あかちゃんのおは なし会等参加者数 増		850人	824人	645人	526人	1,300人	526人	
児童館	児童館活動での読 書活動の参加人数		5,871人	5,432人	4,076人	4,247人	6,400人	4,247人	児童館
学童 クラブ	団体貸出冊数増 （学童クラブ配本 便含む）		8,087冊	11,317冊	11,506冊	12,830冊	5,000冊	12,830冊	図書館
保育園 幼稚園	図書館訪問回数増		27回	76回	79回	42回 (クラス)	50回	42回 (クラス)	図書館
	団体貸出数増		1,166冊	2,925冊	2,399冊	1,539冊	1,800冊	1,539冊	
保健 センター	保護者への読書に 関する情報提供増 ※3		3,495人	3,387人	3,474人	3,364人	3,100人	3,364人	健康づくり 推進課
図書館等	読書に関する研 修・講座など		21回	18回	11回	13回	20回	13回	図書館

※1 学校図書館図書標準：公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準冊数

※2 平成30年度から「全国学力・学習状況調査」の調査項目に、「読書が好き」の数値がなくなったため、第2次計画策定後「学校図書館の一人当たりの貸出冊数」に変更を行いました。

※3 保護者への読書に関する情報提供増：対象年齢別リーフレット配布数

《学校》

- 学校図書館図書標準に対する達成度：小学校は、令和元年に1校増えて15校となり、横ばいで推移しましたが、中学校は、支援学級が増えたことにより令和3年度に1校減少となりました。学級数が増えるにつれて標準図書数が増えるため、達成校が減少となったものです。中学校も含め、すべての学校が達成できるよう、さらなる蔵書の充実が必要です。
- 学校図書館の一人当たりの貸出冊数：目標を大きく上回りました。令和2年度から学校図書館の貸出システムの電子化を順次進めており、この影響が大きいと考えられます。

《図書館》

- 学校図書館団体貸出数増（ブック便含む）：第2次計画当初は目標に向かって順調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で図書館休館を余儀なくされ、目標を達成することができませんでした。今後も、学校図書館からの要望に丁寧に対応し、利便性を高め、貸出数の増加をめざします。
- あかちゃんのおはなし会等参加者数増：新型コロナウイルス感染拡大の影響で図書館休館を余儀なくされ、開催ができなかった年もありました。感染拡大が落ち着けば一定のレベルに回復するものと見込んでおり、定着しつつある放課後等デイサービスや近隣の保育園などの団体での参加も回復するものと考えます。

《児童館》

- 児童館活動での読書活動の参加人数：目標達成はできませんでした。
今後の新たな取り組みとして、本が好きという共通点を持った中学生を募集し、本を集めてサークルを作りたいと考えています。みんなで図書館に行ったり、テーマを決めて本を紹介し合うブックトークなどの活動を計画しています。

《学童クラブ》

- 団体貸出冊数増：目標を大きく上回りました。配本便の回数を2倍に増やしたことが主な理由と考えています。今後も学童クラブ指導員や児童からの要望に対し丁寧に対応することで、さらなる増加をめざします。

《保育園・幼稚園》

○図書館訪問回数増・団体貸出数増：数値目標を達成できませんでした。

幼稚園からの図書館訪問については、平成30年度に市役所所有のマイクロバスが廃止となり、マイクロバスの貸借が外部委託となったため、マイクロバスで来館していた幼稚園の来館減少が一因と考えられます。

保育園は、地域によっては図書館が遠く、また図書館に出かける時間を確保するのも難しくなっており、園内の活動の中で、年齢に合わせた読み聞かせの機会を増やしています。

《保健センター》

○保護者への読書に関する情報提供増：年齢別検診やプレ☆ママパパ教室に対応した、きめ細やかなリーフレット作成により、目標を達成することができました。

《図書館等》

○読書に関する研修・講座など：数値目標を達成できませんでした。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、外出自粛やイベント開催制限などにより、開催を断念せざるを得ない研修会や講座が多数ありました。

今後も講座や研修について、テーマなどを工夫して実施します。



乳幼児サービスボランティア養成講座

第3章 第3次子ども読書活動推進計画の推進に向けた取り組み

子どもは、読書を通じて読解力、想像力、思考力、表現力を養うとともに、多くの知識を得て多様な文化を理解することができるようになります。

このような読書で培われる力を育むためには、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけをつくり、読書体験を深める機会を提供するとともに、子どもがいつでも本に親しむことのできる読書環境を継続して整備することが必要です。

また、本市はSDGs未来都市でもあることから、SDGsに掲げられた「誰一人取り残さない」の理念を実現するために、社会構造などが急速に変化し予測困難な時代の中でも、子どもたちには読書活動を通じて様々な変化に積極的に向き合い、様々な情報を見極め、新たな価値につなげていく、「新しい時代に必要な資質・能力」を育むことが重要と考えています。

このことから、子どもたちの生活や成長の過程において切れ目のないサポートを行うため、家庭・地域・学校等の関係機関と連携・協力のもと、子どもの読書環境の整備に努めます。

本計画では、前計画までの成果、アンケート等から把握できた課題、市の現状を踏まえ、第1次・第2次富田林市子ども読書活動推進計画に挙げた目的、基本目標を継承しつつ、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）に基づく具体的施策にもあるように、関係各部署の組織を超えた連携により、市民へのさらなる啓発に取り組みます。

1. 家庭・地域・学校での読書の機会と環境の充実

(1) 家庭における子ども読書活動の取り組みと方向性

日常生活で本に触れる機会をつくることは、子どもの読書習慣に大きく影響します。また、家庭における読書は1冊の本を媒介して家族が話し合う時間を持ち、絆を深める手段として大変重要です。子どもの読書への理解を深め、読書が習慣となるよう、保健センターと図書館が連携して保護者の啓発に努めます。

第3次計画では次頁の表のとおり推進します。

事業名	担当	具体的な実施内容	第3次計画の方向性
ブックスタート事業	保健センター・ 図書館	毎年プレゼント絵本の見直し等を行い、3冊のうちから1冊を選べるようにします。	継続 充実
		保健師と図書館の連携により、当日受診しなかった人へも、自宅訪問の際に絵本やリーフレットなどのブックスタートセットを配布し、全員配布を継続して行います。	
		絵本を通してのふれあいの大切さが保護者にも浸透するよう、4か月児健診において、さまざまな子育て支援の関係者（保健師等）が連携し、健診の待ち時間を利用して保護者に積極的に声をかけ、読み聞かせを継続して行います。	
		乳幼児サービスボランティア連絡会では、月1回の例会において情報を共有し、図書館開催の講座等においてスキルアップを図るなど、ボランティアとの連携強化を行います。	
プレ☆ママパパ教室絵本リーフレット配布	保健センター・ 図書館	妊娠期から親が子どもの読書に関心を持つように、妊娠期の親に向けた絵本等の紹介リーフレットを配布し、成長段階に応じた4種類のおすすめ絵本のリーフレットを提供します。リーフレットは毎年内容を見直し、適宜改訂を行います。	継続
妊婦や保護者を対象に読み聞かせの啓発活動	保健センター・ 図書館	乳幼児の成長段階に応じた絵本の情報提供を引き続き図書館が行い、保健センターはそれらを一層活用します。	継続

（２）地域における子ども読書活動の取り組みと方向性

地域で子どもに関わる大人が、子どもの読書に理解と関心を深め、連携を図ることは、子どもの読書機会を広げるために重要な役割を果たします。子ども文庫、児童館、学童クラブ、図書館など、地域での多角的な取り組みと人材育成により、子どもの読書環境の整備と啓発に努めます。

第3次計画では次の表のとおり推進します。

事業名	担当	具体的な実施内容	第3次計画の方向性
児童館の蔵書の充実	児童館・図書館	図書館からのリサイクル図書を活用により、さらなる蔵書の充実を図ります。	継続 充実
児童館の本に関わる講座の実施	児童館・図書館	絵本の読み聞かせの大切さについて、児童館で開催する読み聞かせの時間や講座の際に保護者へ啓発を行います。さらに、児童生徒が読書に興味を持つよう、サークルなどの取り組みを実施します。	継続 充実

事業名	担当	具体的な実施内容	第3次計画の方向性
子ども読書活動推進連絡会の開催	児童館・図書館	新しいボランティアの養成や研修の必要性から、図書館のボランティア養成講座等を継続して開催します。また、地域や図書館において子どもに関わる大人への研修を継続して実施し、人材の育成とスキルアップと情報共有をめざします。	継続
乳幼児サービスボランティア養成講座	児童館・図書館		継続
乳幼児サービス連絡会			
学童クラブにおける読書時間の確保	こども未来室・図書館	学童クラブでは、子ども同士で紙芝居を読み合うなどの時間を設けているため、図書館は本や紙芝居の種類を増やし、学童クラブ配本便による団体貸出を継続して行います。また、指導員と図書館の連携を密にし、児童が興味を持つ資料の配本に努めます。	継続 充実
学童クラブにおける団体貸出の利用促進	こども未来室・図書館	学童クラブ指導員会議で、図書館から団体貸出等の案内を行い、図書館利用を推進し、団体貸出、リサイクル図書の新着利用啓発を行います。	継続
学童クラブにおける児童書等の紹介リストの配布	こども未来室・図書館	図書館で作成し配布する児童書や絵本の紹介リストを学童クラブにも配布します。児童の読書への興味を喚起するために、学童クラブ指導員と図書館の連携を継続して行います。	継続 充実
学童クラブ配本便	こども未来室・図書館	学童クラブ配本便では、必要とする本をより多く利用できるよう、本や紙芝居の種類を増やし、団体貸出に努めます。	継続
子ども文庫との情報交換	子ども文庫・図書館	月1回の富田林子ども文庫連絡会の例会に図書館職員も参加し、情報交換・研修を行います。	継続
子ども文庫の活動支援		図書館との連携、協力や情報交換を行い、子どもの身近な地域に読書環境を整えるため、団体貸出を今後も継続します。	
きらめき創造館でのリサイクル図書コーナー設置	生涯学習課・図書館	きらめき創造館で、図書館からのリサイクル本を利用したリサイクル図書コーナーを設置し、YA通信を配布するなど児童生徒の身近に本がある環境づくりと、読書活動の啓発の取り組みを継続します。	継続 充実
「感想文を書こう！MEET★富田林コンクール」	高齢介護課・図書館	より一層の周知を行い、テーマへの理解を深めるとともに、読書のきっかけづくりとなるよう、担当課への図書館資料の紹介および館内での資料展示を行います。	継続
図書館出前講座	富田林市 社会福祉協議会・図書館	子どもの本に関する情報提供とともに子どもの読書への関心と理解が深められる講座となるよう、わらへ歌を実際に楽しみ、様々な乳幼児向けの絵本を紹介し、内容の充実に努めます。	継続

(3) 保育園・幼稚園・認定こども園における子ども読書活動の取り組みと方向性

子どもたちが幼少期の多くの時間を過ごす保育園・幼稚園・認定こども園において、読み聞かせ体験は物語やおはなしの楽しさを知るきっかけとなります。読書に親しみ、習慣となるよう、催しでの図書の活用や、魅力ある棚づくりなどに取り組みます。

第3次計画では次の表のとおり推進します。

事業名	担当	具体的な実施内容	第3次計画の方向性
絵本と触れ合う機会づくりと読み聞かせの推進	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	絵本の読み聞かせの機会を増やし、自由に本と触れ合う機会づくりに努めます。また、幼稚園つじ号の巡回や図書館訪問、団体貸出を活用し、園児や保護者に絵本の貸出を行うなど、家庭で本に親しむ機会づくりに努めます。	継続 充実
「えほんいろいろ」などのリーフレットによる情報提供	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	図書館の団体貸出や絵本リストなどの情報を提供し、園での読み聞かせや催し物に活用します。	継続
行事での読み聞かせの推進	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	季節の行事で本を活用したり、保護者や市民ボランティアによるおはなし会の機会を増やします。	継続 充実
わくわく広場での園と図書館の連携	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	地域の親子が絵本に親しむ機会を増やします。	継続
園での読書環境の充実	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	所蔵冊数を増やし、各園の読書環境の充実に努めるとともに、図書館の団体貸出をさらに活用し、園児が多くの本と出会える環境づくりに努めます。	継続 充実
幼児教育センター事業への参加	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	就園前幼児とその保護者への子育て支援活動の場を提供し、その活動の中で絵本の読み聞かせを取り入れたり、地域の親子に図書館出前講座に参加して絵本を楽しんでもらうなど、読み聞かせの啓発や絵本に楽しむ機会をつくり、図書館を貸出して、豊かな子育て支援に努めます。	継続
子育て支援ネットワーク事業への参加	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	読み聞かせの啓発や絵本に楽しむ機会をつくり、図書館を貸出して、豊かな子育て支援に努めます。	継続
保育士・幼稚園教諭による教材研究	保育園・幼稚園・認定こども園・図書館	引き続き絵本や読み聞かせについて教材研究や指導方法の研究を行い、学ぶ機会をつくれます。	継続

(4) 学校における子ども読書活動の取り組みと方向性

学校では、学校司書や教師、ボランティアの援助のもと、子どもたちが本に触れることができる環境を整備しています。学習活動を支援し、読書の楽しみを伝え、読書が習慣化するよう、学校図書館を中心に、教育指導室、図書館が連携して取り組みます。

第3次計画では次の表のとおり推進します。

事業名	担当	具体的な実施内容	第3次計画の方向性
読書通帳の活用	学校	読書通帳は、小学生には活発に利用されていますが、中学生は利用の継続がなく、学校および学校司書と協力して利用の促進を図ります。	継続 充実
読書活動の推進	学校	朝の読書活動など一斉読書の効果を理解し、継続して実施します。	継続
図書館見学	学校・図書館	図書館を身近に感じる機会を作ります。	継続
ボランティアを活用したおはなし会	学校	小学校に加え、中学校においても、読書への興味を喚起し心豊かな時間を過ごすために、図書の日や昼休みなどにボランティアによるおはなし会を活用します。	継続 充実
調べ学習用の団体貸出	教育総務課・ 教育指導室・ 学校・図書館	学校司書と図書館が連携し、授業内容に沿った図書の団体貸出をさらに活用します。	継続 充実
学校図書館資料の充実	教育総務課・ 教育指導室・ 学校・図書館	学校司書の配置により、よりきめ細かな読書指導と資料整備に努め、子ども読書活動の推進に努めます。	継続
学校司書の配置	学校・図書館	児童生徒の読書活動と学習活動を支援できるよう、学校司書を配置します。	継続 充実
学校司書との研修会開催	教育指導室・ 学校・図書館	学校司書会議や学校司書研修会を開催して学校司書のスキルアップを図ります。また、これらを通じ、小中学校図書館間における情報交換および学校司書と図書館担当職員との連携を深めます。	継続 充実
「とっぴーと読もう！読書感想文コンクール」の推進	学校	コンクールへの参加を促すことで、児童生徒の読書への興味関心を高めます。また、そのための資料の収集・展示に努めます。	継続

(5) 図書館における子ども読書活動の取り組みと方向性

図書館では、子どもが気軽に図書館に足を運び、図書を借りたくなるよう、様々な工夫に取り組みます。また、魅力ある書架の整備や資料の紹介、催し物の開催にとどまらず、関連機関と連携することにより、家庭や地域に向けた子ども読書活動の推進に努めます。

第3次計画では次の表のとおり推進します。

事業名	担当	具体的な実施内容	第3次計画の方向性
児童書の充実	図書館	図書館での子どものリクエストや、調べ学習のテーマに沿った収集、学校司書との情報共有を図り、児童書の充実に努めます。	継続 充実
リサイクル図書の活用	図書館	図書館の寄贈本や廃棄本をリサイクル本として、各学校に蔵書の充実に寄与します。	新規(拡充) 継続
あかちゃんの本棚設置	図書館	子どもたちや保護者がより利用しやすい本棚づくりに努めます。本を手に取りやすいように工夫を重ねて魅力ある図書館にします。 年齢別「絵本で子育て」のリーフレットで紹介した絵本の背に目安となる年齢の表示し、「夏のおてがみ」に載せた図書にはポップで紹介文を貼り、保護者や子どもたちが手に取りやすいように工夫します。 「夏のおてがみ」「YA通信」など、子どもと本を結びつける情報ツールに加え、学校図書館においても読書に興味を喚起するツールを作成に創意工夫を行います。	継続 充実
「絵本で子育て」「夏のおてがみ」の創意工夫			
あかちゃんのおはなし会	図書館	6か月児から2歳児までの乳幼児を対象とした、成長段階に応じた内容となるよう保健師やボランティアと連携して行います。	継続 充実
「おはなし会」「じゅうたんコーナー」での読み聞かせ	図書館	子どもの読書への動機づけとなるおはなし会、じゅうたんコーナーでの読み聞かせを実施します。子どもたちが興味を持ち参加しやすいように、ボランティアと協働し内容の充実や環境整備を行います。	継続 充実
小学生のオリエンテーション	図書館	オリエンテーションにより、児童の読書や図書館への興味を喚起し、図書館利用の推進を図ります。オリエンテーション時に、家庭向けに作成した図書館利用を促すリーフレットを配布し、保護者にも児童の読書を援助するよう呼びかけます。	継続
中・高校生へのYA通信の配布	図書館	中高校生の興味、関心に応えるヤングアダルトコーナーの充実に努めます。YA通信を作成し、中高校生への情報発信を継続して実施します	継続 充実
LL版利用案内の配布	図書館	LL版利用案内の配布を継続することにより、図書館利用の促進を図るとともに、支援学級が団体貸出をより活用しやすくなるよう働きかけを行います。	継続 充実
支援学級への団体貸出			

事業名	担当	具体的な実施内容	第3次計画の方向性
日本語を母語としない子どもたちへの支援	関連部署・図書館	関連部署等との連携により、貸出や本に出会う機会づくりを図ります。	継続 充実
学童クラブ配本便	庁内各課・図書館	年々増加する学童クラブの児童が読書活動を積極的に行えるよう、配本を継続して行います。	継続 充実
各学校への団体貸出	図書館・学校	学校図書館への援助として、学習内容に沿った調べ学習等の図書の新刊や、学校司書が実施する読書指導に必要な図書の充実、および情報共有を行います。	継続 充実
		学校司書会議に積極的に参加し、情報共有によりブック便のさらなる充実を図ります。また、図書館ホームページの学校支援のページを更新し役立つ情報提供に努めます。	
各学校からのレファレンスへの対応	図書館・学校	学校で必要とされる学習内容に沿った資料を把握し、収集提供に努めます。	継続
読書活動実務担当者との連携	図書館・保健センター・教育指導室・その他	学校における図書館担当者、保健センターの保健師、市民ボランティアと協働します。子ども読書活動推進連絡会を開催し連携強化に努めます。	継続
		教育指導室が開催する学校司書会議や学校司書研修会に図書館職員が参加し、学校図書館の現状把握と連携、情報提供に努めます。	
		学童クラブ指導員会議で、団体貸出の活用促進を呼びかけ、学童クラブ配本便の円滑な運行に努めます。	
子育て支援ネットワークブロック会議における情報共有の促進	図書館・こども未来室・保健センター・教育指導室・その他	子育て支援ネットワークブロック会議に働きかけて、子育て支援関連図書の情報を提供し、富田林市の子どもたちの情報を共有して、子どもの読書活動の推進を図ります。	継続 充実
児童サービスに関する研修機会の充実	図書館	児童サービスに関する研修機会を有効に活用し、図書館職員の資質の向上に努めます。	継続
読み聞かせボランティア養成講座	図書館	子ども読書活動に関わる人材育成講座を継続して実施し、協働ボランティアの確保、スキルアップに努めます。	継続
図書館出前講座	図書館	図書館からの出前講座を開催して、子どもの本に関する情報や、資料を提供します。保護者や子どもにかかわる大人が、子どもの読書への関心と理解を深められるよう努めます。	継続 充実
保育園つつじ号	保育園・図書館	園児が読みたい本を自分で選び、本と触れ合う機会を増やすため、つつじ号を運行します。	新規
幼稚園つつじ号	幼稚園・図書館		継続
子ども向け講座の開催	図書館・その他	お楽しみ会やリサイクル工作など、子ども向け講座を開催します。参加により図書館を身近に感じ、図書館利用の動機づけと利用促進を図ります。	継続

2. 第3次子ども読書活動推進計画の推進のために

(1) 推進体制の整備

これまでも市内に子ども読書活動推進会議を設置し、関係各課の情報や事業調整、数値目標の確認を行い、子ども読書活動推進計画の効果的な推進を図ってきました。今後も、会議の開催により、関係各課との連携・協力のもと、数値目標の達成に努め、子ども読書活動のさらなる推進を図ります。

また、実務担当者が集まる子育て支援ネットワークブロック会議にさらに働きかけ、情報共有、連携、研修などを行います。

本計画に掲げられた取り組みを実施し、市は必要な財政上の措置を講ずるよう努めます。

(2) 人材の育成・研修、協力体制

子どもの読書に関わる人材の育成と研修を実施するため、子ども読書活動推進連絡会を立ち上げ、関係機関の実務担当者や市民団体との交流の場を持つことで連携強化を図り、協力体制を整えてきました。今後も子ども読書活動推進連絡会を継続して開催し、協力体制を強化していきます。

また、子どもの読書活動や子どもの発達についての講演会を行います。この講演会は公開講座として開催し、一般の方への読書啓発の機会とします。

(3) 啓発・広報

園・学校等を通じて直接子どもたちに情報提供を行うことはもとより、広報、ホームページなどを活用して、子どもの読書に関する情報を継続して提供します。

(4) 第3次計画における数値目標

前計画の検証を踏まえ、第3次計画において新たな数値目標を設定しました。

目標値については、進捗状況に合わせて適宜見直します。

	内容	令和4年度 (2022年度) 見込み	令和9年度 (2027年度)
学校	学校図書館図書標準達成校数	(小学) 15校/16校	(小学) 16校/16校
		(中学) 4校/8校	(中学) 8校/8校
	学校図書館の一人当たりの貸出冊数	60冊	(小学) 105冊 (中学) 35冊
図書館	学校図書館団体貸出数増(ブック便含む)	7,150冊	10,000冊
	おはなし会・読み聞かせ参加者増	650人	1,300人
	ボランティア養成講座参加者増 ※1		35人
児童館	児童館活動での読書活動の参加人数	5,500人	6,400人
学童クラブ	団体貸出冊数増(学童クラブ配本便含む)	13,000冊	13,500冊
保育園・ 幼稚園	図書館訪問回数	60回	60回
	団体貸出数増	2,000冊	3,000冊
保健センター	保護者への読書に関する情報提供増 ※2	3,500枚	3,500枚
図書館等	読書に関する研修・講演会・出前講座など	18回	20回

※1 第3次計画より新規項目

※2 対象年齢別リーフレット配布数

資料

富田林市の子ども読書活動推進に関する現状の調査の実施について

調査目的

平成30年3月末「第2次富田林市子ども読書活動推進計画」策定時に実施した調査を、この度「第3次富田林市子ども読書活動推進計画」を策定するにあたり改めて実施し子どもの読書環境や読書の状況の変化を把握、分析し、更なる計画の推進に参考とすることを目的とします。

A. 富田林市の子ども読書活動推進に関する現状の調査の実施について

対象施設

市内全市立小学校	16校	私立小学校	1校
市立中学校	8校	私立中学校	2校
府立中学校	1校	公立高等学校	3校
私立高等学校	2校	市立幼稚園	10園
私立幼稚園	5園	幼保連携型認定こども園	5園
市立保育園	6園	民間保育園	8園
府立支援学校	1校		
学童クラブ	31クラブ	児童館	1施設

調査日時 令和4年7月末日まで

B. 富田林市の子どもの読書に関するアンケートの実施について

対象児童・生徒 市内全小学3年生・6年生・中学3年生

(市内私立・府立小・中学校も含む)

調査日時 令和4年7月1日～21日

C. 富田林市の子どもの読書に関するアンケートの実施について

対象 4か月児健診受診保護者(市立保健センター)

調査日時 令和4年8月19日、9月16日、10月7日(計3回)

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（保育園）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可）保育園 回答数13/14園（市立6/6園 民間7/8園）

【年齢（学年別）の園児数】

保育園	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
合計	150	266	299	311	316	319	1,661

※全保育園分記載

1. 園で所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数

所蔵冊数	保育園数
ア. 1～500冊	5
イ. ～1,000冊	4
ウ. ～2,000冊	3
エ. ～3,000冊	1
オ. 3,001冊以上	0
合計	13

購入冊数

購入冊数	保育園数
ア. 0冊	1
イ. 1～50冊	10
ウ. ～100冊	1
エ. 101冊以上	1
合計	13

2. 市立図書館の団体貸出の利用

ア. 利用あり⇒(A)	4
イ. 利用なし⇒(B)	9
合計	13

(A) 使いにくい理由や改善点

- ・紙芝居の種類を増やしていただきたい。
- ・地域によっては、図書館に通えない園があります。 移動図書館を希望します。

(B) 利用していない理由（複数回答可）

ア. 団体貸出を知らない	0
イ. 図書館が遠い	2
ウ. 行く機会（余裕）がない	7
エ. ※その他	4

※その他 ・コロナ感染拡大防止のため【4園】

3. 先生による読み聞かせの頻度・時間帯

頻度

ア. 1日1~2回	1
イ. 1日3~4回	8
ウ. 1日5回以上	4
エ. その他	0
合計	13

時間帯

ア. 午前9時まで	6
イ. 午前9時~昼食前	8
ウ. 昼食後~おやつ前	7
エ. おやつ後~	5
オ. 特に決まっていない	5
カ. ※その他	1

4. 読み聞かせ以外での本の活用方法（複数回答可）

※その他 ・生活の切り替え、午睡前は必ず

ア. 子どもや保護者に貸出	4
イ. 工作や絵画活動、絵画製作に活用	7
ウ. ごっこ遊び、表現遊び、劇遊びに活用	11
エ. 観察や飼育、栽培などに活用	13
オ. 地震や災害などの本を避難訓練に活用	11
カ. 子どもが自由に見て楽しむ	13
キ. 参観日、季節の行事に活用	11
ク. 園庭開放で地域の親子に貸出	8
ケ. その他	0

5. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施

ア・ある 3園⇒Aへ

イ・ない 10園⇒質問6へ

A. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. 富田林おはなしの会	1
イ. ボランティア（保護者）	0
ウ. ボランティア（保護者以外）	2
エ. その他	0

頻度

ア. 月1~2回	2
イ. 2か月に1回	0
ウ. 各学期に1回（年間3回）	0
エ. 年間2回	0
オ. 年間1回	1
カ. その他	0

時間帯

ア. 午前中	2
イ. 午後	1
ウ. 特に決まっていない	1
エ. その他	0

6. 子どもの読書に関する行事等の開催（複数回答可）

ア. 園児や保護者に本の貸出	3
イ. 誕生会や季節行事での読み聞かせ	12
ウ. 園庭開放での子育て講座、出前講座	10
エ. 園庭開放での本の貸出	7
オ. ※その他	1

※その他 ・毎週水曜日に3・4・5歳児向けにはなし会を実施。

7. 子どもの読書環境をよくするために貴園で取り組みたいこと（複数回答可）

ア. 本棚を設置して園児が絵本と触れ合える環境を整える	6
イ. 園内の図書を充実させる	10
ウ. 保護者に絵本のよみかかせの大切さについて啓発する	7
エ. 園児や保護者への絵本の貸出	4
オ. 園児に、絵本のよみかかせの機会を増やす	10
カ. その他	0

8. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	6
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	1
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	7
エ. 障がいのある子どもの支援	6
オ. 学校・幼稚園・保育園等への支援	8
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	2
キ. 図書館からの情報発信	4
ク. ※その他	1

※その他 ・移動図書館の充実 園の近く、できれば園に来ていただきたい。

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（幼保連携型認定こども園）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可） 認定こども園 回答数4/5園（私立4/5園）

【年齢（学年別）の園児数】

認定こども園	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
合計	46	104	98	84	91	59	482

※全こども園分記載

1. 園で所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数

所蔵冊数	保育園数
ア. 1～500冊	2
イ. ～1,000冊	2
ウ. ～2,000冊	0
エ. ～3,000冊	0
オ. 3,001冊以上	0
合計	4

購入冊数

購入冊数	保育園数
ア. 0冊	0
イ. 1～50冊	3
ウ. ～100冊	1
エ. 101冊以上	0
合計	4

2. 市立図書館の団体貸出の利用

ア. 利用あり⇒(A)	0
イ. 利用なし⇒(B)	3
無回答	1
合計	4

(B) 利用されていない理由

ア. 団体貸出を知らない	1
イ. 図書館が遠い	1
ウ. 行く機会（余裕）がない	1
エ. その他	0

3. 先生による読み聞かせの頻度・時間帯

頻度

ア. 1日1~2回	1
イ. 1日3~4回	3
ウ. 1日5回以上	0
エ. その他	0
合計	4

時間帯

ア. 登園~昼食前	2
イ. 昼食後	1
ウ. 降園前	1
エ. 特に決まっていない	1
オ. その他	0

4. 読み聞かせ以外での本の活用方法（複数回答可）

ア. 子どもや保護者に貸出	0
イ. 工作や絵画活動、絵画製作に活用	4
ウ. ごっこ遊び、表現遊び、劇遊びに活用	3
エ. 観察や飼育、栽培などに活用	4
オ. 地震や災害などの本を避難訓練に活用	3
カ. 子どもが自由に見て楽しむ	4
キ. 参観日、季節の行事に活用	3
ク. 教師の教材研究、指導	0
ケ. その他	0

5. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施

ア・ある 1園⇒Aへ

イ・ない 2園⇒質問6へ

ウ・不明 1園

A. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. 富田林おはなしの会	0
イ. ボランティア（保護者）	0
ウ. ボランティア（保護者以外）	1
エ. その他	0

頻度

ア. 月1~2回	0
イ. 2か月に1回	1
ウ. 各学期に1回（年間3回）	0
エ. 年間2回	0
オ. 年間1回	0
カ. その他	0
無回答	0

時間帯

ア. 午前中	1
イ. 午後	0
ウ. その他	0
無回答	0

6. 子どもの読書に関する行事等の開催（複数回答可）

ア. 園児や保護者に本の貸出	0
イ. 誕生会や季節行事でのよみきかせ	3
ウ. 保護者向けの子育て講座などの実施	1
エ. 長期休業中の本の貸出	0
オ. その他	0

7. 子どもの読書環境をよくするために貴園で取り組みたいこと（複数回答可）

ア. 本棚を設置して園児が絵本と触れ合える環境を整える	3
イ. 園内の図書を充実させる	3
ウ. 保護者に絵本の読み聞かせの大切さについて啓発する	1
エ. 園児や保護者への絵本の貸出	1
オ. 園児に、絵本の読み聞かせの機会を増やす	3
カ. その他	0

8. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	2
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	0
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	2
エ. 障がいのある子どもの支援	1
オ. 学校・幼稚園・保育園等の支援	2
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	0
キ. 図書館からの情報発信	1
ク. その他	0

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（幼稚園）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可）

幼稚園 回答数14/15園（市立10/10園 私立4/5園）

【年齢（学年別）の園児数】

幼稚園	3歳児	4歳児	5歳児	計
合計	243	290	269	802

※全幼稚園分記載

1. 園で所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数

所蔵冊数	幼稚園数
ア. 1～500冊	0
イ. ～1,000冊	3
ウ. ～2,000冊	5
エ. ～3,000冊	4
オ. 3,001冊以上	2
合計	14

購入冊数

購入冊数	幼稚園数
ア. 0冊	0
イ. 1～50冊	12
ウ. ～100冊	1
エ. 101冊以上	0
無回答	1
合計	14

2. 市立図書館の団体貸出の利用

ア. 利用あり⇒(A)	7
イ. 利用なし⇒(B)	7
合計	14

(A) 使いにくい理由や改善点

- ・背表紙のカタカナが幼児にはわかりづらく本棚に戻しにくい。マークなどにしてもらえると自分で戻せるかもしれません。
- ・市民の方の利用が10時からですので、それまでに借りるには、時間がたりないので、もう少し早い時間に入らせてもらえれば、うれしいです。
- ・貸出期間が長いのは助かる場合があるが、逆に待っている期間が長いのは困る。

(B) 利用されていない理由

ア. 団体貸出を知らない	1
イ. 図書館が遠い	4
ウ. 行く機会（余裕）がない	6
エ. ※その他	1

※その他 ・図書館に行く手段が市のバスしかなく回数が限られている。

3. 先生による読み聞かせの頻度・時間帯

頻度

ア. 1日1～2回	12
イ. 1日3～4回	1
ウ. 1日5回以上	0
エ. ※その他	1
合計	14

※その他

- ・年齢や活動内容によって異なりますが、1日1～3回読むこともあります。

時間帯

ア. 登園～昼食前	2
イ. 昼食後	3
ウ. 降園前	10
エ. 特に決まっていない	7
オ. ※その他	3

※その他

- ・登園後2～3時間。
- ・月に1度ピアノ演奏とともに。
- ・年齢に応じている。

4. 読み聞かせ以外での本の活用方法（複数回答可）

ア. 子どもや保護者に貸出	13
イ. 工作や絵画活動、絵画製作に活用	13
ウ. ごっこ遊び、表現遊び、劇遊びに活用	14
エ. 観察や飼育、栽培などに活用	13
オ. 地震や災害などの本を避難訓練に活用	12
カ. 子どもが自由に見て楽しむ	14
キ. 参観日、季節の行事に活用	14
ク. 教師の教材研究、指導	11
ケ. その他	0

5. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施

ア・ある 10園⇒Aへ

イ・ない 5園⇒質問6へ

A. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. 富田林おはなしの会	10
イ. ボランティア（保護者）	2
ウ. ボランティア（保護者以外）	3
エ. その他	0

頻度

ア. 月1～2回	2
イ. 2か月に1回	1
ウ. 各学期に1回（年間3回）	8
エ. 年2回	0
オ. 年1回	0
カ. その他	0

時間帯

ア. 午前中	3
イ. 午後	5
ウ. 特に決まっていない	2
エ. その他	0

6. 子どもの読書に関する行事等の開催（複数回答可）

ア. 園児や保護者に本の貸出	12
イ. 誕生会や季節行事でのよみきかせ	13
ウ. 保護者向けの子育て講座などの実施	1
エ. 長期休業中の本の貸出	8
オ. その他	0

7. 子どもの読書環境をよくするために貴園で取り組みたいこと（複数回答可）

ア. 本棚を設置して園児が絵本と触れ合える環境を整える	10
イ. 園内の図書を充実させる	7
ウ. 保護者に絵本の読み聞かせの大切さについて啓発する	9
エ. 園児や保護者への絵本の貸出	9
オ. 園児に、絵本の読み聞かせの機会を増やす	6
カ. ※その他	3

※その他

- ・保護者向けの雑誌、本なども少しずつ揃えたいなと思います。保護者のかたにも本を親しむ時間をもってもらえればと思っています。
- ・読み聞かせに合わせてピアノの演奏を聴き、より想像力を膨らませている。
- ・園だよりや園内掲示等で絵本を紹介する機会をつくる。保育室にも自由に見られる本を置きたい。

8. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	6
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	1
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	5
エ. 障がいのある子どもの支援	5
オ. 学校・幼稚園・保育園等の支援	5
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	1
キ. 図書館からの情報発信	5
ク. ※その他	4

※その他

- ・つつじ号が大好きです。今年度は来てもらえる日が数回あります。ありがたいです。その分他園に行っただけで機会が減ってしまったかも、と思っています。つつじ号、ぜひ回数（行く）を増やしていただければと思っています。
- ・司書がいないので、蔵書の分類の仕方など、状態を見てアドバイスいただけたら嬉しいです。
- ・専門家による本の読み聞かせの仕方の研修を幼稚園の先生に実施して欲しい。

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（小学校）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可）

小学校 回答数17/17校（市立16/16校 私立1/1校）

【学年別の児童数】

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
合計	780	796	800	845	846	884	4,951

※全小学校分記載（市教育委員会調べ）

所蔵冊数

ア. 1～6,000冊	0
イ. ～8,000冊	0
ウ. ～10,000冊	4
エ. ～15,000冊	12
不明	1
合計	17

※全小学校分記載（市教育委員会調べ）

購入冊数

ア. 1～200冊	8
イ. ～300冊	8
ウ. ～400冊	1
エ. ～500冊	0
合計	17

※全小学校分記載（市教育委員会調べ）

1. 授業時間以外で学校図書館について該当するもの（複数回答可）

開館日数

ア. 週5日	9
イ. 週4日	1
ウ. 週3日	6
エ. 週2日	0
オ. 週1日	0
カ. ※その他	1

※その他 ・週2.5日

時間帯

ア. 全日開館	5
イ. 朝・始業時間前	2
ウ. 授業間の休み時間	7
エ. 昼休み	11
オ. 放課後	1
カ. ※その他	4

※その他 ・短縮、個人面談会の時間

・週2～3回は全日開館

2. 授業中の学校図書館の利用状況（複数回答可）

教科

ア. 国語（図書的时间含む）	30
イ. 理科	5
ウ. 社会	12
エ. 算数	1
オ. 英語	1
カ. 図画工作	3
キ. 家庭	1
ク. 体育	0
ケ. 生活	7
コ. 音楽	1
サ. すべての教科	2
シ. ※その他	6

頻度

ア. 毎日	1
イ. 週2～3回程度	3
ウ. 週1回	10
エ. 隔週程度	1
オ. 学期に数回程度	2
カ. 学期に1回	0
キ. その他	0

※その他 ・総合的な学習や特別活動 【6校】

活用内容

ア. 学校図書館に移動して授業をする	15
イ. 教室で学校図書館の本を利用する	15
ウ. 学校図書館教育支援員（図書館担当職員）に読み聞かせや本の紹介をしてもらう	12
エ. ※その他	1

※その他 ・学校図書館を利用した横断的な学習

3. 「朝の読書」など一斉読書の時間を設けているか

ア・設けている 15校⇒Aへ

イ・設けていない 2校⇒質問4へ

A. 「朝の読書」等の実施状況（複数回答可）

頻度

ア. 毎朝	1
イ. 週4回	0
ウ. 週3回	0
エ. 週2回	5
オ. 週1回	9

本の準備

ア. 自宅から持参	12
イ. 学級文庫の本	10
ウ. 学校図書館の本	15
エ. 公共図書館の本	8
オ. その他	1

効果

ア. 読書習慣の定着	14
イ. 読書が好きになる	10
ウ. 読書量の増加	10
エ. 1時限目の授業の開始に効果がある	3
オ. ※その他	1

※その他 ・語彙力の増加

4. タブレット端末を使った読書活動を行っていますか

ア・行っている 4校⇒Aへ イ・行っていない 13校⇒Bへ

A.行っている場合の活動内容

- ・デジタル新聞（無料期間のみ）
- ・図書委員会からの読み聞かせ配信
- ・読み聞かせ

B.行っていない理由について（複数回答可）

ア. 学校にある本で十分	4
イ. 市立図書館の貸出本で十分	3
ウ. 電子書籍のコンテンツに魅力がない	0
エ. 電子書籍を購入していない	10
オ. ※その他	1

※その他 検討中

5. 子どもの読書活動に関連してボランティア（保護者を含む）の活用があるか

ア・ある 15校⇒Aへ イ・ない 2校⇒質問6へ

A. 市民ボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. 富田林おはなしの会	12
イ. ボランティア（保護者）	4
ウ. ボランティア（保護者以外）	1
エ. その他	0

頻度

ア. 週1回	1
イ. 月1回	5
ウ. 学期に1回	8
エ. 年1回～2回	1
オ. 特別な行事の時のみ	0
カ. その他	0

時間帯（複数回答可）

ア. 朝の読書	5
イ. 授業時間	12
ウ. 昼休み	0
エ. 放課後	0

6. 上記以外で子どもの読書に関する取り組み（複数回答可）

ア. 読書通帳の活用	15
イ. 「帯とん」コンテスト～あなたが作った帯で本をおすすめしよう～に参加	5
ウ. ”とっぴー”と読もう！富田林市読書感想文コンクールに参加	14
エ. 感想文を書こう！MEET★富田林コンクールに参加	12
オ. その他	0

7. 子どもの読書環境をよくするために貴校で取り組みたいこと（複数回答可）

ア. 蔵書の更新・充実	14
イ. 学校図書館の読書環境の改善・充実	12
ウ. 学校図書館の年間指導計画の策定	5
エ. 図書時間の充実	7
オ. 本の読み聞かせや本の紹介等の充実	12
カ. ※その他	3

- ※その他
- ・情報センターとしての学校図書館の充実
 - ・デジター図書への活用
 - ・タブレット端末を使った読書活動

8. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	13
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	5
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	6
エ. 障がいのある子どもの支援	6
オ. 学校・幼稚園・保育園等への支援	7
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	2
キ. 図書館からの情報発信	5
ク. その他	0

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（中学校）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可）

中学校 回答数11/11校（市立8/8校 私立2/2校 府立1/1校）

【学年別の生徒数】

中学校	1年	2年	3年	計
合計	981	999	1,080	3,060

※全中学校分記載

所蔵冊数

ア. 1~7,000冊	0
イ. ~9,000冊	0
ウ. ~11,000冊	3
エ. ~13,000冊	2
オ. ~15,000冊	5
カ. 30,000冊以上	1
合計	11

購入冊数

ア. 1~300冊	7
イ. ~400冊	3
ウ. ~500冊	1
エ. ~600冊	0
合計	11

1. 授業時間以外で学校図書館について該当するもの（複数回答可）

開館日数

ア. 週5日	8
イ. 週4日	0
ウ. 週3日	1
エ. 週2日	2
オ. 週1日	0
カ. その他	0

時間帯

ア. 全日開館	2
イ. 朝・始業時間前	1
ウ. 授業間の休み時間	1
エ. 昼休み	10
オ. 放課後	4
カ. その他	0

2. 授業中の学校図書館の利用状況（複数回答可）

教科

ア. 国語（図書の時間含む）	11
イ. 理科	0
ウ. 社会	3
エ. 数学	0
オ. 英語	0
カ. 美術	0
キ. 技術・家庭	0
ク. 書道	0
ケ. 保健体育	0
コ. 音楽	0
サ. すべての教科	1
シ. ※その他	2

※その他 ・ホームルーム活動
・総合

頻度

ア. 毎日	0
イ. 週2～3回程度	0
ウ. 週1回	1
エ. 隔週程度	1
オ. 学期に数回程度	7
カ. 学期に1回	0
キ. ※その他	2

※その他 ・年に1回程度
・ない

活用内容（複数回答可）

ア. 学校図書館に移動して授業をする	9
イ. 教室で学校図書館の本を利用する	4
ウ. 学校図書館教育支援員（図書館担当職員）に読み聞かせや本の紹介をしてもらう	0
エ. ※その他	1

※その他 ・ない

3. 「朝の読書」など一斉読書の時間を設けているか

ア・設けている 8校⇒Aへ

イ・設けていない 3校⇒質問4へ

A. 「朝の読書」等の実施状況（複数回答可）

頻度

ア. 毎朝	8
イ. 週4回	0
ウ. 週3回	0
エ. 週2回	0
オ. 週1回	0

本の準備

ア. 自宅から持参	9
イ. 学級文庫の本	7
ウ. 学校図書館の本	8
エ. 公共図書館の本	3
オ. その他	0

効果

ア. 読書習慣の定着	9
イ. 読書が好きになる	4
ウ. 読書量の増加	4
エ. 1時限目の授業の開始に効果	7
オ. その他	0

4. タブレット端末を使った読書活動を行っていますか

ア・行っている 0校⇒Aへ

イ・行っていない 11校⇒Bへ

A.行っている場合の活動内容

B.行っていない理由（複数回答可）

ア. 学校にある本で十分	7
イ. 市立図書館の貸出本で十分	2
ウ. 電子書籍のコンテンツに魅力がない	0
エ. 電子書籍を購入していない	7
オ. その他	0

5. 子どもの読書活動に関連して市民ボランティア（保護者を含む）の活用があるか

ア・ある 0校⇒Aへ

イ・ない 10校⇒質問6へ

ウ・不明 1校

A. 市民ボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. 富田林おはなしの会	0
イ. ボランティア（保護者）	0
ウ. ボランティア（保護者以外）	0
エ. その他	0

頻度

ア. 週1回	0
イ. 月1回	0
ウ. 学期に1回	0
エ. 年数1回～2回	0
オ. 特別な行事の時のみ	0
カ. その他	0

時間帯

ア. 朝の読書	0
イ. 授業時間	0
ウ. 昼休み	0
エ. 放課後	0
オ. その他	0

6. 上記以外で子どもの読書に関する取り組み

ア. 読書通帳の活用	2
イ. 「帯とん」コンテスト～あなたが作った帯で本をおすすめしよう～に参加	0
ウ. ”とっぴー”と読もう！富田林市読書感想文コンクールに参加	6
エ. 感想文を書こう！MEET★富田林コンクールに参加	3
オ. ※その他	3

- ※その他
- ・本のPOP広場参加
 - ・読んだ本の感想を書かせて提出させている。
 - ・ビブリオバトルに参加 読書ノートに記載

7. 子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと（複数回答可）

ア. 蔵書の更新・充実	10
イ. 学校図書館の読書環境の改善・充実	7
ウ. 学校図書館の年間指導計画の策定	2
エ. 図書時間の充実	3
オ. 本の読み聞かせや本の紹介等の充実	5
カ. その他	0

8. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	6
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	2
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	4
エ. 障がいのある子どもの支援	5
オ. 学校・幼稚園・保育園等への支援	4
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	3
キ. 図書館からの情報発信	5
ク. その他	0

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（高校）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可） 高校 回答数3/5校（公立2/3校 私立1/2校）

【学年別の生徒数】

高校	1年	2年	3年	計
合計	648	735	740	2,123

※回答校分記載

所蔵冊数

ア. 1～10,000冊	0
イ. ～20,000冊	1
ウ. ～30,000冊	2
エ. ～40000冊	0
合計	3

購入冊数

ア. 1～300冊	2
イ. ～400冊	1
ウ. ～500冊	0
合計	3

1. 授業時間以外で学校図書館について該当するもの

開館日数

ア. 週5日	3
イ. 週4日	0
ウ. 週3日	0
エ. 週2日	0
オ. 週1日	0
カ. ※その他	0

時間帯

ア. 全日開館	0
イ. 朝・始業時間前	0
ウ. 授業間の休み時間	0
エ. 昼休み	3
オ. 放課後	3
カ. ※その他	0

2. 授業中の学校図書館の利用状況（複数回答可）

教科

ア. 国語（図書的时间含む）	0	ケ. 保健体育	1
イ. 理科	0	コ. 音楽	0
ウ. 社会	0	サ. すべての教科	0
エ. 数学	0	シ. ※その他	3
オ. 英語	0	※その他	
カ. 美術	0	・総合的な探求の時間	
キ. 技術・家庭	1	・共生の授業	
ク. 書道	0		

頻度

ア. 毎日	0
イ. 週2～3回程度	1
ウ. 週1回	1
エ. 隔週程度	0
オ. 学期に数回程度	0
カ. 学期に1回	0
キ. ※その他	1

※その他 ・ほとんどない

活用内容

ア. 学校図書館に移動して授業をする	2
イ. 教室で学校図書館の本を利用する	0
ウ. 学校図書館担当者に本の紹介をしてもらう	0
エ. ※その他	1

※その他 ・ない

3. 「朝の読書」など一斉読書の時間を設けているか

ア・設けている 1校⇒Aへ イ・設けていない 2校⇒質問4へ

A. 「朝の読書」等の実施状況について（複数回答可）

頻度

ア. 毎朝	1
イ. 週4回	0
ウ. 週3回	0
エ. 週2回	0
オ. 週1回	0
カ. その他	0

本の準備

ア. 自宅から持参	1
イ. 学級文庫の本	1
ウ. 学校図書館の本	1
エ. 公共図書館の本	0
オ. 学年で用意	0
カ. 図書館予算とは別枠で購入	0
キ. その他	0

効果

ア. 読書習慣の定着	1
イ. 読書が好きになる	0
ウ. 読書量の増加	1
エ. 1時限目の授業の開始に効果	1
オ. その他	0

4. 子どもの読書活動に関連してボランティア（保護者を含む）の活用があるか

ア・ある 1校⇒Aへ イ・ない 2校⇒質問5へ

A. ある場合の活動内容

- ・NPOに委託して職員を派遣していただいている。

5. 上記以外で子どもの読書に関する取り組み（複数回答可）

ア. 新入生オリエンテーション	2
イ. 読書甲子園に参加	0
ウ. 秋の読書週間	1
エ. 夏休み特別貸出	1
オ. 「帯とん」コンテスト～あなたが作った帯で本をおすすめしよう～に参加	0
カ. 青少年読書感想文全国コンクールに参加	1
キ. ※その他	2

※その他 ・図書委員に本の紹介POP を書いてもらっている。

・ビブリオバトルに参加。 読書ノートに記録。

6. 子どもの読書環境をよくするために貴校で取り組みたいこと（複数回答可）

ア. 蔵書の更新・充実	3
イ. 学校図書館の読書環境の改善・充実	2
ウ. 学校図書館の年間指導計画の策定	0
エ. 図書時間の充実	0
オ. 本の読み聞かせや本の紹介等の充実	0
カ. その他	0

7. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	1
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	1
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	0
エ. 障がいのある子どもの支援	0
オ. 学校・幼稚園・保育園等への支援	0
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	0
キ. 図書館からの情報発信	2
ク. その他	0

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（府立富田林支援学校）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可）

1. 学部別の児童・生徒数

学部	小学部	中学部	高等部	計
合計	83	124	149	356

2. 貴校で所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数 約2,000冊 年間購入冊数 約20冊

3. 市立図書館の団体貸出の利用

ア. 利用あり⇒(A)	0
イ. 利用なし⇒(B)	1
合計	1

(B) 利用されていない理由

ア. 団体貸出を知らない	1
イ. 図書館が遠い	1
ウ. 行く機会（余裕）がない	0
エ. 紛失や破損が心配	1
オ. 学校にある本で十分	0
カ. その他	0

4. 貴校の本の活用方法（複数回答可）

ア. 授業の教材として使用	1
イ. 行事の題材として活用	0
ウ. 日常の遊びなどに取り入れている	0
エ. 児童・生徒に自由に読ませている	0
オ. 子どもや保護者に貸出している	1
カ. ※その他	1
キ. 特になし	0

※その他 ひとり3冊まで14日間貸出

5. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施

ア・ある⇒Aへ

A. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. ボランティア（保護者）	1
イ. ボランティア（保護者以外）	0
ウ. その他	0

頻度

ア. 月1～2回	0
イ. 2か月に1回	0
ウ. 各学期に1回（年間3回）	1
エ. 年間2回	0
オ. 年間1回	0
カ. その他	0

時間帯

ア. 午前中	0
イ. 午後	0
ウ. 特に決まっていない	0
エ. ※その他	1

※その他 昼休み

6. 子どもの読書に関して富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 団体貸出の充実	0
イ. 定期的に配本をして欲しい	0
ウ. 本や教育についての情報提供	1
エ. 児童書の充実	0
オ. 子どもや保護者向けの行事の充実	0
カ. 寄贈本・リサイクル本の譲渡	1
キ. その他	0

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（児童館）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可）

1. 所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数 2,232冊 年間購入冊数 4冊

2. 市立図書館の団体貸出の利用

ア・利用している ⇒A^

イ・利用していない ⇒B^

A. 利用されている場合

- ・読み聞かせを実施していただけたら嬉しいです。

3. 施設での読み聞かせの頻度について

頻度

ア. 毎日	0
イ. 週2～3回	1
ウ. 週1回	0
エ. 月2～3回	0
オ. その他	0

4. 読み聞かせ以外で本の活用方法（複数回答可）

ア. 子どもが自由に見て楽しむ	1
イ. 工作や折り紙、あやとり、絵画活動など教本の活用	0
ウ. ごっこ遊び、表現遊びなどの遊びに活用	0
エ. 観察や飼育、栽培などに活用	0
オ. 季節の行事に活用	0
カ. その他	0

5. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施

ア・ある⇒A△

A. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. 富田林おはなしの会	0
イ. ボランティア（保護者）	0
ウ. ボランティア（保護者以外）	1
エ. その他	0

頻度

ア. 月1～2回	0
イ. 2か月に1回	1
ウ. 年3～4回	0
エ. 年1～2回	0
オ. その他	0

時間帯

ア. 午前中	0
イ. 午後	0
ウ. 特に決まっていない	1
エ. その他	0

6. 子どもの読書に関する行事等の開催について

ア. 子どもや保護者に本の貸出	1
イ. 誕生会や季節の行事での読み聞かせ	1
ウ. 保護者向けの子育て講座などの実施	1
エ. その他	0

7. 子どもの読書環境をよくするために貴施設で取り組みたいこと（複数回答可）

ア. 本棚を設置して子どもが図書に触れ合う環境を整える	1
イ. 施設内の図書を充実させる	0
ウ. 保護者に絵本の読み聞かせの大切さについて啓発する	0
エ. 子どもや保護者への本の貸出	1
オ. 子どもに絵本の読み聞かせの機会をふやす	1
カ. その他	0

8. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	1
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	0
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	0
エ. 障がいのある子どもの支援	0
オ. 学校・幼稚園・保育園等への支援	0
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	1
キ. 図書館からの情報発信	1
ク. その他	0

第3次子ども読書活動推進計画にかかる調査（学童クラブ）

令和3年度実績調査（令和2年度でも可）

学童クラブ 回答数 31/31クラブ 在籍数 1,002人

1. 所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数

所蔵冊数	学童クラブ数
ア. 1~100冊	5
イ. ~200冊	8
ウ. ~300冊	6
エ. ~400冊	4
オ. ~500冊	1
カ. 501冊以上	3
キ. 不明	3
合計	30

※2学童クラブ合同回答あり

年間購入冊数

購入冊数	学童クラブ数
ア. 0冊	9
イ. 1~10冊	10
ウ. ~20冊	6
エ. ~30冊	2
オ. ~40冊	2
カ. ~50冊	1
キ. 51冊以上	0
無回答	0
合計	30

※2学童クラブ合同回答あり

2. 市立図書館の団体貸出の利用

ア. 利用あり⇒(A)	26
イ. 利用なし⇒(B)	3
無回答	1
合計	30

※2学童クラブ合同回答あり

A. 利用されている場合

使いにくい点や改善してほしい点があれば、ご記入ください。

- ・同じ本がよく来ている印象 破れた本が多いので修理等をお願いします。
- ・紙芝居を子ども向けにしてほしい。 夏休みは貸出数を増やしてほしい。
- ・大型絵本は頼んだ時だけ配本してほしい。
- ・最初から破れている本が多いのでチェックしてほしい。 動物や昆虫等の図鑑をもっと増やしてほしい。

- ・人気のある本のページが取られてしまっているため、子どもたちに読んであげられず預かってしまうことがあり、残念。
- ・子どもが興味を持てる本が少ない。
- ・夏休みや冬休みなどの長期休み前の配本、子どもに合った本を入れてほしい。
- ・配本されてくる本が高学年も多い学童なので幼い。
- ・配本日を固定で決めていただきたい。

B. 利用されていない場合

利用されていない理由をご記入ください。

- ・以前に利用した際に子どもたちの反応が悪く、現在に至っても本の関心が薄い子が多いため。
- ・読まないから。
- ・本が混ざってしまう。 破損した場合に困るから。

3. 先生による読み聞かせをされていますか

ア・している 12 クラブ⇒A△

イ・していない 17 クラブ⇒B△

無回答 1 クラブ

A. 先生による読み聞かせの頻度

ア. 毎日	0
イ. 週3～4回	1
ウ. 月2～3回	2
エ. 長期休み期間のみ	5
オ. ※その他	4

※その他 ・時々

- ・子どもの人数、様子、下校スケジュール等に合わせて
- ・長期休み及び時間のある日
- ・行事の時（七夕やハロウィン等）【2クラブ】

B. していない理由

- ・子どもたちが自主的に読んでくれているので。 【8クラブ】
- ・時間があまりない。 【4クラブ】

- ・時間的タイミングが取りにくい。夏休みの休憩タイムの時にチャレンジしてみようと相談します。
- ・子どもたちが読みたがるし、読むことも良いことと考えている。
- ・できる環境でない。
- ・子どもたちが交代で紙芝居を読んでくれるから。
- ・終りの会の担当者が紙芝居や絵本を読み聞かせている。

4. 読み聞かせ以外での本の活用方法について（複数回答可）

ア. 子どもが自由に見て楽しむ	27
イ. 工作や折り紙、あやとり、絵画活動などの教本に活用	28
ウ. ごっこ遊び、表現遊びなど遊びに活用	3
エ. 観察や飼育、栽培などに活用	10
オ. ※その他	3

※その他 ・落ち着いて座るために。

- ・自主的に使っている本を見ながら絵を描く。
- ・宿題などで活用している。

5. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施

ア・ある 5クラブ⇒Aへ

イ・ない 25クラブ⇒質問6へ

A. 保護者やボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア. 富田林おはなしの会	2
イ. ボランティア（保護者）	1
ウ. ボランティア（保護者以外）	2
エ. その他	0

頻度

ア. 年に1回	3
イ. 年に2回	0
ウ. 年に3回（各学期に1回）	0
エ. ※その他	1
無回答	1

※その他

- ・コロナの前は2か月毎に読み聞かせに来てもらっていたが、現在は中止になっています。

6. 子どもの読書環境をよくするために貴クラブで取り組みたいことについて（複数回答可）

ア. 本棚を設置して児童が図書と触れ合える環境を整える	10
イ. 学童クラブの図書を充実させる	21
ウ. 保護者に絵本の読み聞かせの大切さについて啓発する	2
エ. 子どもや保護者への絵本の貸出	0
オ. 児童に絵本の読み聞かせの機会を増やす	13
カ. ※その他	3

- ※その他
- ・子どもたちが集中して本を読める時間をつくる。
 - ・今年度本棚を保護者会で購入してもらいました。
 - ・毎日少しでも本を読む時間を設けている。

7. 子どもの読書活動推進のために富田林市立図書館に望むこと（複数回答可）

ア. 子ども向けの資料の整備・充実	15
イ. レファレンス・読書相談への対応の充実	0
ウ. 外国にルーツのある子どもの支援	4
エ. 障がいのある子どもの支援	2
オ. 学校・幼稚園・保育園等への支援	4
カ. 子ども読書ボランティアの育成と人材活用	4
キ. 図書館からの情報発信	6
ク. ※その他	3

- ※その他
- ・読み聞かせを巡回で各学童に来てもらいたい。
 - ・子どもたちへのアンケートなどもとってもらいたい。
 - ・学童に来ておはなし会をして欲しい。

こども読書アンケート(R4)

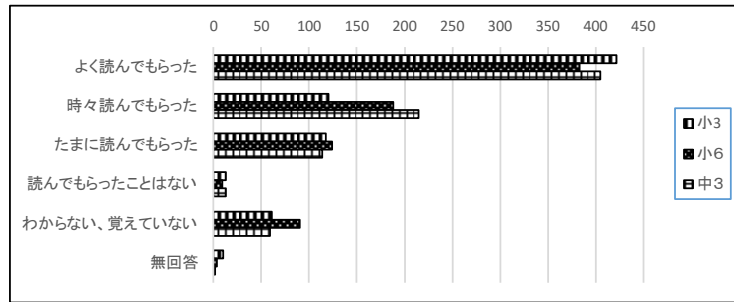
小学校17校 【小3:743名・小6:797名】 中学校11校 【中3:807名】

※回答率 小3 92.9%/小6 90.2%/中3 74.7%

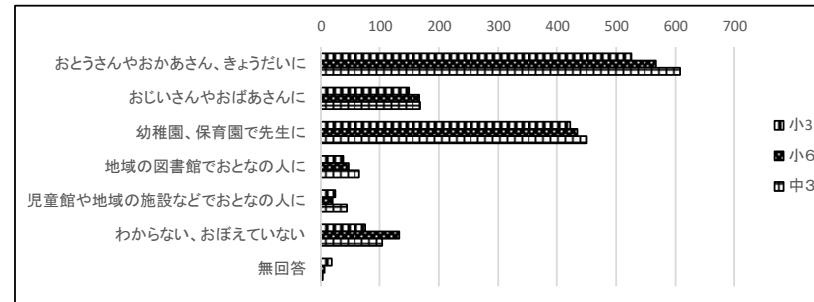
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
1	あなたは小さい頃、絵本や本を読んでもらいましたか。		よく読んでもらった	時々読んでもらった	たまに読んでもらった	読んでもらったことはない	わからない、覚えていない	無回答		
		小3	422	120	117	13	61	10		
		小6	383	188	124	9	90	3		
		中3	405	215	114	13	59	1		
2	それは、だれに読んでもらいましたか。(いくつでも)		おとうさんやおかあさん、きょうだいに	おじいさんやおばあさんに	幼稚園、保育園で先生に	地域の図書館でおとなの人に	児童館や地域の施設などでおとなの人に	わからない、おぼえていない	無回答	
		小3	526	150	422	39	24	75	18	
		小6	567	167	434	47	20	133	6	
		中3	608	168	450	64	44	104	3	
3	読書が好きですか。		好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない	無回答			
		小3	429	217	38	47	12			
		小6	307	309	94	83	4			
		中3	265	294	157	90	1			
3a	「好きではない」を選んだ人は教えてください。それはなぜですか。		文字を読むのが嫌い	つまらない	めんどくさい	忙しい	読みたい本がわからない	他に好きなことがある	その他	無回答
		小3	41	10	11	10	22	29	15	0
		小6	55	32	33	10	26	55	7	1
		中3	65	59	71	23	47	73	2	0
4	この6月中で何冊ぐらい本を読みましたか。(教科書・マンガ・雑誌以外で)		0冊	1～3冊	4～6冊	7～9冊	10冊以上	無回答		
		小3	14	93	126	120	376	14		
		小6	77	292	197	80	150	1		
		中3	174	507	61	23	40	2		
5	あなたは主にどんなものを読みますか。(3つまで)		えほん	小説や物語	伝記や歴史	科学の本	スポーツや趣味の本	(学習)マンガ	ゲームの本	
		小3	357	297	109	155	189	362	160	
		小6	155	527	184	98	188	462	131	
		中3	58	600	93	65	196	462	63	
6	読みたい本はどのようにして手に入れますか。(いくつでも)(教科書・マンガ・雑誌以外で)		学校図書館や学級文庫で借りる	市の図書館で借りる	友達に借りる	買う	わからない	無回答		
		小3	404	228	83	389	63			
		小6	553	235	85	507	34			
		中3	274	158	126	646	37			

7	あなたは自分の読む本をどのようにして選んでいますか。(教科書・マンガ・雑誌以外で)		自分で選ぶ	先生のすすめで	家族のすすめで	友達のすすめで	その他	無回答		
		小3	665	12	29	20		17		
		小6	711	8	21	50		7		
8	あなたは授業以外で学校図書館をどのくらい利用したことがありますか。		週1回くらい	月1回くらい	半年に1回くらい	年に1回くらい	利用したことはない	無回答		
		小3	359	125	45	64	141	9		
		小6	265	192	102	99	134	5		
8a	「利用したことはない」を選んだ人だけ教えてください なぜ利用したことがないのですか(いくつでも)		本を読みたくない	読みたい本がない	他の遊びをしたい	習い事や塾や部活や委員会がある	その他	無回答		
		小3	14	42	60	11	76	3		
		小6	29	54	82	18	33	0		
9	授業以外で学校図書館を利用したことがある人だけ教えてください。あなたは授業以外で学校図書館をなんのために利用しましたか。(いくつでも)		調べものをするため	本を借りるため	本を読むため	友達とおしゃべりするため	学校図書館の先生がいるから	わからない覚えていない		
		小3	211	273	383	19	41	45		
		小6	158	397	409	31	28	42		
10	あなたは市の図書館をどのくらい利用しますか。		週1回くらい	月1回くらい	半年に1回くらい	年に1回くらい	利用しない	無回答		
		小3	170	135	103	121	200	14		
		小6	42	125	127	176	321	6		
10a	「利用しない」を選んだ人だけ教えてください それはなぜですか(いくつでも)		本を読みたくない	図書館が遠い	本の借り方がわからない	家に本がある	友達に借りる	時間がない	その他	無回答
		小3	18	69	15	82	7	76	53	2
		小6	53	130	38	115	17	143	77	2
11	パソコンやスマホ、タブレットで、物語やマンガなどを読んだことがありますか		よく読む	ときどき読む	読まない	無回答				
		小3	122	201	408	12				
		小6	153	217	423	4				
12	「よく読む」「ときどき読む」と答えた人だけ教えてください パソコンやスマホなどでの読書のほかに、本(活字の本)も読みますか		両方読む	本(活字の本)は読まない						
		小3	286	69						
		小6	261	126						
		中3	355	218						

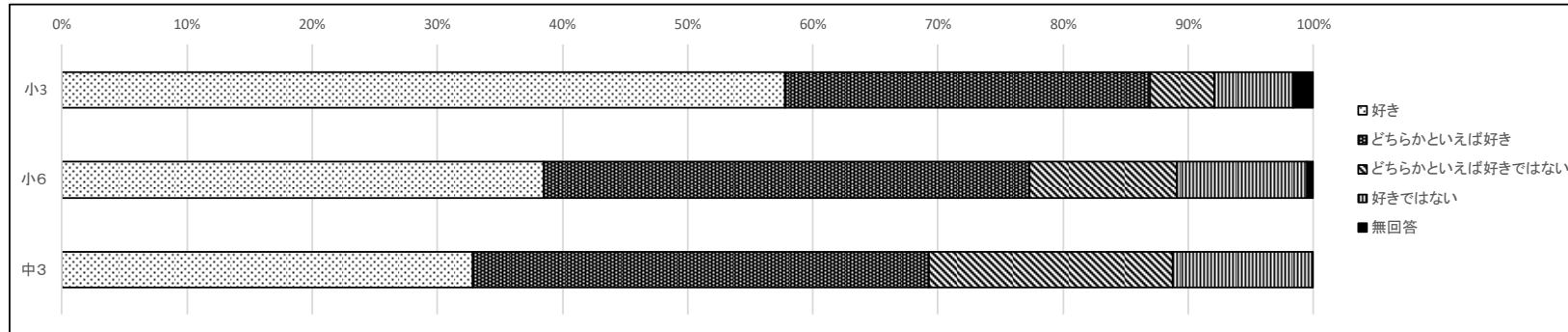
1. あなたは小さい頃、絵本や本を読んでもらいましたか。



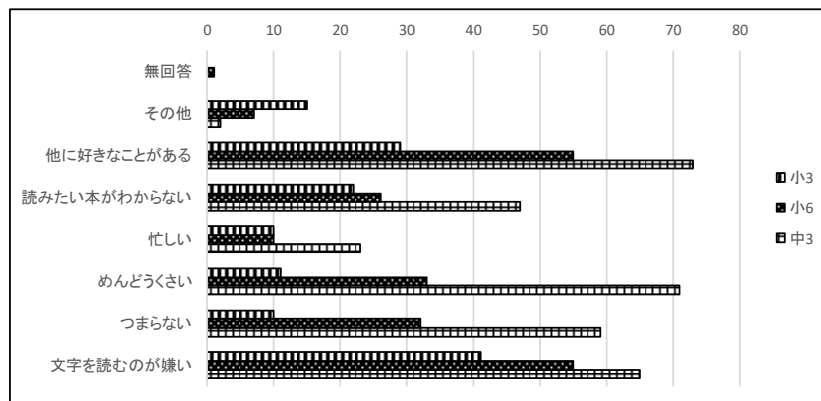
2. それは、だれに読んでもらいましたか。



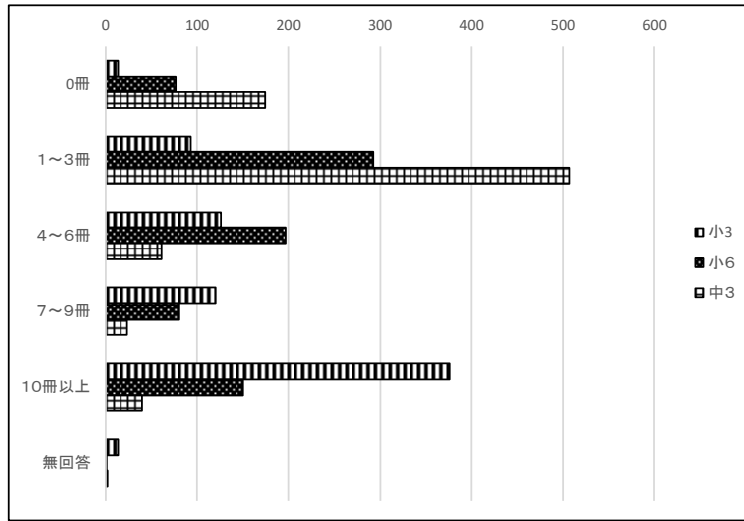
3. 読書が好きですか。



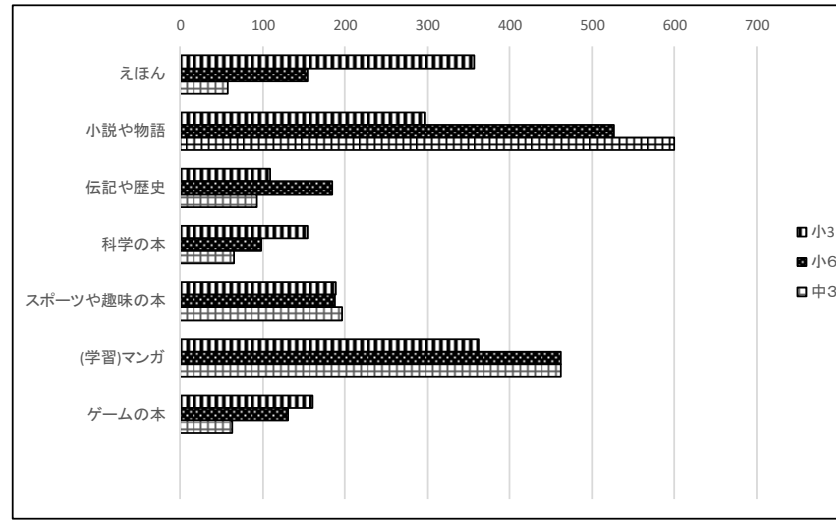
3-a 「好きではない」を選んだ人は教えてください。それはなぜですか。



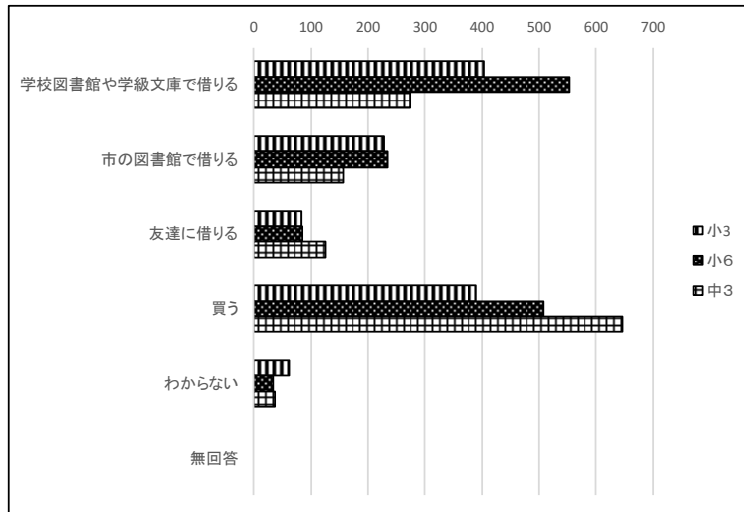
4. この6月中で何冊くらい本を読みましたか。(教科書・マンガ・雑誌以外)



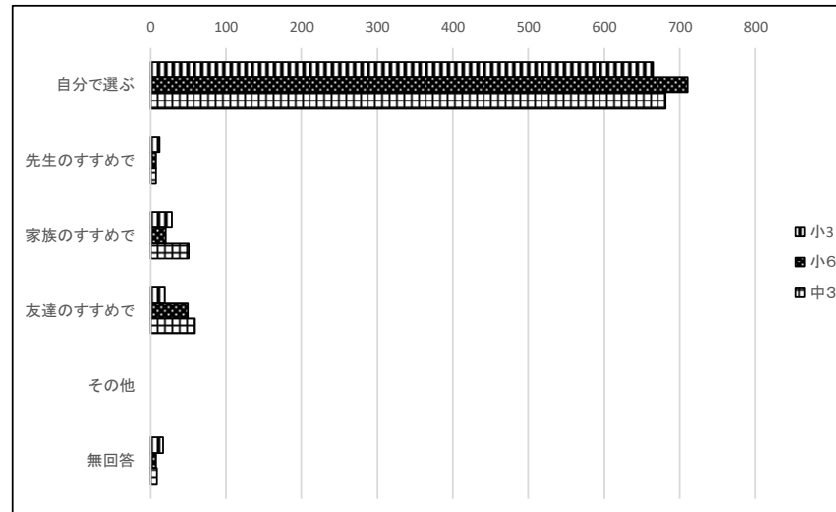
5. あなたは主にどんなものを読みますか。(3つまで)



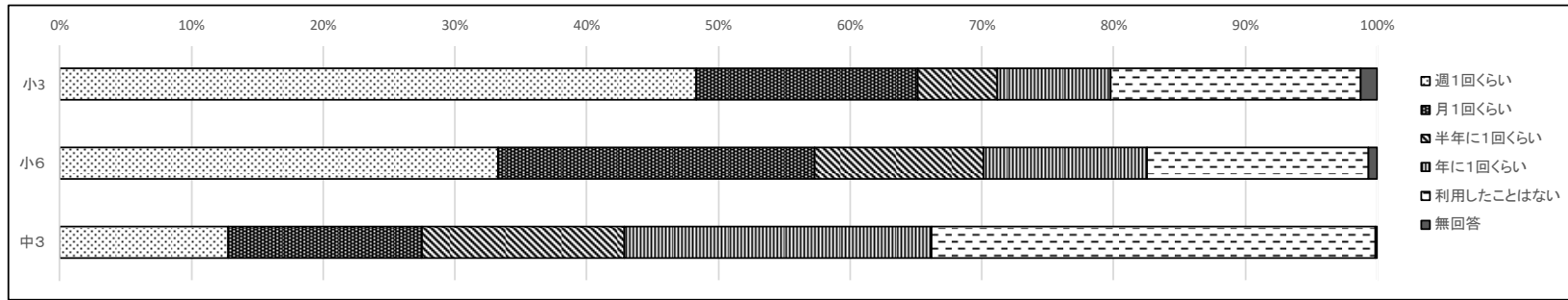
6. 読みたい本はどのようにして手に入れますか。(いくつでも)(教科書・マンガ・雑誌以外)



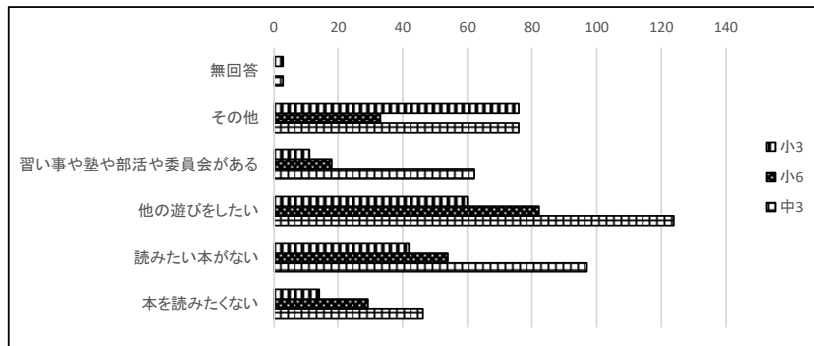
7. あなたは自分の読む本をどのようにして選んでいますか。(教科書・マンガ・雑誌以外)



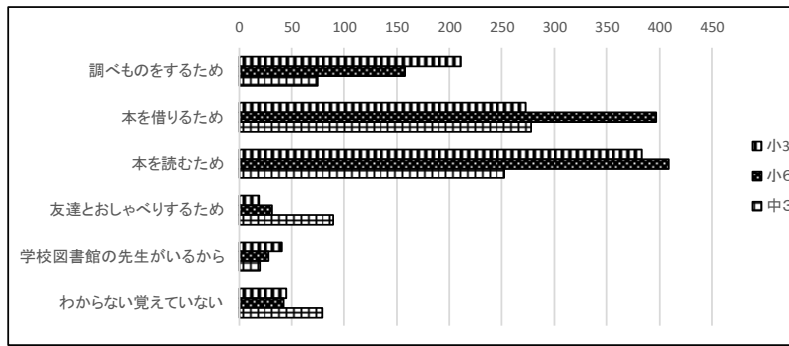
8. あなたは授業以外で学校図書館をどのくらい利用したことがありますか。



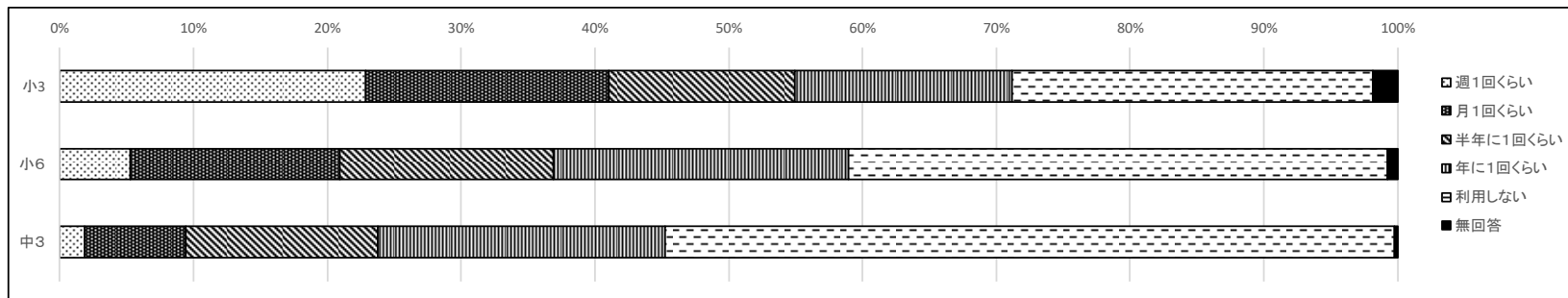
8-a 「利用したことはない」を選んだ人だけ答えてください。
なぜ利用したことがないのですか。(いくつでも)



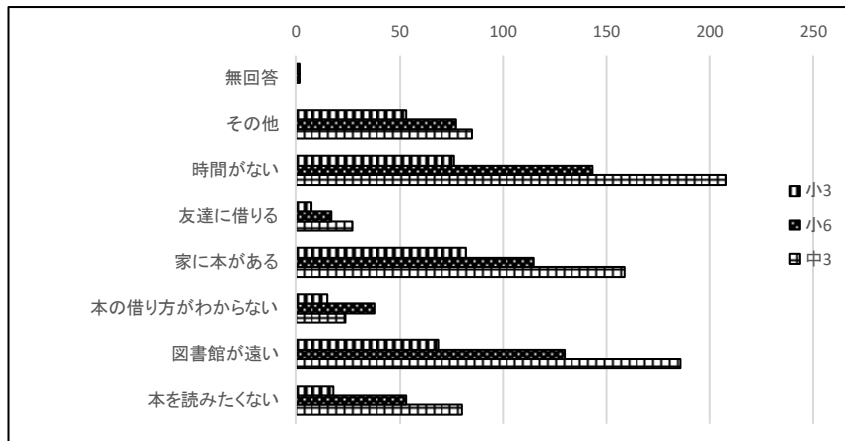
9. 授業以外で学校図書館を利用したことがある人だけ答えてください。
あなたは授業以外で学校図書館をなんのために利用しましたか。(いくつでも)



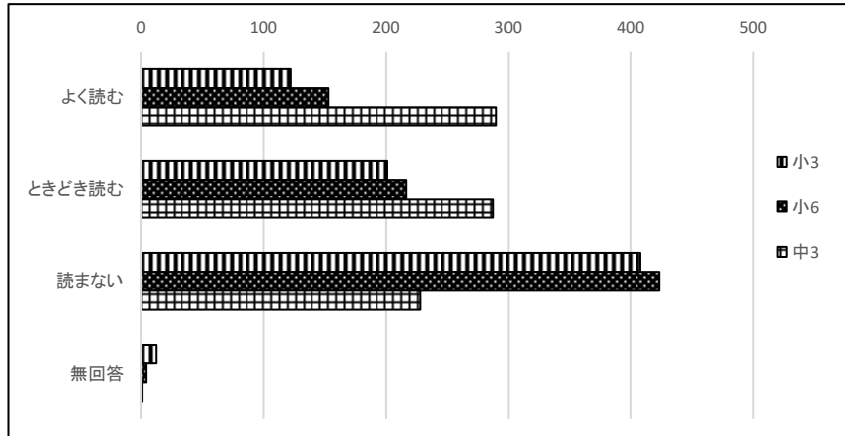
10. あなたは市立図書館をどのくらい利用しますか。



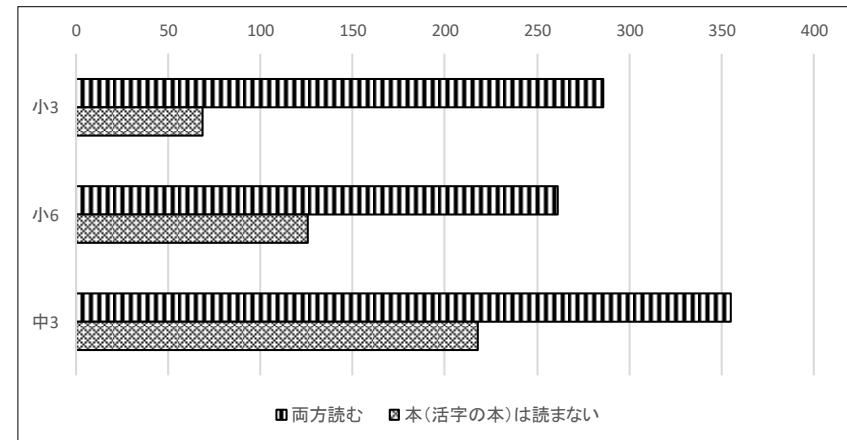
10-a「利用しない」を選んだ人だけ教えてください。それはなぜですか(いくつでも)。



11. パソコンやスマホ、タブレットで、物語やマンガなどを読んだことがありますか。



12. パソコンやスマホなどでの読書のほかに、本(活字の本)も読みますか。
問11で「よく読む」「ときどき読む」と答えた人だけ教えてください。

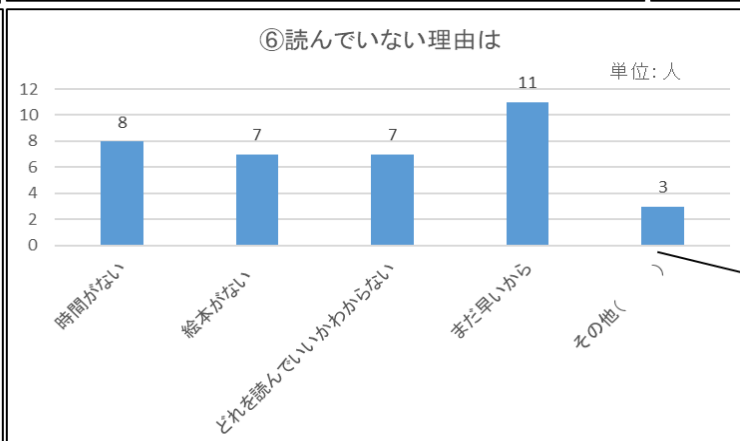
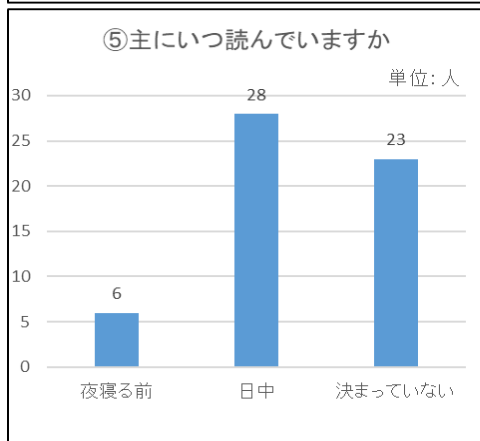
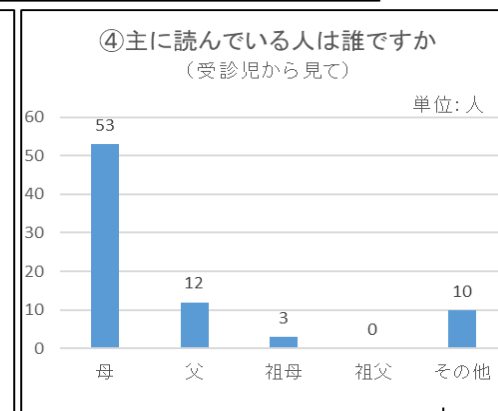
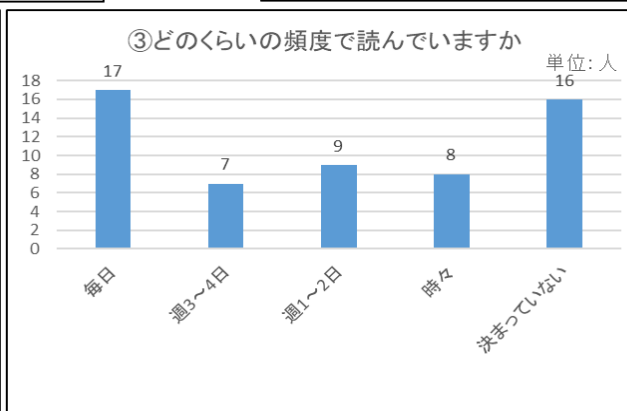
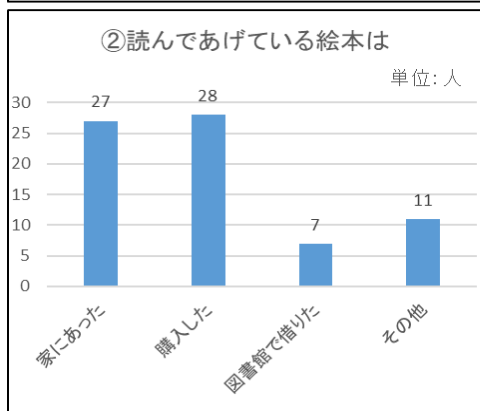
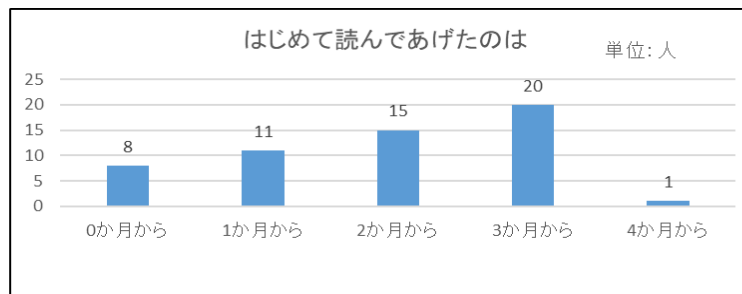
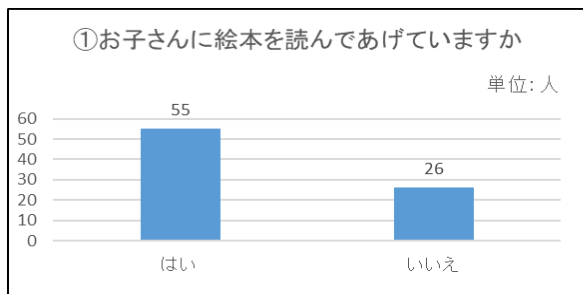


4 か月児健診アンケート

①	お子さんに絵本を読んであげていますか	はい	いいえ	無回答			
		55	26	-			
	はじめて読んであげたのは	0 か月から	1 か月から	2 か月から	3 か月から	4 か月から	
		8	11	15	20	1	
②	読んであげている絵本は	家にあった	購入した	図書館で借りた	その他		もらった 9 / サンプル 1
		27	28	7	11		ネットで応募して貰ったもの 1
③	どのくらいの頻度で読んでいますか	毎日	週 3~4 日	週 1~2 日	時々	決まっていない	
		17	7	9	8	16	
④	主に読んでいる人は誰ですか(受診児から見て)	母	父	祖母	祖父	その他	姉 4 兄・姉 3
		53	12	3	0	10	兄 3
⑤	主にいつ読んでいますか	夜寝る前	日中	決まっていない			
		6	28	23			
⑥	読んでいない理由は	時間がない	絵本がない	どれを読んでいいかわからない	まだ早いから	その他()	タイミングがわからない
		8	7	7	11	3	忘れていた/特に理由なし

⑦ その他、絵本や読み聞かせについてご質問やご意見があればご記入ください。

- ・特にありません。
- ・今は機嫌が悪くなった時に読んでいます。(喜ぶけど読み終わると泣くので) どういうタイミングで読んであげるのがいいのか、また、寝かしつけにオススメの本が知りたいです。
- ・月齢別のおすすめの本(選び方・その理由(発達の観点から)読み方(どんな風に、何を引き出してあげるのか等)が知れたら、“なんとなく”が理論的になり、より絵本を読んであげたくなるのではないかと思います。)
- ・絵本が数冊あるが、同じ絵本を読み聞かせるほうがいいのかローテーションで読み聞かせた方がいいのかよくわからないので、教えて欲しい。
- ・月齢が低い子に読ませると喜ぶ本が知りたい。



姉: 4人
兄: 3人
姉・兄: 3人

・タイミングがわからない
・忘れていた
・理由はない

子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）

（目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に

関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附則

この法律は、公布の日から施行する。

○ 衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

一 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。

二 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。

三 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実を努めること。

四 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。

五 子どもへの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。

六 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重する。

第3次富田林市子ども読書活動推進計画策定までの経過

日時	内容
令和4年6月29日	「第1回子ども読書活動推進計画策定委員会」 ・ 委嘱状交付 ・ 委員長・副委員長選出 ・ 庁内各課へのアンケートについて ・ 第3次子ども読書活動推進計画のスケジュールについて ・ 施設及び子どもへのアンケート実施について
令和4年7月1日～ 7月31日	施設及び子どもへのアンケート実施
令和4年10月27日	「教育委員会10月定例会議」 ・ 子ども読書活動推進計画素案について中間報告
令和4年11月2日	「第2回子ども読書活動推進計画策定委員会」 ・ 子ども読書活動推進計画素案及びアンケート結果について
令和4年11月9日	「第2回図書館協議会」 ・ 子ども読書活動推進計画素案及びアンケート結果について
令和5年1月4日～ 1月31日	パブリックコメント実施
令和5年2月8日	「第3回子ども読書活動推進計画策定委員会」 ・ 子ども読書活動推進計画最終（案）について ・ パブリックコメント報告について
令和5年3月16日	「第2回社会教育委員会議」 ・ 子ども読書活動推進計画（案）について
令和5年3月23日	「教育委員会3月定例会議」 ・ 子ども読書活動推進計画（案）について

第3次子ども読書活動推進計画策定委員名簿

任期 令和4年6月～計画策定まで

区分	氏名	備考	
図書館協議会代表	松井 純子	図書館協議会委員長	
市民委員代表	藤井 郁子	富田林子ども文庫連絡会代表	
	新熊 一史	PTA 代表	
識見を有する者	木下 みゆき	大阪大谷大学	
関係機関代表	澤口 雅彦	校長会代表	
	石田 安志	幼稚園長会代表	
	重野 文子	保育園長会代表	
行政関係者	南 総典	健康推進部	健康づくり推進課長
	森 正幹	子育て福祉部	こども未来室参事
	増井 宏次		児童館長
	木下 治彦	教育総務部	教育総務課長
	和田 剛	教育指導室	教育指導室次長
	坂本 篤史	生涯学習部	生涯学習課長
	山本 一夫		中央図書館長
	道籬 秀		金剛図書館長

発行年月 : 令和5年(2023年)3月

発行・編集: 富田林市教育委員会 生涯学習部 中央図書館

〒584-0093 富田林市本町16番28号

TEL 0721-25-4921

FAX 0721-25-4932

<http://www.city.tondabayashi.lg.jp/site/library/>